

## 第2章

# 救急活動統計

第1節 救急出場件数

第2節 救護人員

第3節 救急処置

第4節 事故種別ごとの活動統計



# 第1節 救急出場件数

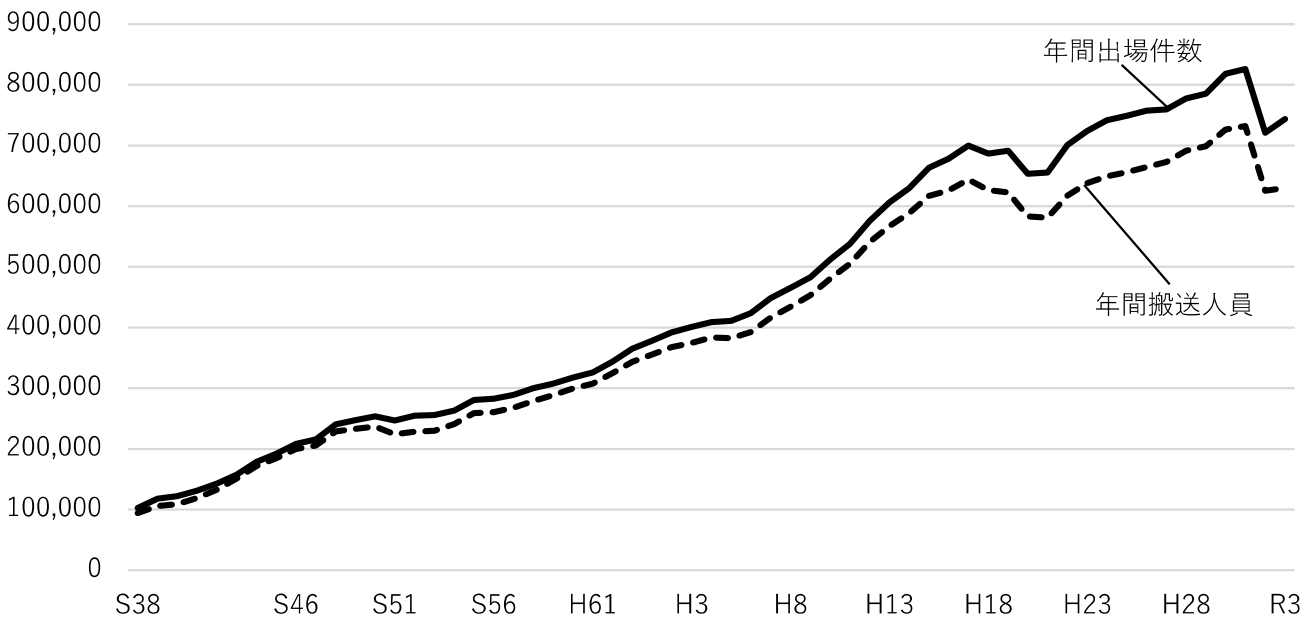
## 1 救急業務法制化以降の推移

### (1) 出場件数・搬送人員・救急隊数の推移

救急出場件数は、救急業務が法制化された昭和38年(1963年)の102,660件から令和3年(2021年)には743,703件となり、58年間で約7.2倍の増加となっています。

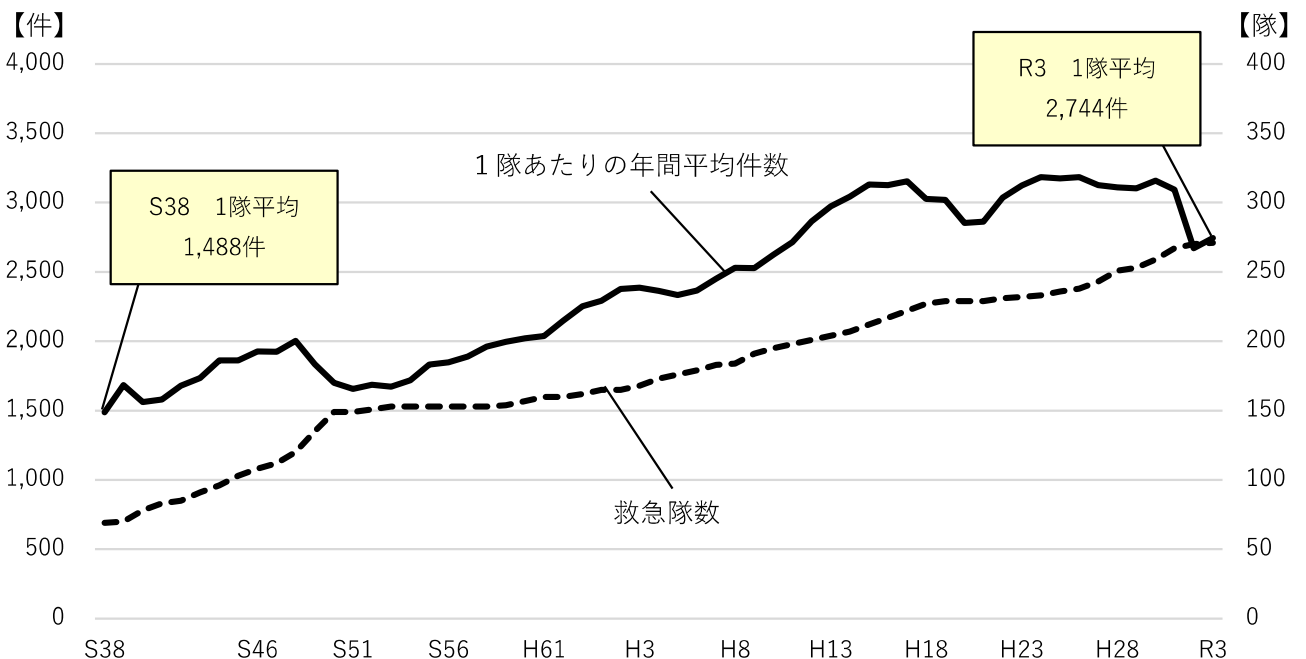
同じく救急隊数の推移は、69隊から271隊と約3.9倍の増加で、1隊あたりの年間平均出場件数は1,488件から2,744件と約1.8倍の増加となっています。

図表 2-1-1 救急業務法制化以降の救急出場件数・搬送人員の推移



S38～S50は搬送人員のデータがないため「救護人員」として扱っています。

図表 2-1-2 救急隊数及び1隊あたり年間平均出場件数の推移



図表 2-1-3 救急出場件数等の推移（年次別）

年次	出場件数	搬送人員	隊数	年次	出場件数	搬送人員	隊数
昭和 11 年	1,022	837	6	昭和 55 年	280,395	258,860	153
昭和 12 年	1,736	1,307	6	昭和 56 年	282,886	260,399	153
昭和 13 年	1,937	1,528	6	昭和 57 年	289,090	267,804	153
昭和 14 年	2,206	1,922	6	昭和 58 年	300,299	279,163	153
昭和 15 年	2,161	1,834	6	昭和 59 年	307,420	288,735	154
昭和 16 年	2,208	1,787	6	昭和 60 年	317,375	299,590	157
昭和 17 年	1,330	1,298	7	昭和 61 年	325,931	307,560	160
昭和 18 年	1,220	1,185	7	昭和 62 年	343,951	324,981	160
昭和 19 年	962	881	7	昭和 63 年	364,902	343,312	162
昭和 20 年	245	239	3	平成元年	378,205	355,654	165
昭和 21 年	1,231	1,199	18	平成 2 年	392,200	367,848	165
昭和 22 年	2,897	2,660	19	平成 3 年	401,104	374,616	168
昭和 23 年	3,089	2,722	17	平成 4 年	408,864	383,550	173
昭和 24 年	3,967	3,608	17	平成 5 年	410,828	382,410	176
昭和 25 年	7,846	7,534	19	平成 6 年	423,584	392,423	179
昭和 26 年	10,108	9,267	23	平成 7 年	448,450	416,173	183
昭和 27 年	10,747	9,684	23	平成 8 年	465,548	434,206	184
昭和 28 年	12,475	10,985	25	平成 9 年	482,612	453,004	191
昭和 29 年	15,665	13,465	25	平成 10 年	511,892	480,139	195
昭和 30 年	19,159	16,075	25	平成 11 年	537,416	504,675	198
昭和 31 年	25,320	21,350	25	平成 12 年	575,690	540,660	201
昭和 32 年	33,478	28,691	30	平成 13 年	606,695	567,451	204
昭和 33 年	44,120	37,882	39	平成 14 年	629,883	588,502	207
昭和 34 年	54,968	47,459	49	平成 15 年	663,765	616,996	212
昭和 35 年	70,206	62,905	57	平成 16 年	678,178	626,231	217
昭和 36 年	80,468	73,088	62	平成 17 年	699,971	643,849	222
昭和 37 年	87,432	80,568	66	平成 18 年	686,801	626,543	227
昭和 38 年	102,660	94,095	69	平成 19 年	691,549	623,012	229
昭和 39 年	117,948	105,439	70	平成 20 年	653,260	583,082	229
昭和 40 年	121,865	108,974	78	平成 21 年	655,631	581,358	229
昭和 41 年	131,160	118,774	83	平成 22 年	700,981	617,819	231
昭和 42 年	142,710	132,368	85	平成 23 年	724,436	638,093	232
昭和 43 年	157,832	150,972	91	平成 24 年	741,702	649,429	233
昭和 44 年	178,828	171,937	96	平成 25 年	749,032	655,925	236
昭和 45 年	191,890	184,420	103	平成 26 年	757,554	664,629	238
昭和 46 年	208,155	199,965	108	平成 27 年	759,802	673,145	243
昭和 47 年	215,621	205,896	112	平成 28 年	777,382	691,423	251
昭和 48 年	240,419	229,059	120	平成 29 年	785,184	698,928	253
昭和 49 年	247,559	232,993	135	平成 30 年	818,062	726,428	259
昭和 50 年	253,476	236,859	149	令和元年	825,929	731,900	267
昭和 51 年	246,682	224,291	149	令和 2 年	720,965	625,639	270
昭和 52 年	254,709	228,289	151	令和 3 年	743,703	630,287	271
昭和 53 年	255,853	230,109	153	総数	27,147,818	24,713,767	-
昭和 54 年	263,141	240,936	153				

※ 昭和 11 年～昭和 50 年は搬送人員のデータがないため救護人員としています。

※ 隊数は各年 12 月 31 日現在の数を示しています。

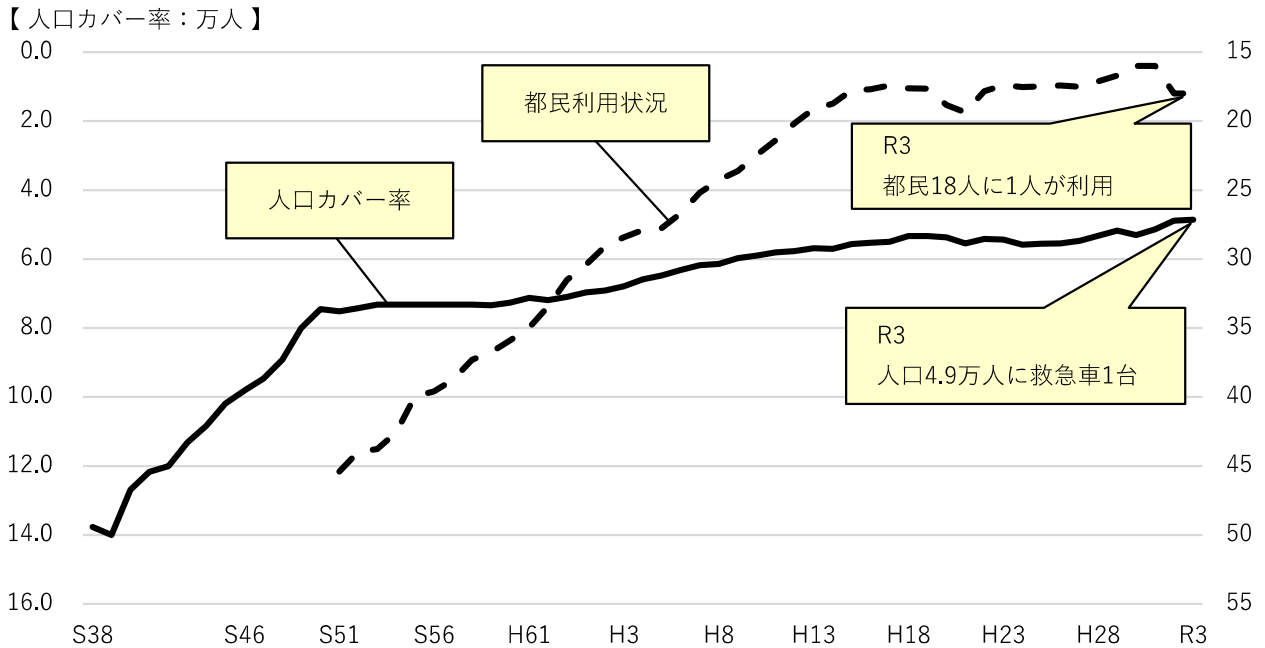
(2) 救急隊1隊あたりの人口カバー率と救急車利用状況の推移

救急隊1隊がカバーする人口割合（人口カバー率）は、昭和52年当時は人口約7.5万人に1隊でしたが、令和3年には約4.9万人に1隊となりました。

一方、同年での比較における都民の救急車の利用状況は、都民45人に1人の利用であったものが、18人に1人の利用となっています。

これは、都民の救急車利用頻度の上昇が救急隊の人口カバー率の上昇を上回っていることを示しています。

図表 2-1-4 救急隊1隊あたりの人口カバー率と都民の救急車利用状況の推移



※ 都民の救急車利用状況のデータについては、昭和51年以降のデータを表示しています。

2 過去5年間の推移

平成29年から令和3年までの、過去5年の東京消防庁の救急出場件数の推移及び令和2年中における全国の出場件数は次のとおりです（令和3年4月1日現在、全国救急隊数5,302隊、救急車台数（非常用含む）6,579台）。

図表 2-1-5 過去5年間の救急出場件数等の推移

区分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	全国※
出場件数	785,184	818,062	825,929	720,965	743,703	5,933,277
対前年増減数(件)	+7,802	+32,878	+7,867	-104,964	+22,738	-706,490
対前年増減率(%)	+1.0%	+4.2%	+1.0%	-12.7%	+3.2%	-10.6%
1日平均件数	2,151	2,241	2,263	1,970	2,038	16,211
1隊あたり平均件数	3,103	3,159	3,093	2,670	2,744	
1隊1日平均件数	8.5	8.7	8.5	7.3	7.5	
都民(国民)の利用状況 (何人に1人の割合)	17人	16人	16人	18人	18人	24人
出場頻度 (何秒に1回の割合)	40秒	39秒	38秒	44秒	42秒	5.3秒
人口1万人あたりの件数	581	600	602	547	565	473

※ 全国の数値は令和2年中のものです。



### 3 日別最多出場件数

令和3年中、日別救急出場件数で最も多かったのは令和3年8月10日の2,864件でした。過去を含めた日別出場件数は以下のとおりです。

図表 2-1-6 日別出場件数上位10日

順位	年月日	件数
1	平成30年7月23日	3,382
2	平成30年7月22日	3,124
3	平成30年7月21日	3,092
4	令和元年8月3日	3,058
5	平成30年8月3日	3,048
6	平成30年7月18日	3,036
7	令和元年8月1日	3,003
8	平成30年7月20日	2,990
9	平成30年7月19日	2,979
10	令和元年8月2日	2,978

### 4 救急隊別出場件数の推移

令和3年中、1隊あたりの最多出場件数は、大久保救急隊の3,683件でした。

また、出場件数3,000件を超えた救急隊は、全隊数の23.2%にあたる63隊でした。

図表 2-1-7 救急隊別出場件数上位10隊の推移

順位	平成29年		平成30年		令和元年		令和2年		令和3年	
	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数
1	大久保	4,278	大久保	4,364	大久保	4,438	大久保	3,650	大久保	3,683
2	豊島	3,801	芝	4,118	芝	4,116	八王子第1	3,599	八王子第1	3,644
3	大島	3,770	豊島	4,006	池袋	3,906	大島	3,595	江戸川第1	3,487
4	池袋	3,769	王子	3,941	大島	3,882	江戸川第1	3,496	王子	3,423
5	芝	3,751	池袋	3,900	練馬	3,881	八王子第2	3,423	八王子第2	3,420
6	板橋	3,735	麻布	3,886	三田	3,878	江戸川第2	3,354	野方第1	3,332
7	蓮根	3,732	志村坂上	3,876	赤羽台	3,877	淵江	3,343	江戸川第2	3,325
8	高島平	3,726	本郷	3,872	江戸川第1	3,854	板橋	3,303	淵江	3,277
9	日本橋	3,713	日本橋	3,850	八王子第1	3,827	練馬	3,296	葛西第1	3,267
10	赤羽台	3,712	練馬	3,826	志村坂上	3,819	立花	3,270	大島	3,249
3,000件以上の隊	177隊		191隊		184隊		52隊		63隊	
全隊数※	253隊		259隊		267隊		270隊		271隊	
割合	70.0%		73.7%		68.9%		19.3%		23.2%	

※ 各年12月31日現在

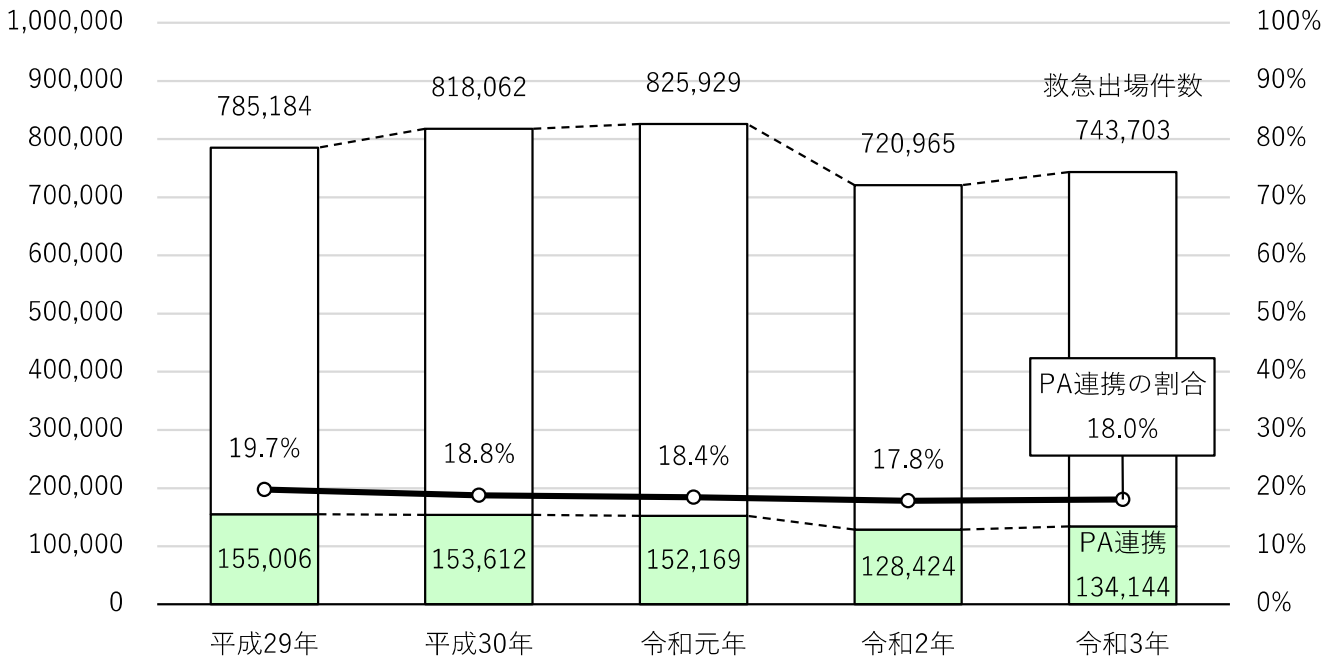
図表 2-1-8 救急隊別出場件数

隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数
本庁計	8,630	用賀	2,924	三軒家	2,899	豊洲	2,558	小川	2,804
本部機動第1	2,404	玉川新町	2,866	田端	3,102	森下	2,751	花小金井	2,863
本部機動第2	2,501	成城	2,737	10方面計	57,846	城東第1	2,952	東村山	2,550
本部機動第3	1,958	千歳第1	2,901	板橋	3,035	城東第2	2,868	秋津	2,451
本部機動第4	1,767	千歳第2	2,781	板橋デイトム	187	東砂	3,034	本町	2,858
1方面計	40,498	烏山	2,544	常盤台	3,242	大島	3,249	国分寺	2,845
丸の内	2,495	渋谷第1	2,927	小茂根	3,027	砂町	2,539	戸倉	2,796
永田町	2,464	渋谷第2	2,774	志村	3,001	本田第1	3,051	狛江	2,497
神田	2,982	恵比寿	2,928	蓮根	3,163	本田第2	2,877	猪方	2,046
三崎町	2,437	松涛	2,910	赤塚	2,961	南綾瀬	2,697	北多摩西部	2,716
京橋	2,719	代々木	2,702	志村坂上	3,221	青戸	2,769	武蔵村山	1,867
銀座	2,779	富ヶ谷	2,433	高島平第1	3,043	奥戸	2,824	東大和	2,594
日本橋	2,864	原宿	2,173	高島平第2	2,887	金町	2,621	三ツ木	510
浜町	2,621	4方面計	79,286	練馬	3,200	金町デイトム	182	清瀬	1,950
月島	2,646	四谷	2,800	平和台	3,155	亀有	2,824	竹丘	2,492
芝	3,062	新宿御苑第1	2,879	貫井	3,017	柴又	2,521	東久留米	2,509
三田	3,146	新宿御苑第2	2,702	光が丘	3,183	水元	2,720	新川	1,971
麻布	2,978	牛込	2,970	北町	3,135	江戸川第1	3,487	西東京	2,794
赤坂	2,573	新宿第1	2,987	石神井	3,006	江戸川第2	3,325	田無	2,917
高輪	2,676	新宿第2	2,738	関町	2,687	小松川	2,954	西原	2,897
港南	2,056	落合	3,156	大泉	2,887	瑞江	2,749	保谷	2,279
2方面計	57,327	戸塚	3,190	大泉学園	2,943	葛西第1	3,267	9方面計	81,703
2本部機動	91	大久保	3,683	石神井公園	2,866	葛西第2	3,078	9本部機動	1,315
品川	2,858	西新宿第1	2,878	6方面計	69,486	船堀	3,036	八王子第1	3,644
大崎	2,844	西新宿第2	2,681	6本部機動	255	南葛西	2,623	八王子第2	3,420
五反田	2,572	中野	3,131	上野	3,020	小岩	2,674	檜原	2,632
大井	2,703	宮園	2,810	下谷	2,868	篠崎	2,426	元八王子	2,678
滝王子	2,573	東中野	3,004	谷中	2,393	南小岩	2,879	小宮	2,878
八潮	2,047	野方第1	3,332	浅草	2,670	北小岩	2,540	浅川	2,761
荏原	2,915	野方第2	3,176	浅草橋	2,795	8方面計	119,732	浅川特殊救急(小型)	50
荏原デイトム	155	鷺宮	2,809	日本堤	2,967	8本部機動	41	北野	2,813
旗の台	2,757	杉並	3,021	今戸	2,556	立川	2,503	由木	2,699
大森	2,790	永福	2,716	荒川	2,957	錦町第1	3,006	みなみ野	2,305
馬込	2,574	堀ノ内	2,866	南千住	2,762	錦町第2	2,883	青梅	2,643
市野倉	3,010	阿佐ヶ谷	3,025	尾久	2,856	国立	2,843	日向和田	1,443
山谷	2,923	高円寺	3,155	尾竹橋	2,749	砂川	2,458	長淵	2,041
森ヶ崎	2,305	高井戸	2,791	千住第1	2,757	武蔵野	2,567	町田第1	3,019
田園調布	2,764	荻窪	3,073	千住第2	2,697	武蔵境	2,725	町田第2	2,820
久が原	2,694	西荻	2,559	足立第1	3,193	吉祥寺	2,420	忠生	2,614
蒲田	3,221	久我山	2,512	足立第2	3,084	三鷹第1	2,631	南	2,680
羽田	2,746	下井草	2,642	綾瀬	3,173	三鷹第2	497	鶴川	2,568
空港	465	5方面計	54,190	淵江	3,277	下連雀	2,585	西町田	2,091
矢口	2,606	小石川	2,557	大谷田	2,960	大沢	2,419	成瀬	2,874
下丸子	2,484	大塚	2,783	神明	2,958	府中	2,707	日野	2,716
西蒲田	3,063	本郷	2,993	西新井	2,999	分梅	2,640	豊田	2,558
西六郷	2,167	根津	2,599	大師前	3,090	朝日	2,160	高幡	2,726
3方面計	69,072	豊島	3,059	上沼田	3,076	朝日特殊	6	福生	2,291
目黒第1	2,970	巣鴨	3,159	本木	2,829	是政	2,402	羽村	2,536
目黒第2	2,781	目白	2,728	舎人	2,545	栄町	2,608	瑞穂	1,939
碑文谷	2,808	池袋	3,150	7方面計	105,344	昭島	2,325	熊川	2,176
大岡山	2,490	池袋デイトム	920	本所	2,934	昭和	2,590	多摩	3,005
世田谷	3,134	長崎	2,887	緑	2,839	大神	2,616	多摩センター第1	2,708
宮の坂	2,546	高松	3,043	東駒形	2,735	調布第1	2,717	多摩センター第2	2,651
松原第1	2,632	王子	3,423	向島	3,123	調布第2	2,533	秋川	1,620
松原第2	2,504	十条	3,084	墨田	2,655	つつじヶ丘	2,658	秋留台	1,850
三宿	3,146	赤羽	2,886	立花	3,115	国領	2,644	檜原	518
上北沢	2,674	西が丘	3,156	深川	3,103	小金井	2,823	奥多摩	421
玉川	2,954	赤羽台	3,054	有明	2,093	緑町	2,593		
奥沢	2,833	滝野川	2,708	枝川	2,672	小平	2,926		

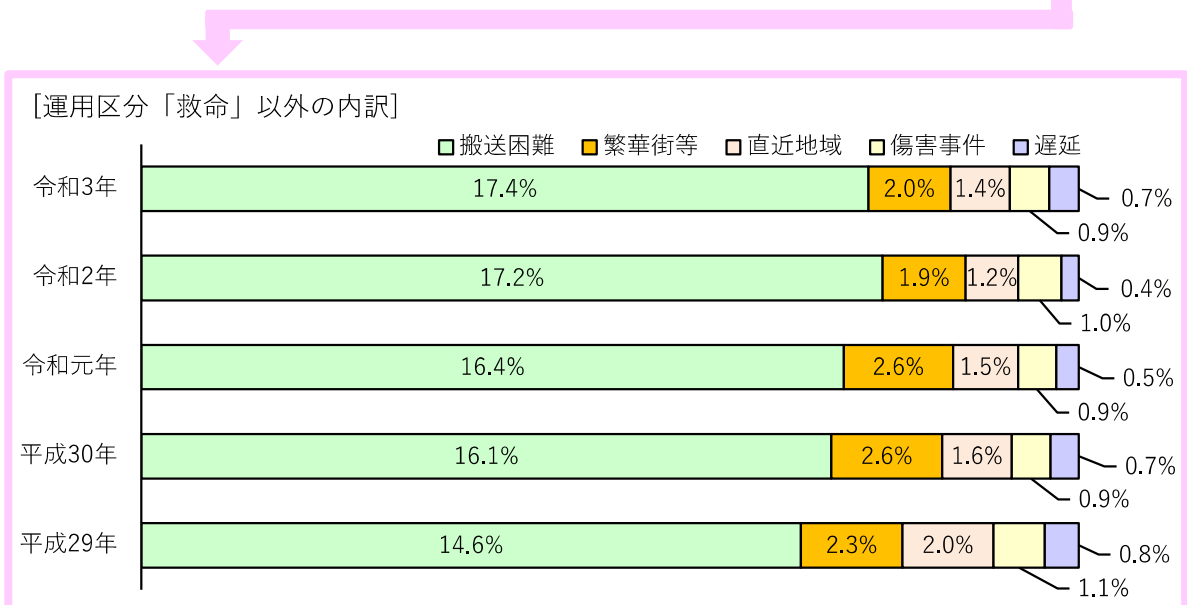
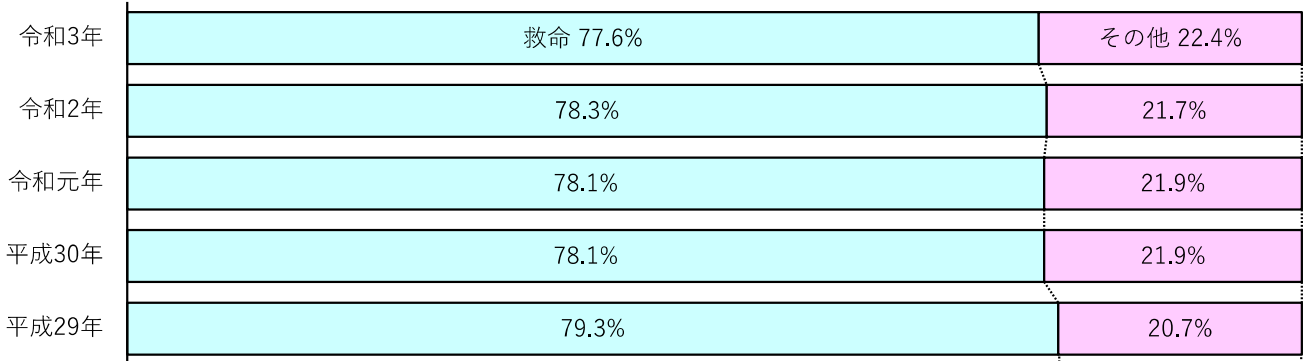
## 5 PA連携と救急出場件数

過去5年の推移をみると、救急出場件数に占めるPA連携件数の割合は、ほぼ横ばいです。運用区別では「救命」が77.6%を占め、次いで「搬送困難」の割合が多くなっています。

図表 2-1-9 PA連携活動の件数及び救急出場件数に占める割合の推移



図表 2-1-10 PA連携活動運用区別構成比率の推移



図表 2-1-11 所属別 PA 連携活動件数

所属	救命	搬送困難	傷害事件等	繁華街等	直近地域	遅延	合計	管内救急 出場件数	PA 連携 の割合
丸の内	310	60	1	-	5	3	379	2,495	15.2%
麹町	304	96	3	-	20	1	424	2,464	17.2%
神田	548	121	9	5	40	-	723	5,419	13.3%
京橋	526	117	10	-	3	-	656	5,498	11.9%
日本橋	398	120	6	-	8	-	532	5,485	9.7%
臨港	423	57	13	-	3	-	496	2,646	18.7%
芝	853	125	15	-	3	1	997	6,208	16.1%
麻布	615	205	26	178	49	24	1,097	2,978	36.8%
赤坂	416	251	9	1	71	2	750	2,573	29.1%
高輪	722	286	8	33	179	9	1,237	4,732	26.1%
品川	1,035	179	7	-	14	4	1,239	8,274	15.0%
大井	691	107	2	-	8	4	812	7,323	11.1%
荏原	969	277	5	1	13	3	1,268	5,827	21.8%
大森	1,613	328	14	50	21	6	2,032	13,602	14.9%
田園調布	1,202	340	16	2	14	11	1,585	5,458	29.0%
蒲田	1,420	276	16	-	12	8	1,732	6,432	26.9%
矢口	952	217	8	-	7	9	1,193	10,320	11.6%
目黒	1,781	479	18	-	19	7	2,304	11,049	20.9%
世田谷	2,555	668	34	157	16	20	3,450	16,636	20.7%
玉川	1,378	547	18	-	10	19	1,972	11,577	17.0%
成城	1,768	323	6	-	3	9	2,109	10,963	19.2%
渋谷	2,116	583	49	278	16	17	3,059	18,847	16.2%
四谷	503	144	15	35	93	3	793	8,381	9.5%
牛込	797	227	10	1	5	1	1,041	2,970	35.1%
新宿	2,629	333	115	1,264	44	9	4,394	21,313	20.6%
中野	1,144	363	13	-	15	1	1,536	8,945	17.2%
野方	1,238	273	15	-	20	6	1,552	9,317	16.7%
杉並	2,307	528	17	-	30	20	2,902	17,574	16.5%
荻窪	1,576	387	21	14	108	25	2,131	10,786	19.8%
小石川	711	185	4	-	11	1	912	5,340	17.1%
本郷	570	199	7	44	64	5	889	5,592	15.9%
豊島	1,274	252	26	3	14	13	1,582	8,946	17.7%
池袋	1,167	239	24	-	5	3	1,438	10,000	14.4%
王子	929	152	7	-	13	4	1,105	6,507	17.0%
赤羽	1,267	211	16	35	34	17	1,580	9,096	17.4%
滝野川	664	166	6	-	5	4	845	8,709	9.7%
板橋	1,502	286	16	-	16	5	1,825	9,491	19.2%
志村	2,854	626	22	-	24	56	3,582	18,276	19.6%
練馬	1,695	309	4	-	22	7	2,037	9,372	21.7%
光が丘	1,232	209	6	-	42	21	1,510	6,318	23.9%
石神井	2,509	447	17	-	16	26	3,015	14,389	21.0%

所属	救命	搬送困難	傷害事件等	繁華街等	直近地域	遅延	合計	管内救急 出場件数	PA 連携 の割合
上野	838	359	30	235	32	3	1,497	8,281	18.1%
浅草	389	161	6	1	18	-	575	5,465	10.5%
日本堤	653	303	14	1	24	8	1,003	5,523	18.2%
荒川	975	295	10	-	9	1	1,290	5,719	22.6%
尾久	619	278	8	-	48	7	960	5,605	17.1%
千住	923	200	7	21	140	6	1,297	5,454	23.8%
足立	3,089	503	27	1	25	31	3,676	18,645	19.7%
西新井	2,040	349	23	-	22	40	2,474	14,539	17.0%
本所	1,013	332	25	9	44	3	1,426	8,508	16.8%
向島	988	374	10	-	9	2	1,383	8,893	15.6%
深川	1,722	319	16	-	21	9	2,087	13,177	15.8%
城東	1,913	395	32	-	45	34	2,419	14,642	16.5%
本田	2,285	498	19	1	10	17	2,830	14,218	19.9%
金町	1,568	281	16	-	18	49	1,932	10,868	17.8%
江戸川	1,783	381	17	1	20	14	2,216	12,515	17.7%
葛西	1,725	145	13	-	11	27	1,921	12,004	16.0%
小岩	1,746	344	32	95	36	30	2,283	10,519	21.7%
立川	2,062	471	18	1	12	1	2,565	13,693	18.7%
武蔵野	927	249	9	-	12	4	1,201	7,712	15.6%
三鷹	1,218	263	10	-	5	5	1,501	8,132	18.5%
府中	1,802	388	18	-	22	4	2,234	12,523	17.8%
昭島	862	147	5	-	3	2	1,019	7,531	13.5%
調布	1,489	231	14	-	7	5	1,746	10,552	16.5%
小金井	674	186	9	1	11	3	884	5,416	16.3%
小平	1,307	297	8	-	4	3	1,619	8,593	18.8%
東村山	1,230	284	8	-	11	5	1,538	7,859	19.6%
国分寺	818	187	11	-	8	-	1,024	5,641	18.2%
狛江	581	139	5	-	3	4	732	4,543	16.1%
北多摩西部	1,191	203	9	-	8	2	1,413	7,687	18.4%
清瀬	651	113	9	-	5	15	793	4,442	17.9%
東久留米	917	187	11	-	25	4	1,144	4,480	25.5%
西東京	1,383	330	15	9	8	2	1,747	10,887	16.0%
八王子	4,397	1,024	46	137	36	24	5,664	25,880	21.9%
青梅	1,076	158	6	-	4	10	1,254	6,127	20.5%
町田	3,639	739	49	9	27	138	4,601	18,666	24.6%
日野	1,256	346	11	-	24	9	1,646	8,000	20.6%
福生	1,105	187	14	12	3	2	1,323	8,942	14.8%
多摩	1,161	203	17	-	12	28	1,421	8,364	17.0%
秋川	824	142	2	-	2	4	974	3,988	24.4%
奥多摩	97	18	-	-	-	2	117	421	27.8%
計	104,099	23,307	1,263	2,635	1,899	941	134,144	732,782	18.3%

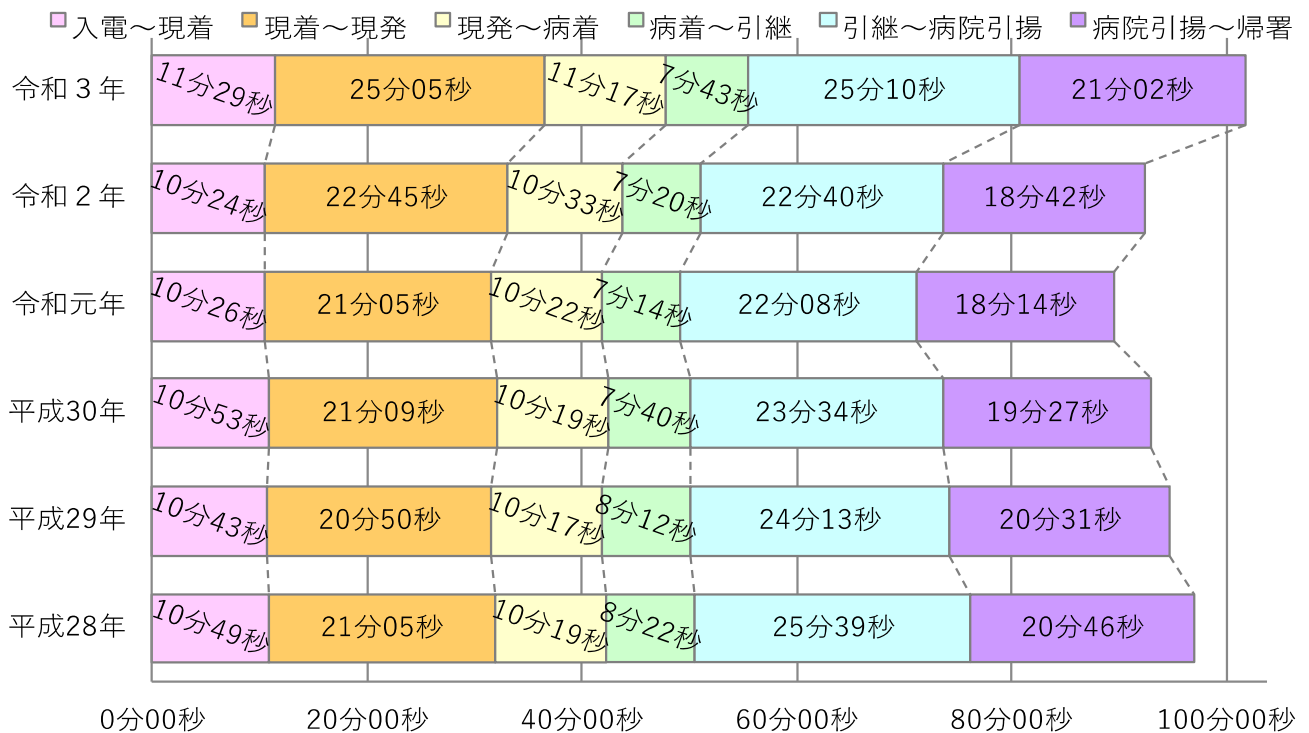
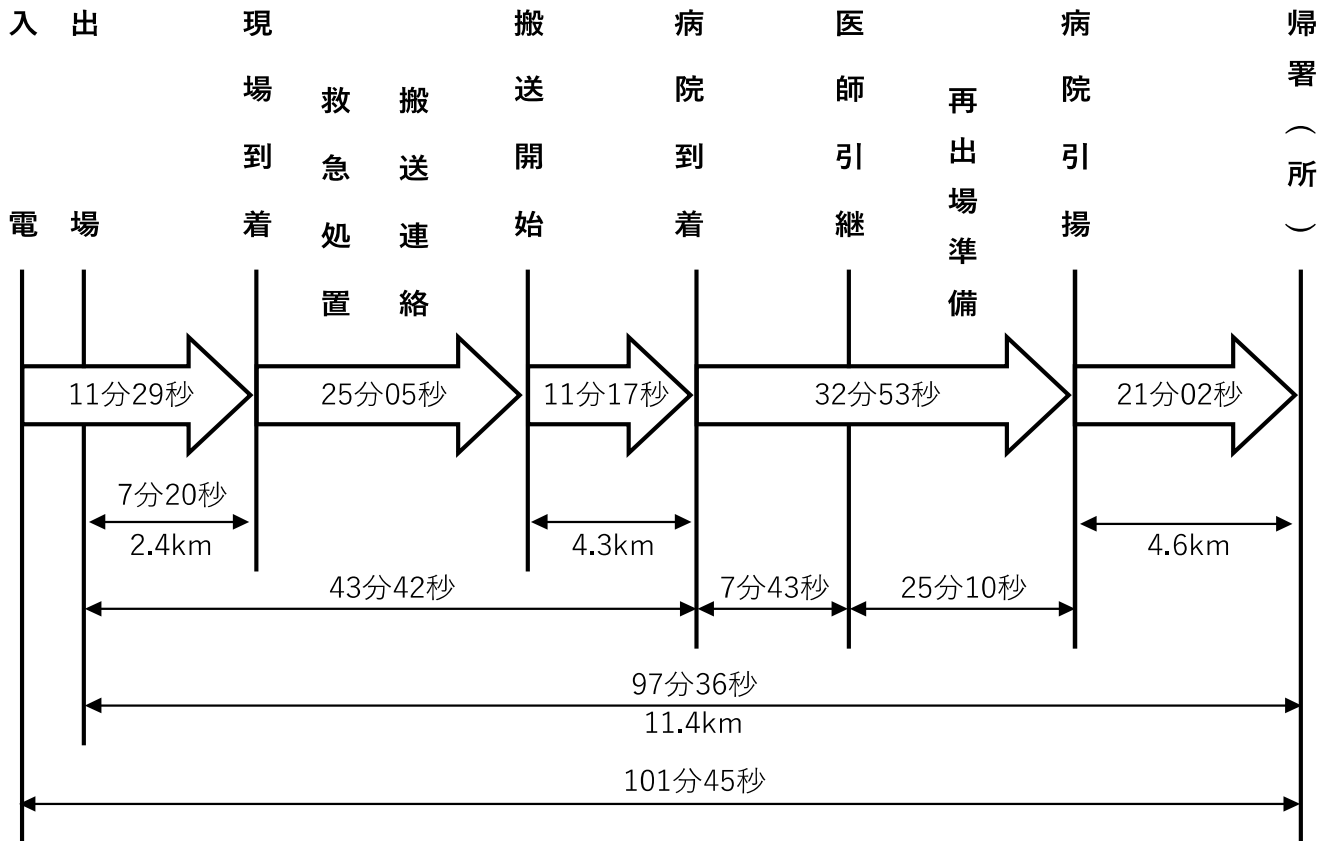
※ 本表において、PA 連携活動及び救急出場の件数に東京消防庁管外への出場は含まれません。

※ PA 連携の割合 = PA 連携活動件数 / 管内救急出場件数

## 6 活動時間・距離

令和3年中の入電してから救急隊が帰署（所）するまでの救急活動平均所要時間は101分45秒で、出場してから帰署（所）するまでの平均走行距離は11.4kmです。

図表 2-1-12 救急活動時間と走行距離



※ それぞれの数値は計算により四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

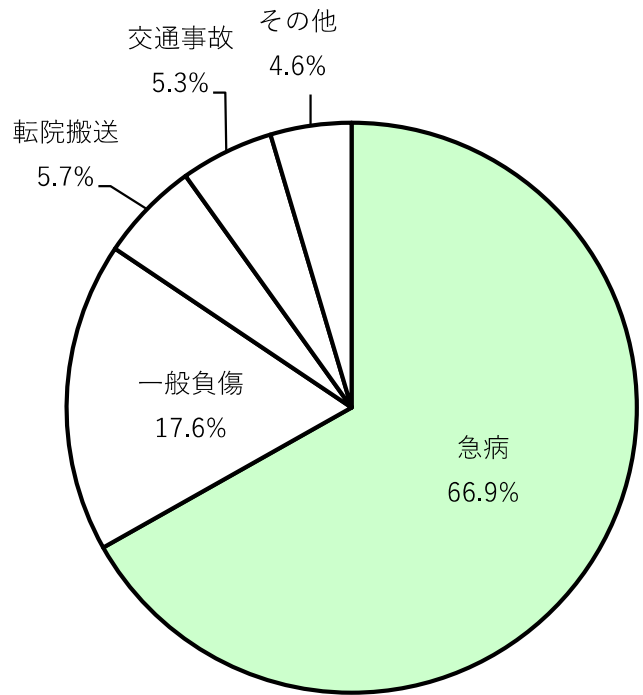
※ 平成28年より入電時間が記録可能となったため、本年より入電からの時間経過を掲載しました。

## 7 事故種別ごとの出場件数

全出場件数のうち、事故種別が「急病」の事案が最も多く、66.9%を占めています。

図表 2-1-13 事故種別ごとの出場件数

合計	743,703	100.0%
急病	497,198	66.9%
一般負傷	130,625	17.6%
転院搬送	42,345	5.7%
交通事故	39,614	5.3%
その他	33,921	4.6%
自損行為	5,865	0.8%
加害	4,909	0.7%
労働災害事故	4,616	0.6%
運動競技事故	3,495	0.5%
火災事故	3,249	0.4%
水難事故	583	0.1%
資器材等輸送	558	0.1%
医師搬送	189	0.0%
自然災害事故	19	0.0%
その他（上記以外）	10,438	1.4%



## 8 不搬送件数

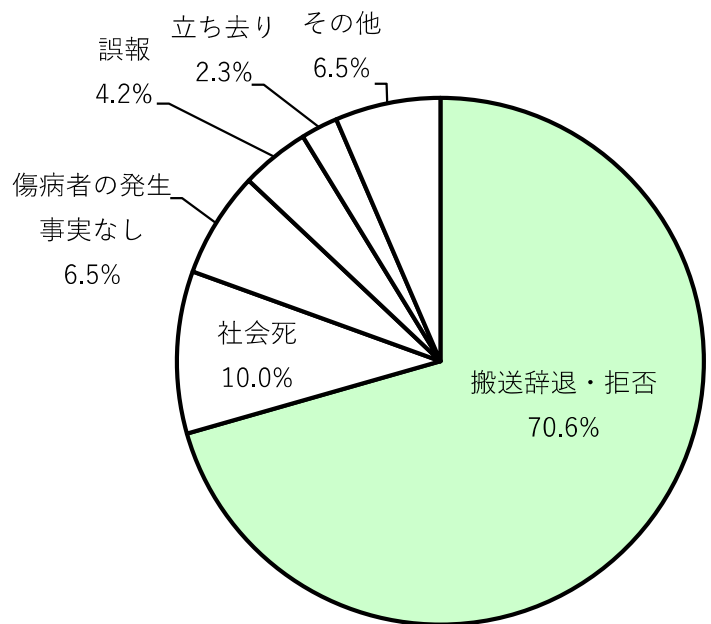
出場件数のうち 15.6%が不搬送であり、その内「搬送辞退・拒否」が 70.6%を占めています。

図表 2-1-14 不搬送件数の内訳

合計	743,703	100.0%
搬送件数	627,824	84.4%
不搬送件数	115,879	15.6%

(不搬送の内訳)

搬送辞退・拒否	81,777	70.6%
社会死	11,550	10.0%
傷病者の発生事実なし	7,526	6.5%
誤報	4,911	4.2%
立ち去り	2,629	2.3%
その他	7,486	6.5%

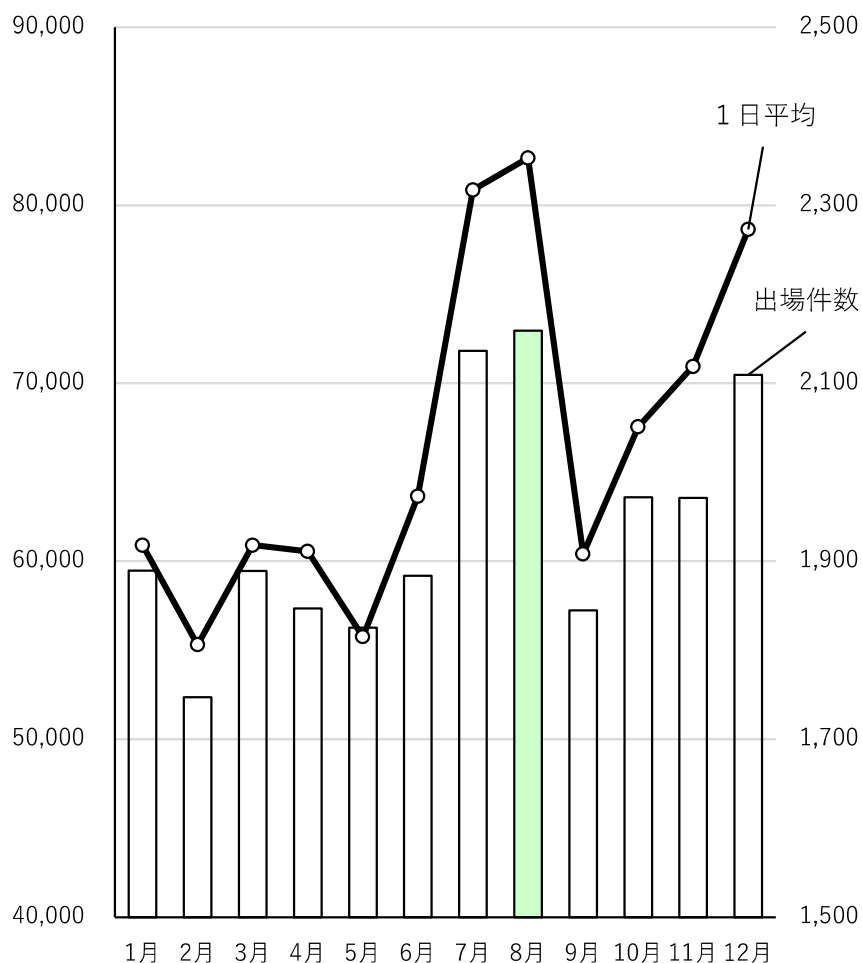


## 9 月別・曜日別出場件数

月別の1日平均では8月が、曜日別の1日平均では月曜日が高い割合を占めています。

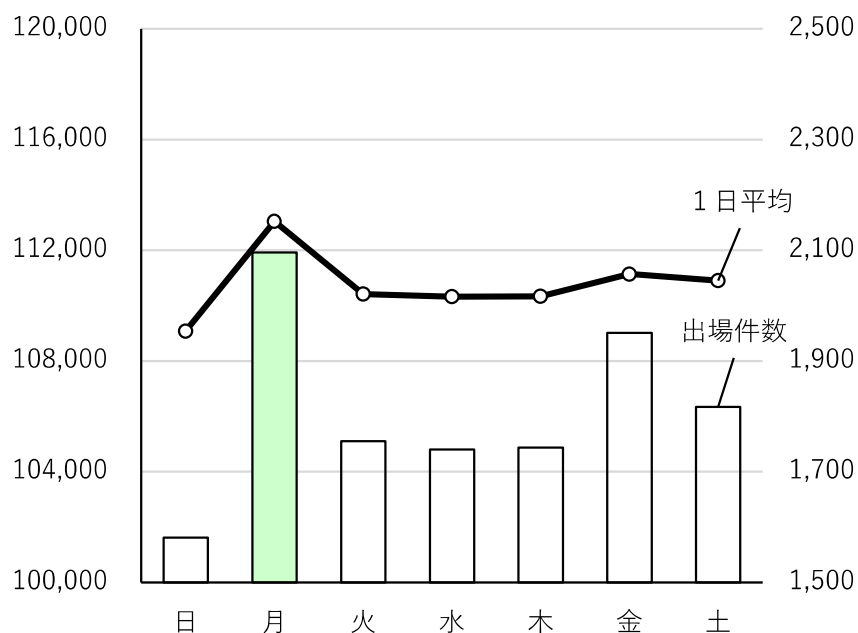
図表 2-1-15 月別出場件数

月	出場件数	1日平均
1月	59,466	1,918
2月	52,370	1,870
3月	59,445	1,918
4月	57,341	1,911
5月	56,275	1,815
6月	59,177	1,973
7月	71,823	2,317
8月	72,955	2,353
9月	57,236	1,908
10月	63,589	2,051
11月	63,564	2,119
12月	70,462	2,273
合計	743,703	2,038



図表 2-1-16 曜日別出場件数

曜日	出場件数	1日平均
日	101,618	1,954
月	111,924	2,152
火	105,103	2,021
水	104,810	2,016
木	104,881	2,017
金	109,021	2,057
土	106,346	2,045
合計	743,703	2,038



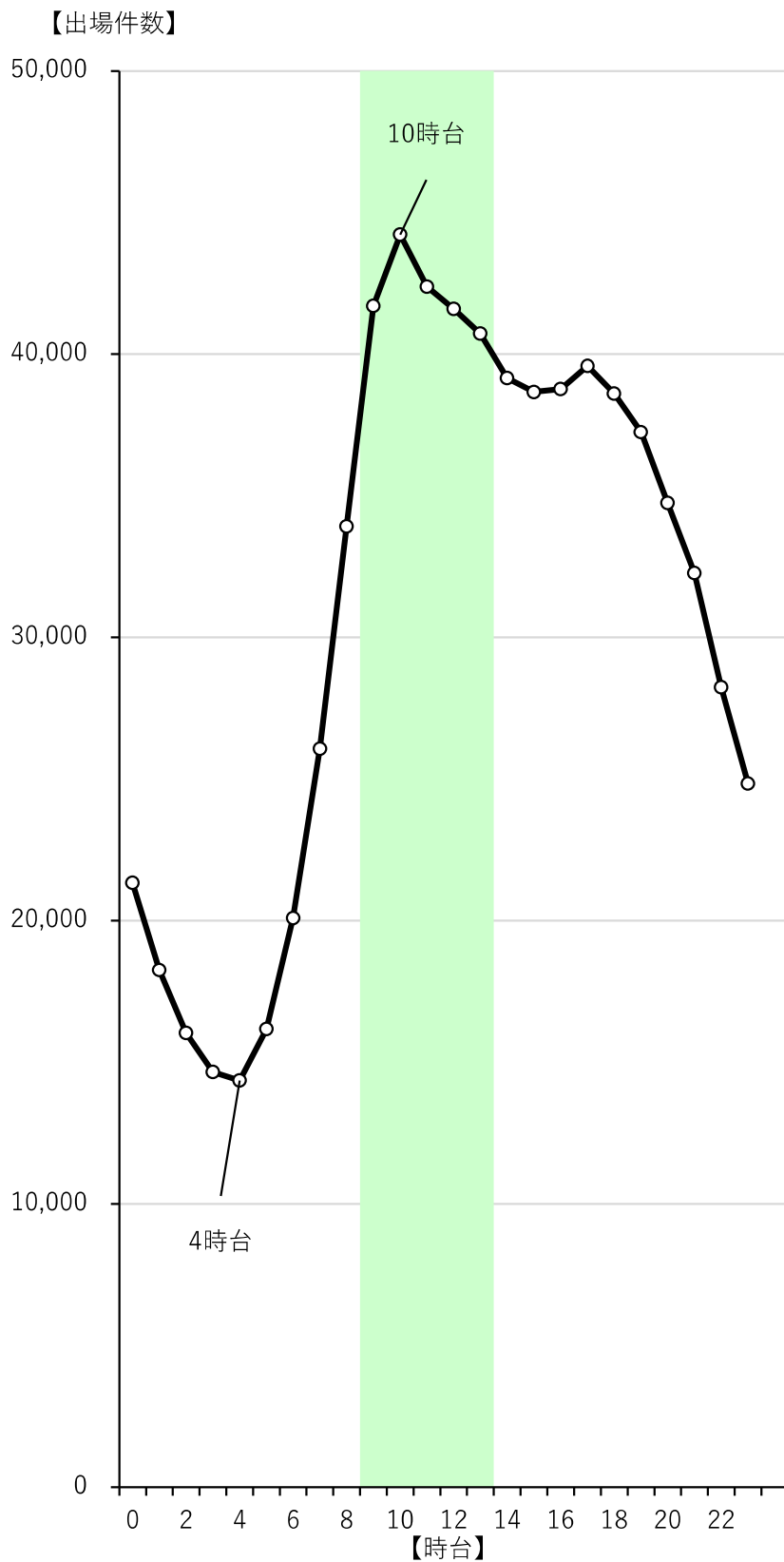


## 10 時間帯別出場件数

時間帯別では、10時台が最も多く、9時から13時台が高い割合を占めています。

図表 2-1-17 時間帯別出場件数

時間帯	出場件数	構成比
0時台	21,337	2.9%
1時台	18,260	2.5%
2時台	16,039	2.2%
3時台	14,656	2.0%
4時台	14,363	1.9%
5時台	16,178	2.2%
6時台	20,097	2.7%
7時台	26,074	3.5%
8時台	33,924	4.6%
9時台	41,701	5.6%
10時台	44,226	5.9%
11時台	42,383	5.7%
12時台	41,599	5.6%
13時台	40,730	5.5%
14時台	39,158	5.3%
15時台	38,667	5.2%
16時台	38,769	5.2%
17時台	39,582	5.3%
18時台	38,608	5.2%
19時台	37,249	5.0%
20時台	34,748	4.7%
21時台	32,273	4.3%
22時台	28,240	3.8%
23時台	24,842	3.3%
合計	743,703	100.0%



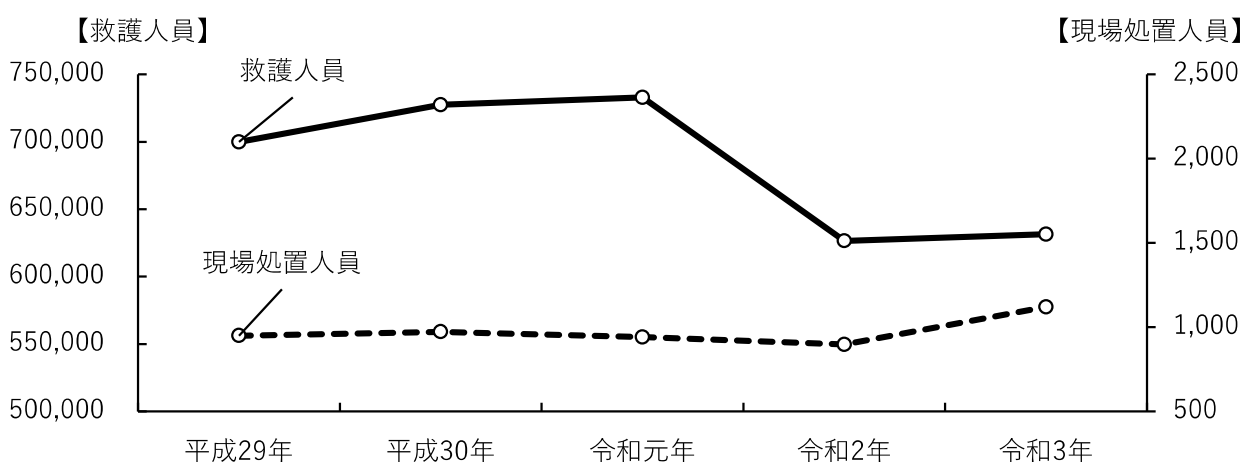
## 第2節 救護人員

### 1 救護人員

令和3年中の救護人員は631,407人、搬送人員（医療機関等へ搬送した人員）は630,287人、現場処置人員（救急現場で救急処置を実施したが、医療機関へ搬送しなかった人員）は1,120人となっています。

図表 2-2-1 救護人員の推移

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
搬送人員	698,928	726,428	731,900	625,639	630,287
現場処置人員	950	973	942	897	1,120
救護人員	699,878	727,401	732,842	626,536	631,407



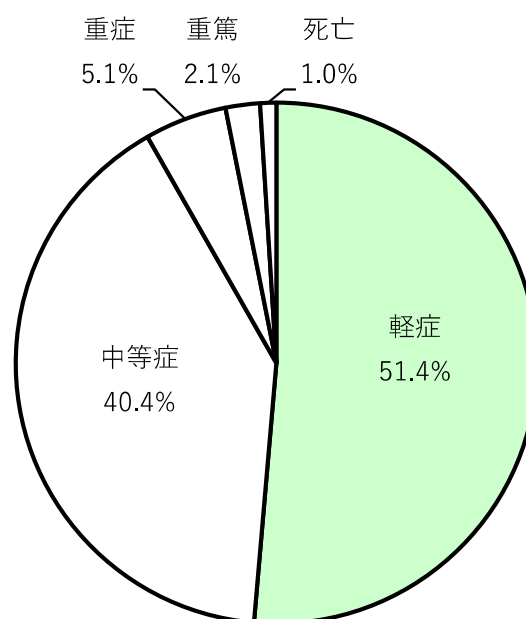
### 2 搬送人員

#### (1) 初診時程度

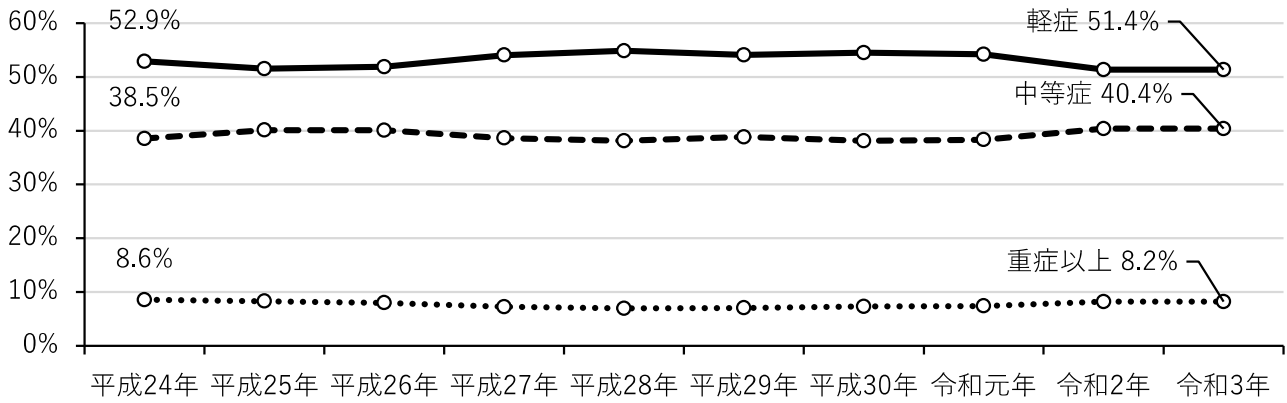
搬送人員のうち「軽症」が最も多く、51.4%を占めています。

図表 2-2-2 初診時程度別搬送人員

程度	搬送人員	割合
軽症	323,857	51.4%
中等症	254,504	40.4%
重症	32,187	5.1%
重篤	13,388	2.1%
死亡	6,351	1.0%
合計	630,287	100.0%



図表 2-2-3 過去 10 年間の初診時程度別割合の推移

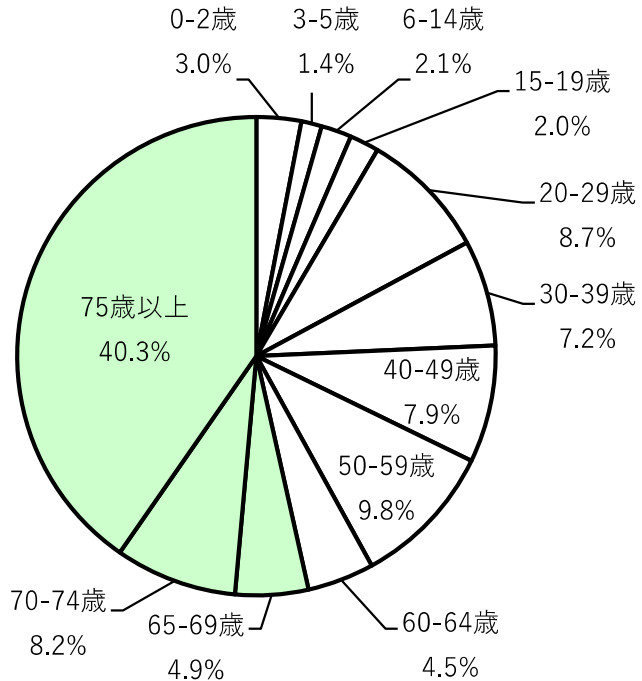


(2) 年齢層

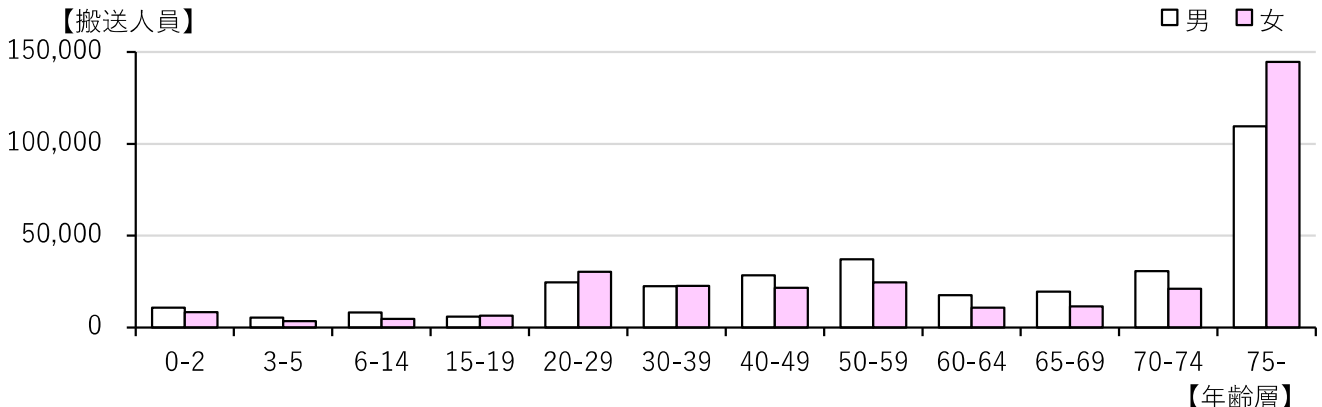
令和 3 年の搬送人員を年齢層別で見ると、75 歳以上の割合が最多となっています。

図表 2-2-4 年齢層別・性別搬送人員

年齢層	搬送人員	構成比
0-2 歳	19,018	3.0%
3-5 歳	8,828	1.4%
6-14 歳	12,951	2.1%
15-19 歳	12,424	2.0%
20-29 歳	54,784	8.7%
30-39 歳	45,087	7.2%
40-49 歳	49,951	7.9%
50-59 歳	61,638	9.8%
60-64 歳	28,382	4.5%
65-69 歳	31,117	4.9%
70-74 歳	51,834	8.2%
75 歳以上	254,273	40.3%
高齢者計	337,224	53.5%
合計	630,287	100.0%



年齢	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-
男	10,739	5,320	8,235	5,980	24,537	22,468	28,424	37,047	17,661	19,554	30,710	109,537
女	8,279	3,508	4,716	6,444	30,247	22,619	21,527	24,591	10,721	11,563	21,124	144,736
合計	19,018	8,828	12,951	12,424	54,784	45,087	49,951	61,638	28,382	31,117	51,834	254,273



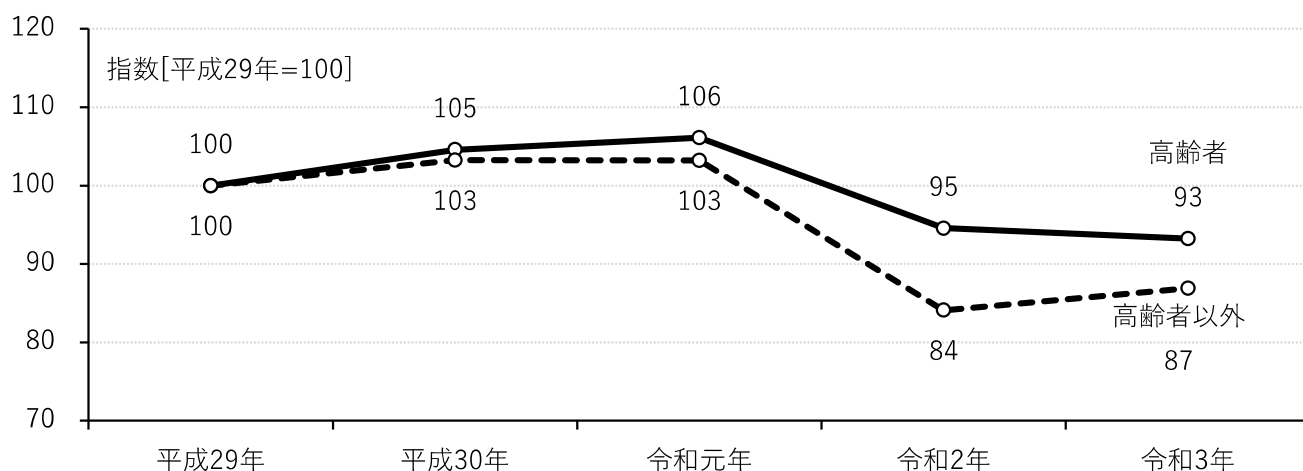
### 3 高齢者搬送人員

#### (1) 搬送人員の推移

65歳以上の高齢者の搬送人員は337,224人で、全搬送人員の53.5%を占めています。また、平成29年を100とした指数で見ると、高齢者搬送人員の増加率は93で高齢者以外を上回っています。

図表 2-2-5 高齢者搬送人員の推移

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
全搬送人員	698,928	726,428	731,900	625,639	630,287
高齢者	361,734	378,314	383,856	342,085	337,224
高齢者以外	337,194	348,114	348,044	283,554	293,063
高齢者の割合	51.8%	52.1%	52.4%	54.7%	53.5%

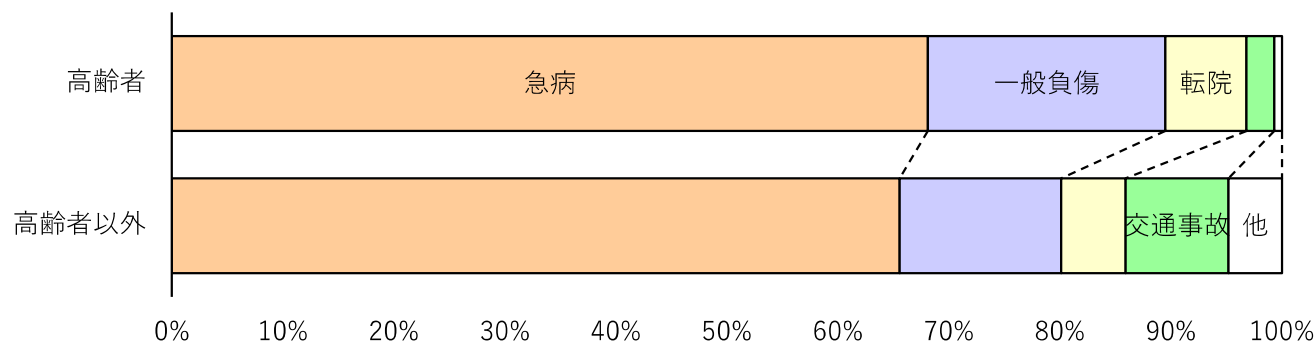


#### (2) 事故種別

高齢者を事故種別で見ると、高齢者以外と比べ急病、一般負傷及び転院搬送の占める割合が高く、交通事故の占める割合が低くなっています。

図表 2-2-6 事故種別高齢者搬送人員

事故種別	高齢者		高齢者以外	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合
急病	229,627	68.1%	192,151	65.6%
一般負傷	72,172	21.4%	42,651	14.6%
転院搬送	24,696	7.3%	16,963	5.8%
交通事故	8,393	2.5%	27,184	9.3%
その他	2,336	0.7%	14,114	4.8%
合計	337,224	100.0%	293,063	100.0%



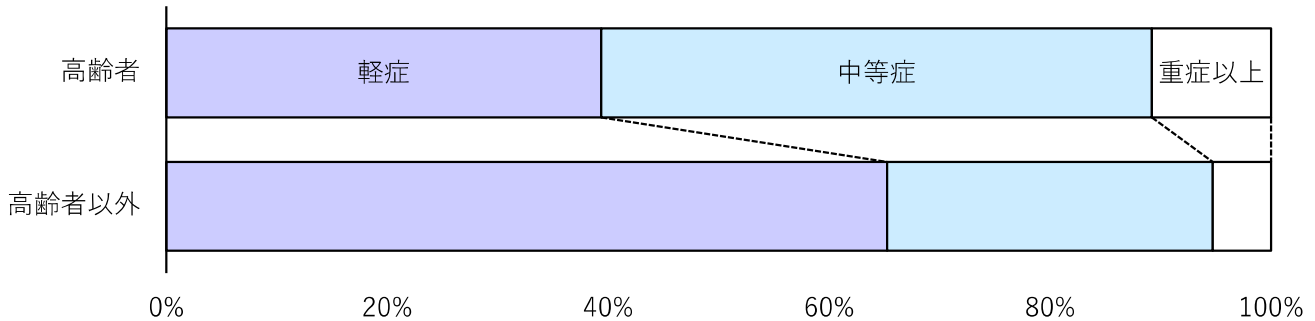
(3) 初診時程度

高齢者を初診時程度で見ると、高齢者以外と比べ中等症以上の占める割合が高くなっています。

また、主な事故種別における高齢者の搬送割合をみると、急病及び転院搬送に占める中等症以上の割合が高くなっています。

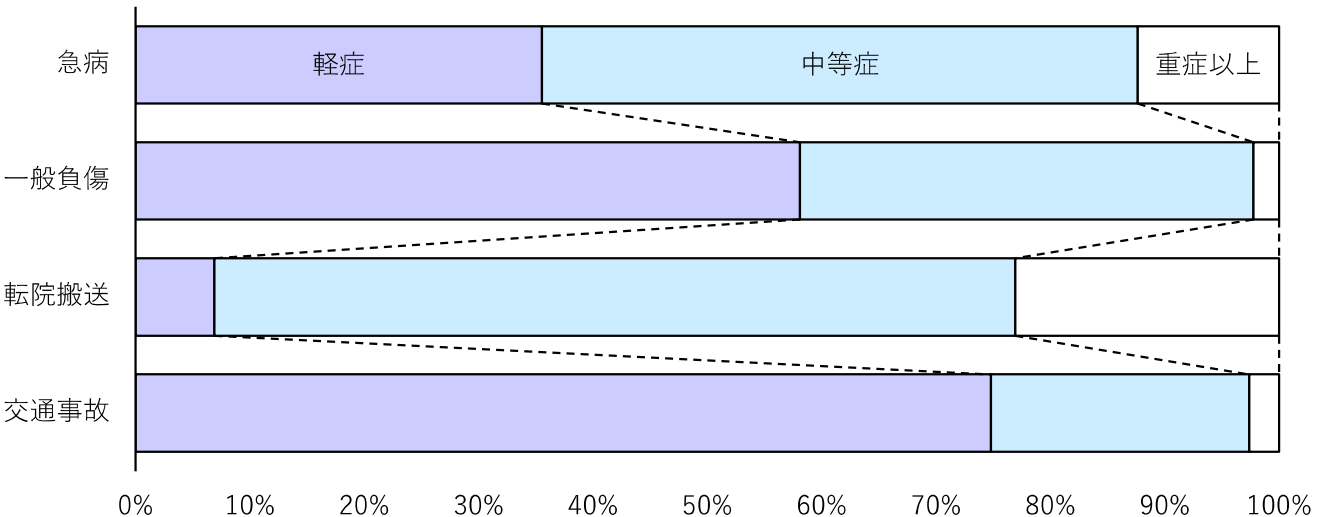
図表 2-2-7 初診時程度別高齢者搬送人員

初診時程度	高齢者		高齢者以外	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合
軽症	132,718	39.4%	191,139	65.2%
中等症	168,076	49.8%	86,428	29.5%
重症	21,847	6.5%	10,340	3.5%
重篤	9,139	2.7%	4,249	1.4%
死亡	5,444	1.6%	907	0.3%
合計	337,224	100.0%	293,063	100.0%



図表 2-2-8 事故種別・初診時程度別高齢者搬送人員

初診時程度	急病		一般負傷		転院搬送		交通事故	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合
軽症	81,638	35.6%	41,928	58.1%	1,704	6.9%	6,280	74.8%
中等症	119,630	52.1%	28,636	39.7%	17,299	70.0%	1,895	22.6%
重症	16,331	7.1%	733	1.0%	4,489	18.2%	135	1.6%
重篤	7,187	3.1%	508	0.7%	1,180	4.8%	75	0.9%
死亡	4,841	2.1%	367	0.5%	24	0.1%	8	0.1%
合計	229,627	100.0%	72,172	100.0%	24,696	100.0%	8,393	100.0%



## 4 収容医療機関・医療施設

傷病者を収容した医療機関数及び搬送人員を開設主体別にみると、私立医療機関が大部分を占めています。

東京消防庁管内の医療機関に収容した人員は617,764人（98.0%）で、このうち、救急告示医療機関に610,243（96.8%）を収容しています。

図表 2-2-9 開設主体別収容医療機関数、搬送人員

区分	収容医療機関数		搬送人員						合計	割合
			告示		非告示		管轄外			
	実数	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合		
国立	20	3.1%	44,068	7.2%	648	8.6%	1,808	14.6%	46,524	7.4%
公立	31	4.8%	55,983	9.2%	162	2.2%	1,709	13.8%	57,854	9.2%
公的	10	1.5%	38,063	6.2%	167	2.2%	0	0.0%	38,230	6.1%
私立病院	483	74.8%	469,316	76.9%	4,361	58.0%	8,700	70.5%	482,377	76.6%
私立診療所	102	15.8%	2,813	0.5%	2,183	29.0%	126	1.0%	5,122	0.8%
合計	646	100.0%	610,243	100.0%	7,521	100.0%	12,343	100.0%	630,107	100.0%

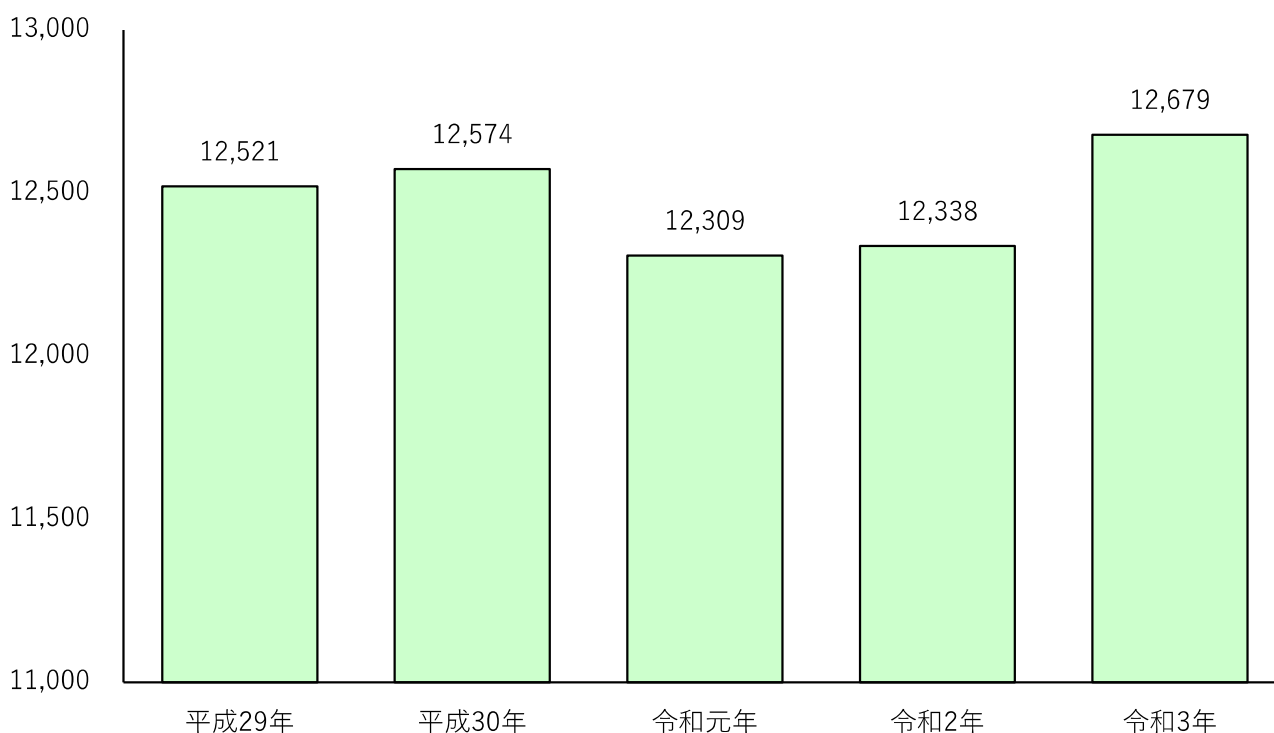
## 5 心臓機能停止傷病者搬送人員（ウツタイン様式による統計）

### (1) 搬送人員の推移

「ウツタイン様式」とは、心臓機能停止傷病者に関する国際的に統一された統計基準の様式であり、平成18年から同様式で統計処理を開始しました。

令和3年中に、発症時点から医療機関に収容するまでの間に心臓機能が停止した傷病者（以下「心停止傷病者」という。）の搬送人員は、12,679人です。

図表 2-2-10 心停止傷病者搬送人員の推移

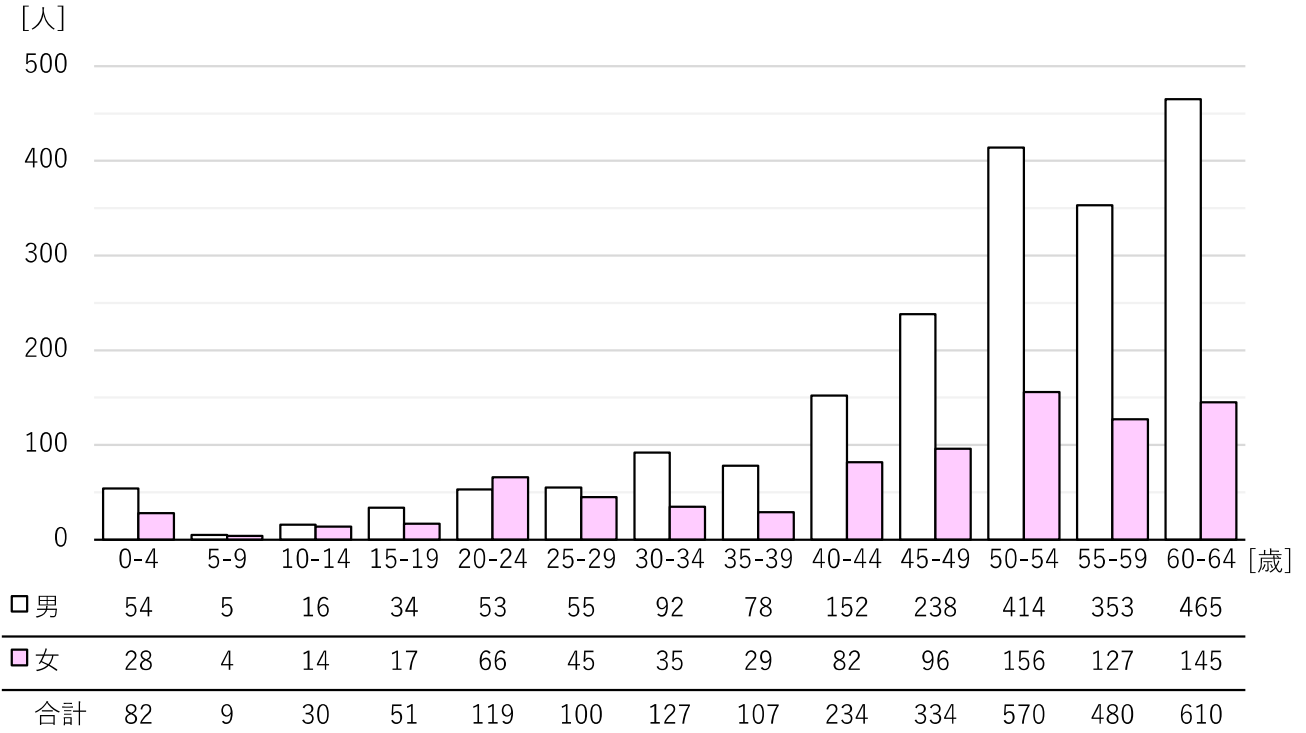


(2) 性別・年齢層別搬送人員（高齢者群・非高齢者群）

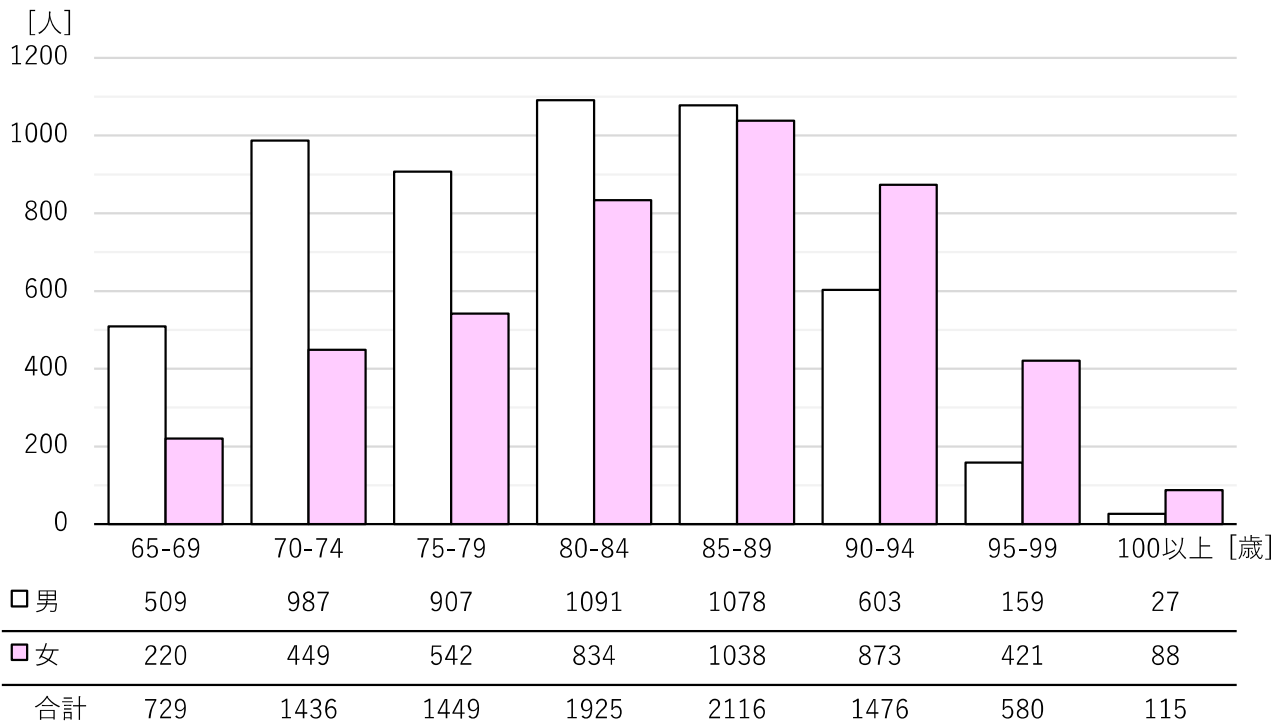
搬送人員の実数は、90歳以上の年齢層では女性が男性を上回りますが、それ以外の年齢層において男性が女性を上回っています。これは、心停止傷病者は基本的には男性の搬送が多い傾向があるものの、女性の平均寿命が男性より長いことによるものと考えられます。

特徴的なのは45歳から74歳までの年齢層で、各年齢層において男性が女性の約2倍以上の搬送人員となっています。

図表 2-2-11 性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（非高齢者群）



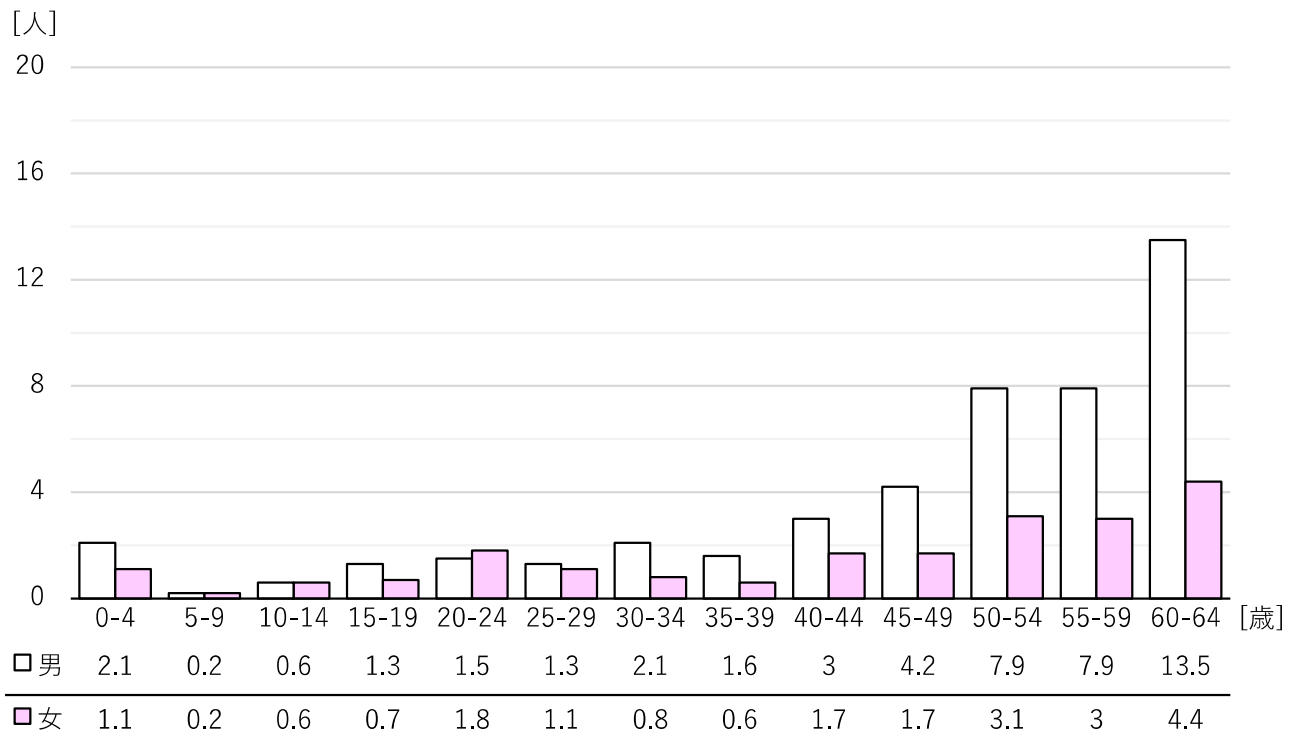
図表 2-2-12 性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（高齢者群）



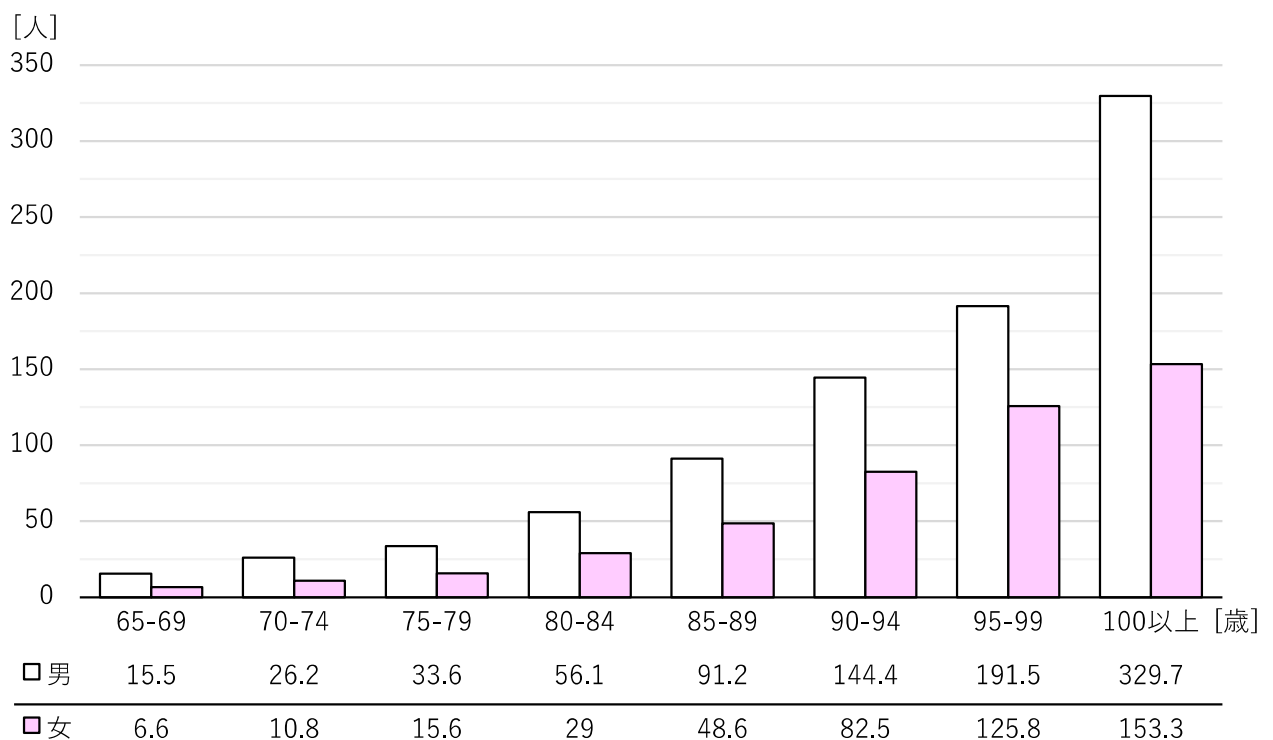
一方、人口に対する搬送人員の発生頻度を比較する目安として、人口（令和3年1月1日現在の東京都住民基本台帳から算出した東京都人口）1万人に対する搬送人員（以下「対人口搬送人員」という。）を各性別・年齢層別に算出した結果は、次のとおりです。

対人口搬送人員は、5-9歳、10-14歳及び20-24歳を除く全ての年齢層で、男性の比率が高い結果となっています。このことから、女性より男性の方が突然の心臓機能の停止をきたし、救急搬送の対象となる頻度が高いと推測されます。

図表 2-2-13 人口1万人あたりの性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（非高齢者群）



図表 2-2-14 人口1万人あたりの性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（高齢者群）





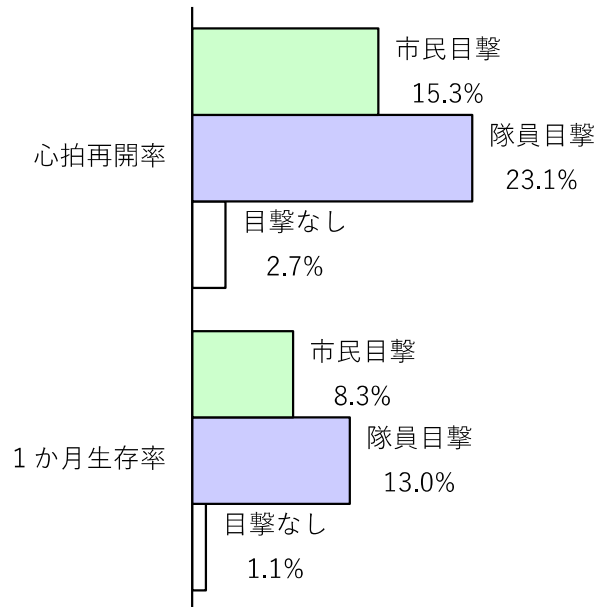
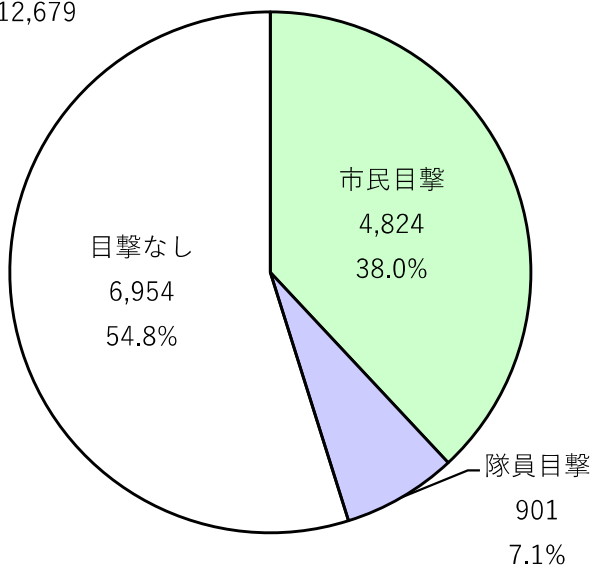
(3) 心停止の目撃

心停止の目撃があった傷病者は、市民目撃及び隊員目撃を併せて全体の45.2%です。目撃があった場合の1か月生存率は、目撃がなかった場合と比較して約8倍となっています。

図表 2-2-15 心停止の目撃有無別搬送人員

目撃情報	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
目撃あり	5,725	45.2%	948	16.6%	518	9.0%
市民目撃	4,824	38.0%	740	15.3%	401	8.3%
隊員目撃	901	7.1%	208	23.1%	117	13.0%
目撃なし	6,954	54.8%	191	2.7%	79	1.1%
合計	12,679	100.0%	1,139	9.0%	597	4.7%

N=12,679



「心停止の目撃」とは、傷病者が心停止に陥った時の事故の状況、又は行為等（倒れた、意識を失った、車にはねられた等）を、目撃又は音を聞いた人（以下「目撃者」という。）がいた場合で、かつその時刻を目撃者が確定又は推定できる場合を言います。

「市民目撃」とは、救急現場に居合わせた人（以下「バイスタンダー」という。）が目撃した場合を指します。

「隊員目撃」とは、救急隊員・消防隊員等（以下「救急隊員等」という。）が、現場到着後に傷病者が心停止になったところを確認した場合を指します。

「収容前心拍再開」とは、救急隊が医療機関の医師に引継ぐ前に傷病者が心拍再開したものを指します。継続性は問わず、一時的に再開し、再び心停止状態になったものも含まれます。

「1か月生存」とは、傷病者が医療機関に収容された日から1か月後の日の傷病者の生存の有無を表します。なお、1か月生存の状況が追跡できず不明だった傷病者については、統計処理上、生存していないものに計上しています。

## (4) バイスタンダーによる応急手当

隊員目撃を除いた搬送人員 11,778 人について、バイスタンダー（心停止目撃の有無を問わない。）による応急手当（心停止傷病者に対して有効な手当＝人工呼吸・胸骨圧迫・AED 等による除細動処置等に限定）の実施状況は次のとおりです。

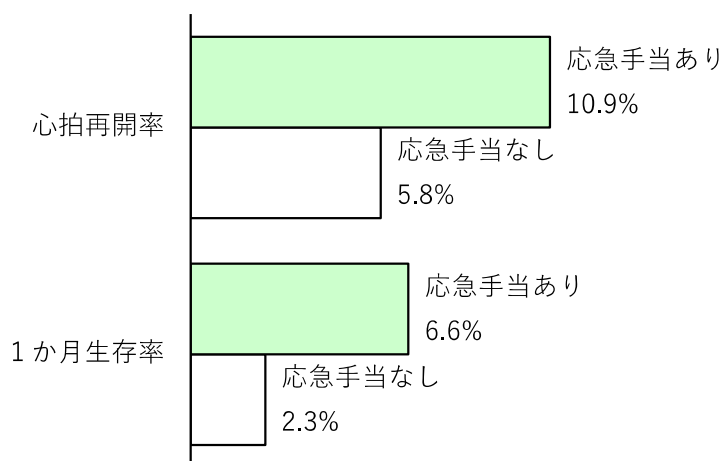
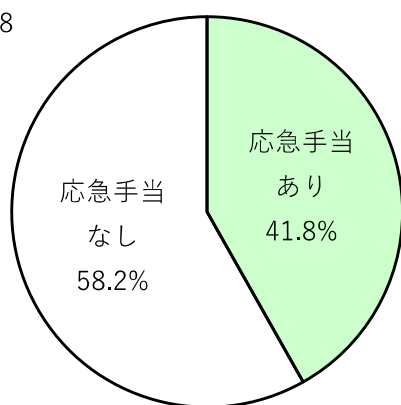
バイスタンダーによる応急手当の実施率は、市民目撃があった場合が 46.3%となっており、市民目撃がなかった場合の 38.7%と比較すると、7.6 ポイント高くなっています。

また、市民目撃があった場合は、応急手当実施の有無により、1 か月生存率に約 2.8 倍の差が生じています。

図表 2-2-16 バイスタンダーによる応急手当実施状況（隊員目撃を除く）

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1 か月生存数	1 か月生存率
応急手当あり	4,924	41.8%	536	10.9%	325	6.6%
応急手当なし	6,854	58.2%	395	5.8%	155	2.3%
合計	11,778	100.0%	931	7.9%	480	4.1%

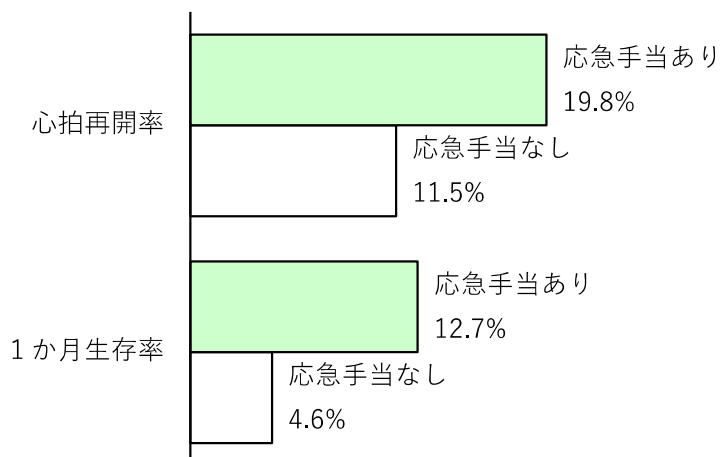
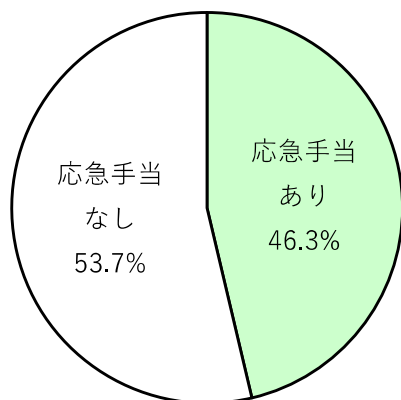
N=11,778



図表 2-2-17 バイスタンダーによる応急手当実施状況（市民目撃あり）

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1 か月生存数	1 か月生存率
応急手当あり	2,234	46.3%	443	19.8%	283	12.7%
応急手当なし	2,590	53.7%	297	11.5%	118	4.6%
合計	4,824	100.0%	740	15.3%	401	8.3%

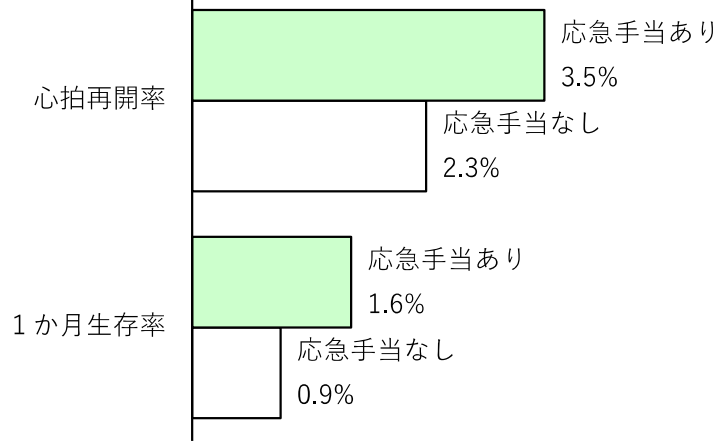
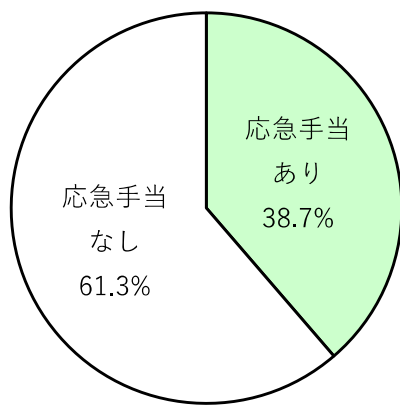
N=4,824



図表 2-2-18 バイスタンダーによる応急手当実施状況（目撃なし）

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
応急手当あり	2,690	38.7%	93	3.5%	42	1.6%
応急手当なし	4,264	61.3%	98	2.3%	37	0.9%
合計	6,954	100.0%	191	2.7%	79	1.1%

N=6,954



(5) バイスタンダーによる応急手当の開始時期

市民目撃があり、かつバイスタンダーにより応急手当が実施された傷病者（以下「目撃あり・手当あり群」と言います。）2,234人について、市民目撃から応急手当の開始までの所要時間の状況は、次のとおりです。

平均所要時間は3分59秒で、1か月生存率は、市民目撃から応急手当の開始までの時間が短時間であるほど高い結果となっており、収容前心拍再開率は、3分以内が一番高く、次いで4分から6分、7分から10分、11分以上の順になっています。

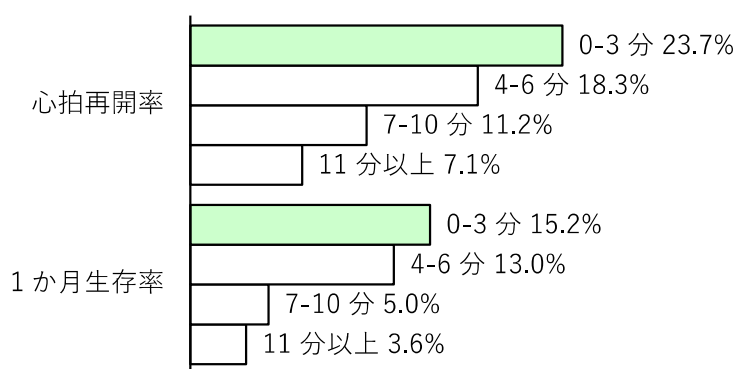
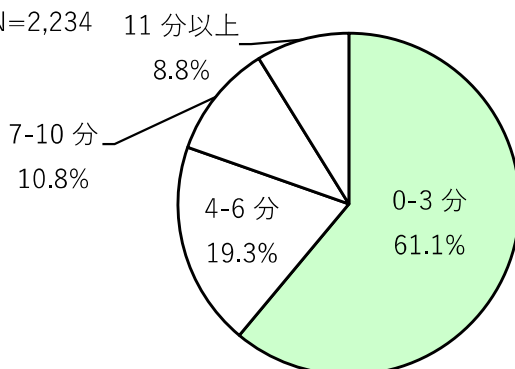
全体の61.1%は、3分以内に応急手当が開始され、心拍再開率が23.7%、1か月生存率が15.2%となっていますが、市民目撃から10分を超えてから応急手当が開始された群は、心拍再開率が7.1%、1か月生存率が3.6%となっています。このことから、早期の応急手当の開始が重要であることがわかります。

図表 2-2-19 市民目撃から応急手当開始までの所要時間

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
0-3分	1,364	61.1%	323	23.7%	208	15.2%
4-6分	432	19.3%	79	18.3%	56	13.0%
7-10分	241	10.8%	27	11.2%	12	5.0%
11分以上	197	8.8%	14	7.1%	7	3.6%
合計	2,234	100.0%	443	19.8%	283	12.7%

平均3分59秒

N=2,234



## (6) 救急隊員等の救急処置の開始時期

市民目撃があったものの、バイスタンダーによる有効な応急手当が実施されなかった傷病者（以下「目撃あり・手当なし群」と言う。）2,588人について、市民目撃から救急隊員等による救命処置が開始されるまでの所要時間の状況は、次のとおりです。

目撃あり・手当あり群の61.1%が3分以内に応急手当が開始されているのに対して、目撃あり・手当なし群は、救急隊等が傷病者に接触するまでの時間（市民目撃～通報、通報～救急隊等の現場到着及び現場到着～傷病者の所在場所に至るまでの所要時間）がかかるため、7分以上の群が全体の70.7%を占め、平均所要時間は11分49秒となっています。

なお市民目撃には、通報後に心停止となった事案が含まれていることから、市民目撃が通報前の事案に限定した場合は、さらに所要時間が延伸する結果になると考えられます。

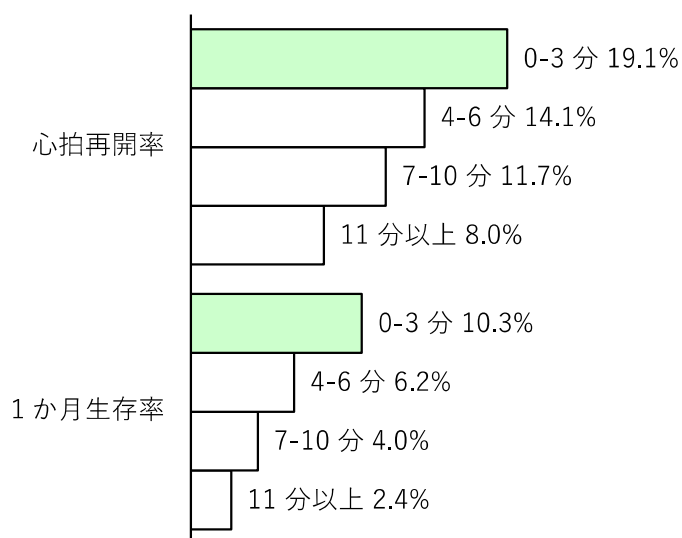
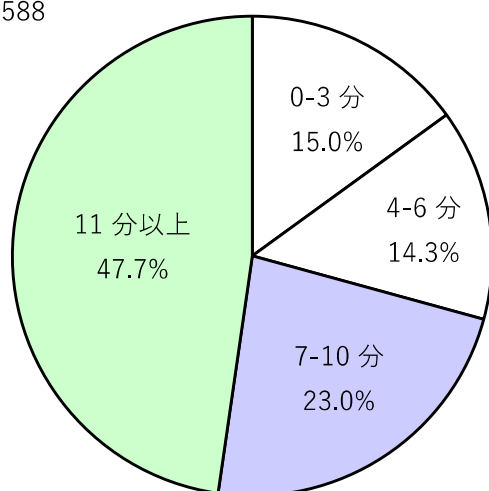
また、7分から10分の心拍再開率群、11分以上の心拍再開率群を除いて、目撃あり・手当なし群の方が、目撃あり・手当あり群より、収容前心拍再開、1か月生存状況ともに低い結果となっています。これは、バイスタンダーが応急手当を実施しようとしても、物理的に困難な事案（2次的災害や感染危険がある場合、又は傷病者への接触自体が困難である場合等）や、救命が極めて困難な事案が、目撃あり・手当なし群に多く含まれているためと考えられます。

図表 2-2-20 市民目撃から隊員等処置開始までの所要時間

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
0-3分	388	15.0%	74	19.1%	40	10.3%
4-6分	369	14.3%	52	14.1%	23	6.2%
7-10分	596	23.0%	70	11.7%	24	4.0%
11分以上	1,235	47.7%	99	8.0%	30	2.4%
合計	2,588	100.0%	295	11.4%	117	4.5%

平均11分49秒

N=2,588



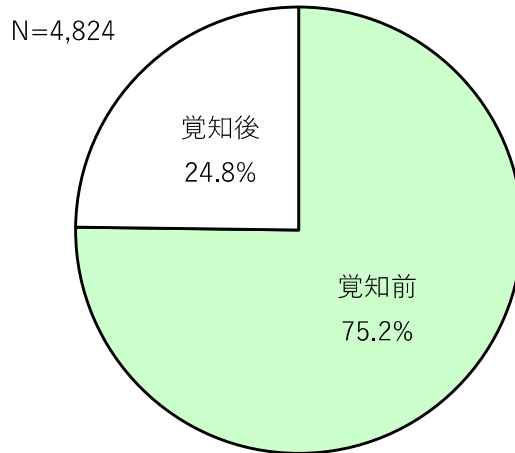
**(7) 市民目撃から覚知までの所要時間**

市民目撃があった傷病者 4,824 人のうち、覚知前に目撃された（心停止後に通報された）傷病者と覚知後に目撃された（通報後に心停止となった）傷病者の状況は、次のとおりです。

覚知（時刻）とは、東京消防庁総合指令室が通報を確認した時刻を指し、通報の時刻とは近似した時刻となりますが、必ずしも一致するとは限りません。

図表 2-2-21 市民目撃の時期

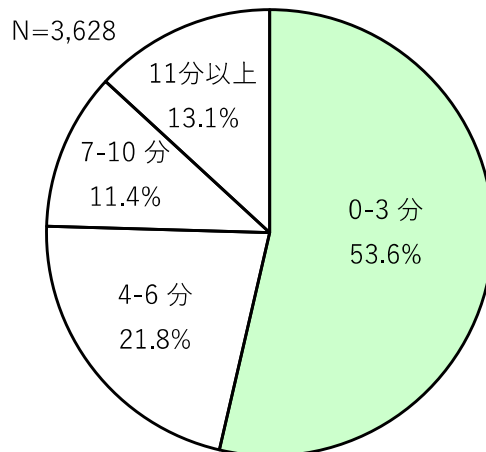
市民目撃の時期	搬送人員	割合
覚知前	3,628	75.2%
覚知後	1,196	24.8%
合計	4,824	100.0%



覚知前に心停止となった傷病者 3,628 人について、市民目撃から覚知までの平均所要時間は 5 分 41 秒で、全体の 53.6%は市民目撃から 3 分以内に覚知されていますが、46.4%は 4 分以降、うち半数以上は 7 分以降となっています。

図表 2-2-22 市民目撃から覚知までの所要時間

市民目撃の時期	搬送人員	割合
0-3 分	1,946	53.6%
4-6 分	792	21.8%
7-10 分	413	11.4%
11 分以上	477	13.1%
合計	3,628	100.0%



平均 5 分 41 秒

**(8) 除細動処置の効果（バイスタンダーによる AED 使用の効果）**

心停止傷病者のうち、心室細動等の心電図波形を呈する傷病者に対しては、除細動処置の救命効果が高いとされています。除細動処置は、AED（自動体外式除細動器）を使用することにより非医療従事者にも行うことが認められており、効果的に使用されることにより、救命効果の向上が期待されます。

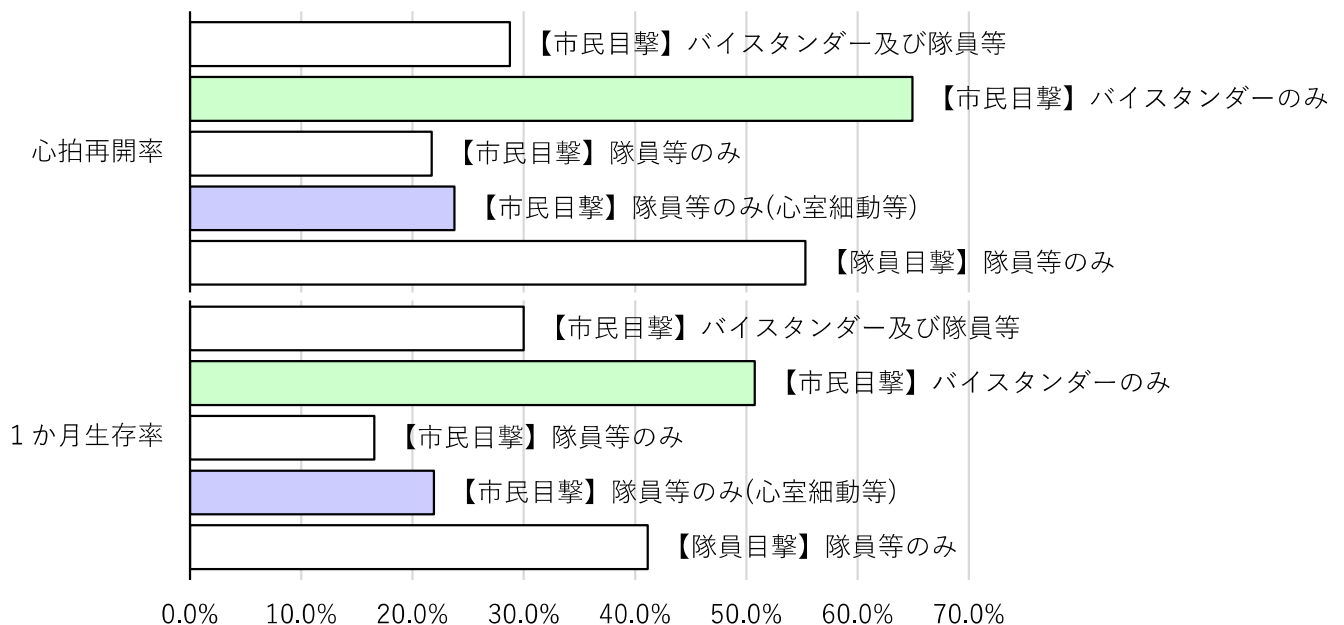
市民目撃があり、かつバイスタンダーのみが除細動処置を実施した場合は、収容前心拍再開率が 64.9%、1 か月生存率が 50.7%と、高い比率になっています。

一方、市民目撃があったもののバイスタンダーによる除細動がなく、救急隊員等が最初の除細動施行者となった場合（初期心電図が心室細動等であった場合に限定）は、収容前心拍再開率が23.8%、1か月生存率が21.9%と、バイスタンダーによる除細動施行事案と比較して低い比率となっています。

これは、心停止目撃から除細動処置が施行されるまでの平均所要時間をみると、バイスタンダーによる除細動の場合は5分15秒であるのに対し、救急隊員等による除細動の場合は11分47秒と、約2.2倍の時間を要していることに関連があると考えられます。

図表 2-2-23 バイスタンダー及び救急隊員等による除細動処置の施行状況

	搬送人員	目撃－除細動 平均時間	心拍 再開数	心拍 再開率	1か月 生存数	1か月 生存率
全除細動事案	1,502	－	406	27.0%	315	21.0%
実施者 = バイスタンダー及び隊員等	104	－	28	26.9%	27	26.0%
うち市民目撃	80	5分23秒	23	28.8%	24	30.0%
実施者 = バイスタンダーのみ	171	－	100	58.5%	77	45.0%
うち市民目撃	134	5分15秒	87	64.9%	68	50.7%
実施者 = 隊員等のみ	1,227	－	278	22.7%	211	17.2%
うち隊員目撃	141	3分10秒	78	55.3%	58	41.1%
うち市民目撃	773	15分40秒	168	21.7%	128	16.6%
うち初期心電図＝心室細動等	488	11分47秒	116	23.8%	107	21.9%



「心室細動等」とは、心停止傷病者の心電図測定時の波形が、「心室細動（VF）」又は「心室頻拍（VT）」という致死的不整脈であった場合を指します。これらの波形は、心臓が痙攣し有効な血液量の拍出が得られていない状態を示しており、除細動処置が唯一の救命処置とされ、かつ当該処置が奏効すれば救命の可能性が高いとされています。

医学的に、心室細動等は心停止後の時間の経過とともに心室細動等以外の波形（「無脈性電気的活動（PEA）」「心静止（Asystole）」）に変化し、除細動処置の適応ではなくなると言われています。初期心電図が心室細動等であれば、波形の変化をきたす前に救急隊が傷病者に接触できたことを示す一つの指標となります。

(9) 発生場所別の心停止目撃・応急手当・除細動処置の実施状況

発生場所別の心停止目撃、応急手当及び除細動の実施状況は、次のとおりです。

育児児童施設・学校、及び運動施設等は、搬送人員は少ないものの、心停止目撃率、応急手当実施率及び除細動施行率が高く、心拍再開率、1か月生存率ともに高い結果となっています。

これらの場所は、頻繁に人の往来があり、心停止が目撃され、バイスタンダーによる応急手当が早期に行われる可能性が高く、かつAEDの設置整備が推進され早期に除細動処置が施行される環境にあるため、心拍再開率等が高率であると推測されます。

一方、搬送人員の8割以上を占める住宅等は、これらの率が低くなっています。

図表 2-2-24 発生場所別心停止目撃・応急手当・除細動実施状況

発生場所区分	搬送人員		目撃あり※1		応急手当あり※2		除細動あり※3		心拍再開		1か月生存		
	実数	平均年齢	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	
(合計)	12,679	74.4	5,725	45.2%	4,924	38.8%	1,502	11.8%	1,139	9.0%	597	4.7%	
居住・介護・宿泊施設	住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	8,892	74.9	3,641	40.9%	2,903	32.6%	801	9.0%	620	7.0%	269	3.0%
	認知症高齢者グループホーム	70	86.5	39	55.7%	32	45.7%	4	5.7%	2	2.9%	2	2.9%
	特別養護老人ホーム	681	87.6	305	44.8%	489	71.8%	42	6.2%	30	4.4%	11	1.6%
	その他老人施設	192	87.0	108	56.3%	113	58.9%	12	6.3%	22	11.5%	12	6.3%
	ホテル・旅館・簡易宿泊所	63	56.9	23	36.5%	25	39.7%	11	17.5%	8	12.7%	5	7.9%
	介護老人保健施設	178	87.0	89	50.0%	113	63.5%	12	6.7%	14	7.9%	6	3.4%
	有料老人ホーム	475	87.8	190	40.0%	320	67.4%	24	5.1%	24	5.1%	10	2.1%
	サービス付高齢者向け住宅	69	83.6	30	43.5%	39	56.5%	4	5.8%	6	8.7%	1	1.4%
	自助施設・グループホーム等（認知症以外）	94	74.9	44	46.8%	42	44.7%	7	7.4%	13	13.8%	8	8.5%
会社・工場等	会社・オフィス	106	55.2	71	67.0%	44	41.5%	46	43.4%	36	34.0%	29	27.4%
	工場・製造所・作業場	54	58.8	30	55.6%	23	42.6%	28	51.9%	6	11.1%	5	9.3%
	その他仕事場業態の場所	7	64.1	4	57.1%	5	71.4%	4	57.1%	-	0.0%	-	0.0%
販売・サービス業施設	241	63.2	179	74.3%	94	39.0%	66	27.4%	56	23.2%	35	14.5%	
娯楽・遊戯施設	37	60.4	26	70.3%	10	27.0%	13	35.1%	6	16.2%	4	10.8%	
健康・保養・美容施設	57	70.5	24	42.1%	32	56.1%	5	8.8%	9	15.8%	5	8.8%	
医療等施設	病院	88	66.7	69	78.4%	72	81.8%	19	21.6%	36	40.9%	19	21.6%
	診療所・クリニック・医院	99	69.9	86	86.9%	76	76.8%	33	33.3%	29	29.3%	17	17.2%
	助産所・鍼灸院・接骨院等	2	83.5	2	100.0%	2	100.0%	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%
育児児童施設・学校	27	46.8	16	59.3%	20	74.1%	8	29.6%	12	44.4%	8	29.6%	
芸術・文化施設	9	67.2	6	66.7%	3	33.3%	3	33.3%	4	44.4%	3	33.3%	
運動施設	57	62.6	38	66.7%	40	70.2%	30	52.6%	28	49.1%	19	33.3%	
公園・遊園地等	63	58.4	15	23.8%	17	27.0%	10	15.9%	3	4.8%	2	3.2%	
宗教施設・斎場等	17	67.6	12	70.6%	6	35.3%	5	29.4%	3	17.6%	2	11.8%	
官公庁・行政施設	38	65.4	26	68.4%	21	55.3%	12	31.6%	10	26.3%	4	10.5%	
道路・車両・交通施設	線路・軌道敷	25	46.9	13	52.0%	2	8.0%	3	12.0%	3	12.0%	1	4.0%
	駅	133	56.9	102	76.7%	86	64.7%	69	51.9%	40	30.1%	34	25.6%
	空港	1	49.0	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	-	0.0%	-	0.0%
	駐車場・駐輪施設	58	54.1	20	34.5%	12	20.7%	6	10.3%	4	6.9%	3	5.2%
	一般道路（公道・私道・施設内道路）	722	63.3	473	65.5%	244	33.8%	192	26.6%	109	15.1%	78	10.8%
高速道路・自動車専用道路	8	45.9	2	25.0%	3	37.5%	1	12.5%	-	0.0%	-	0.0%	
自然環境・土地	農地（田・畑）	7	72.9	1	14.3%	4	57.1%	2	28.6%	-	0.0%	-	0.0%
	山林	3	66.0	2	66.7%	1	33.3%	1	33.3%	-	0.0%	-	0.0%
	河川・水路	53	53.3	7	13.2%	4	7.5%	3	5.7%	1	1.9%	1	1.9%
	海	9	46.6	3	33.3%	4	44.4%	2	22.2%	-	0.0%	-	0.0%
	その他自然環境・土地	4	72.0	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	-	0.0%	-	0.0%
建築・工事現場	37	57.2	25	67.6%	19	51.4%	20	54.1%	4	10.8%	2	5.4%	
その他	3	60.0	2	66.7%	2	66.7%	1	33.3%	-	0.0%	1	33.3%	

※1 市民目撃及び隊員目撃

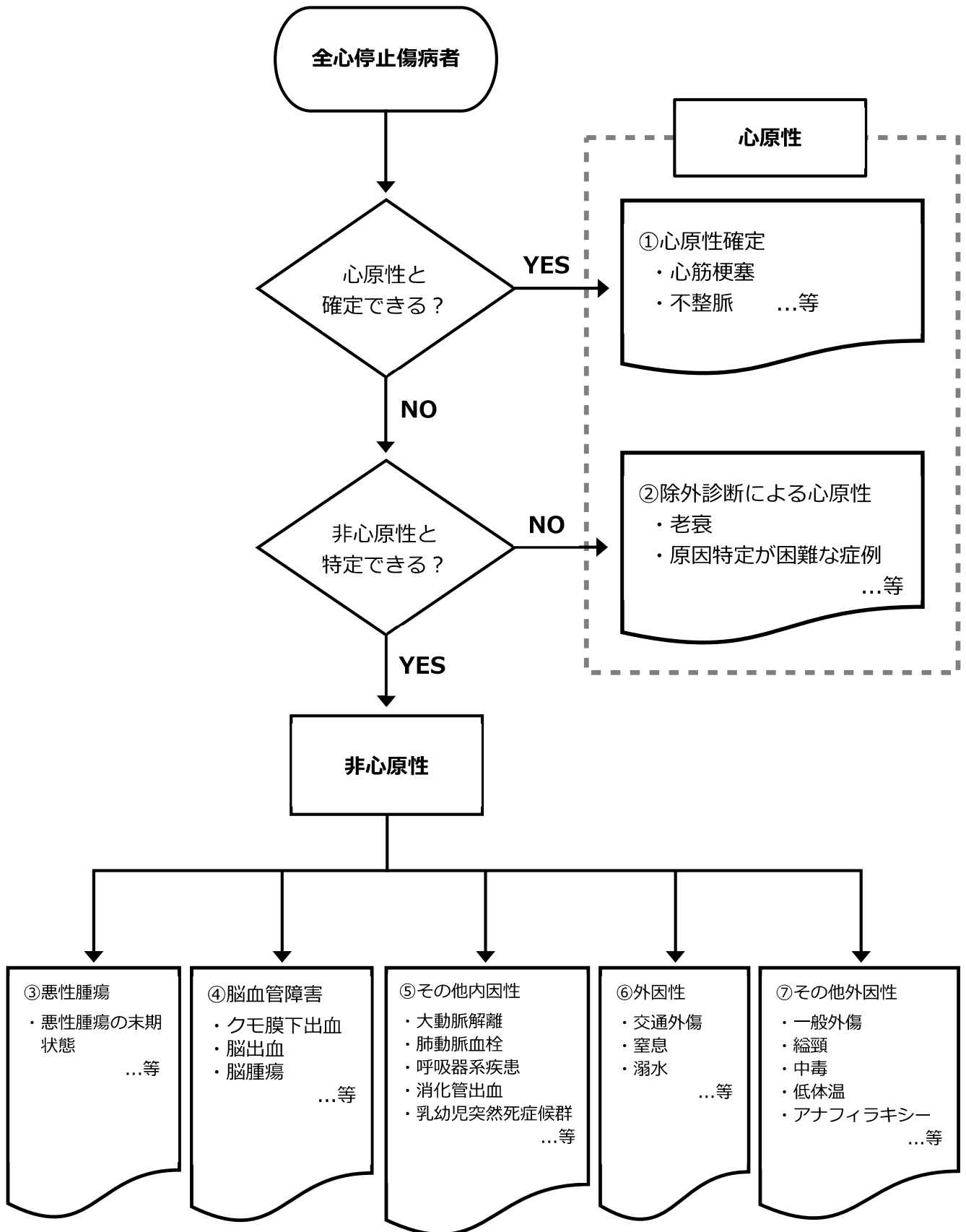
※2 胸骨圧迫・人工呼吸・除細動

※3 バイスタンダーを含む

(10) 心停止の推定原因

ウツタイン様式では、心停止をきたした原因を次に示すフローに基づき分類しています。これは、病態分類として大きく「心原性」と「非心原性」に分類し、それをさらに詳細分類したものです。

図表 2-2-25 ウツタイン様式による心停止の推定原因の分類フロー



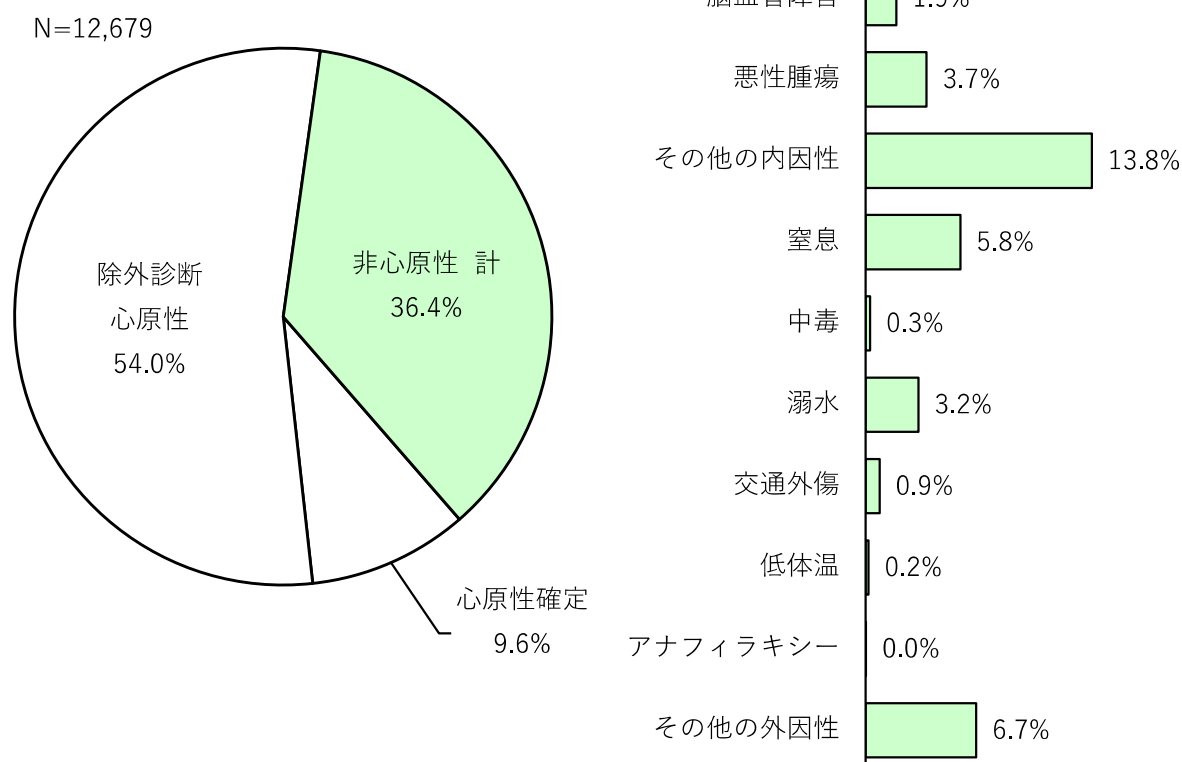


心停止の推定原因別の搬送人員、収容前心拍再開、及び1か月生存等の状況は、次のとおりです。

図表 2-2-26 心停止推定原因別の搬送人員

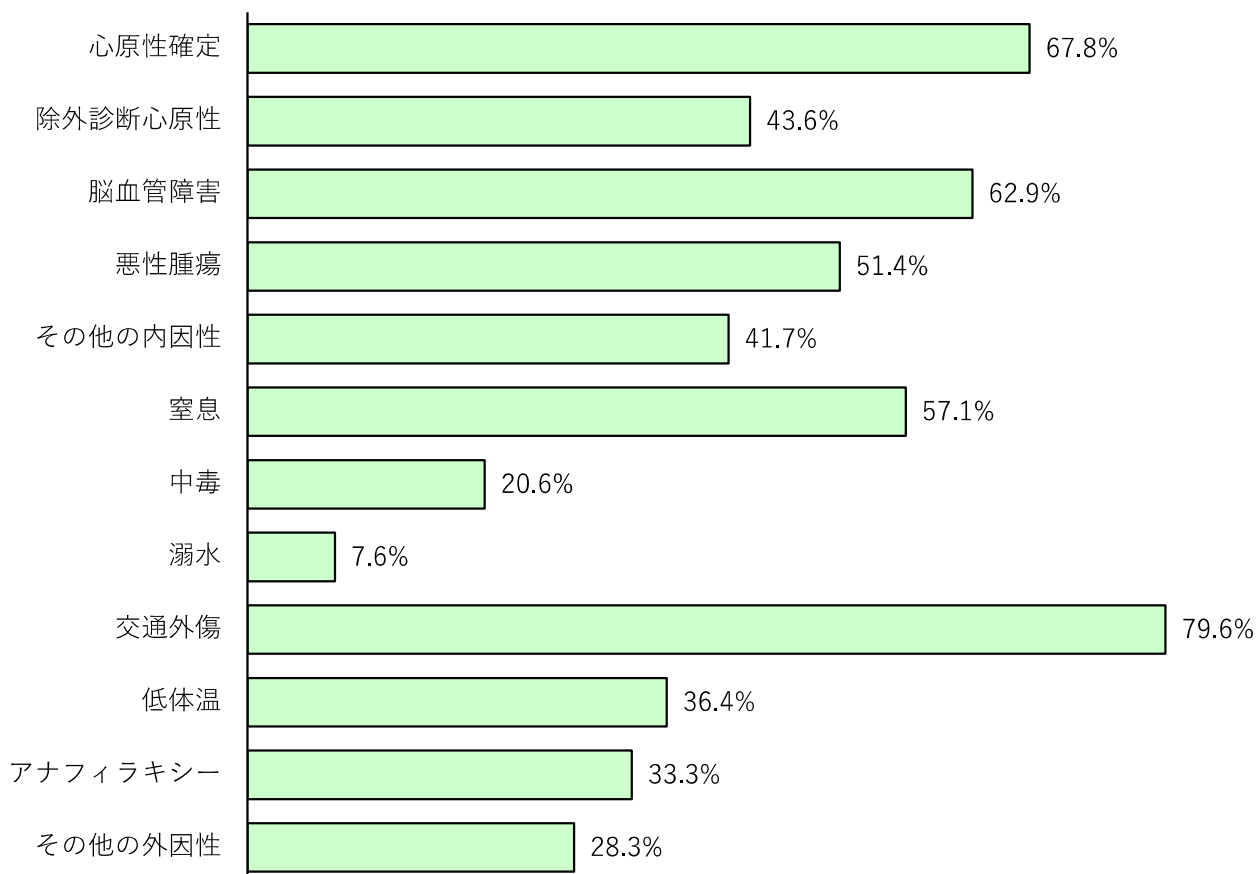
心停止の推定原因		搬送人員	割合
心原性	心原性確定	1,222	9.6%
	除外診断心原性	6,841	54.0%
	(心原性 計)	8,063	63.6%
非心原性	脳血管障害	237	1.9%
	悪性腫瘍	471	3.7%
	その他の内因性	1747	13.8%
	窒息	732	5.8%
	中毒	34	0.3%
	溺水	408	3.2%
	交通外傷	108	0.9%
	低体温	22	0.2%
	アナフィラキシー	3	0.0%
	その他の外因性	854	6.7%
	(非心原性 計)	4,616	36.4%
合計		12,679	100.0%

[非心原性の内訳]



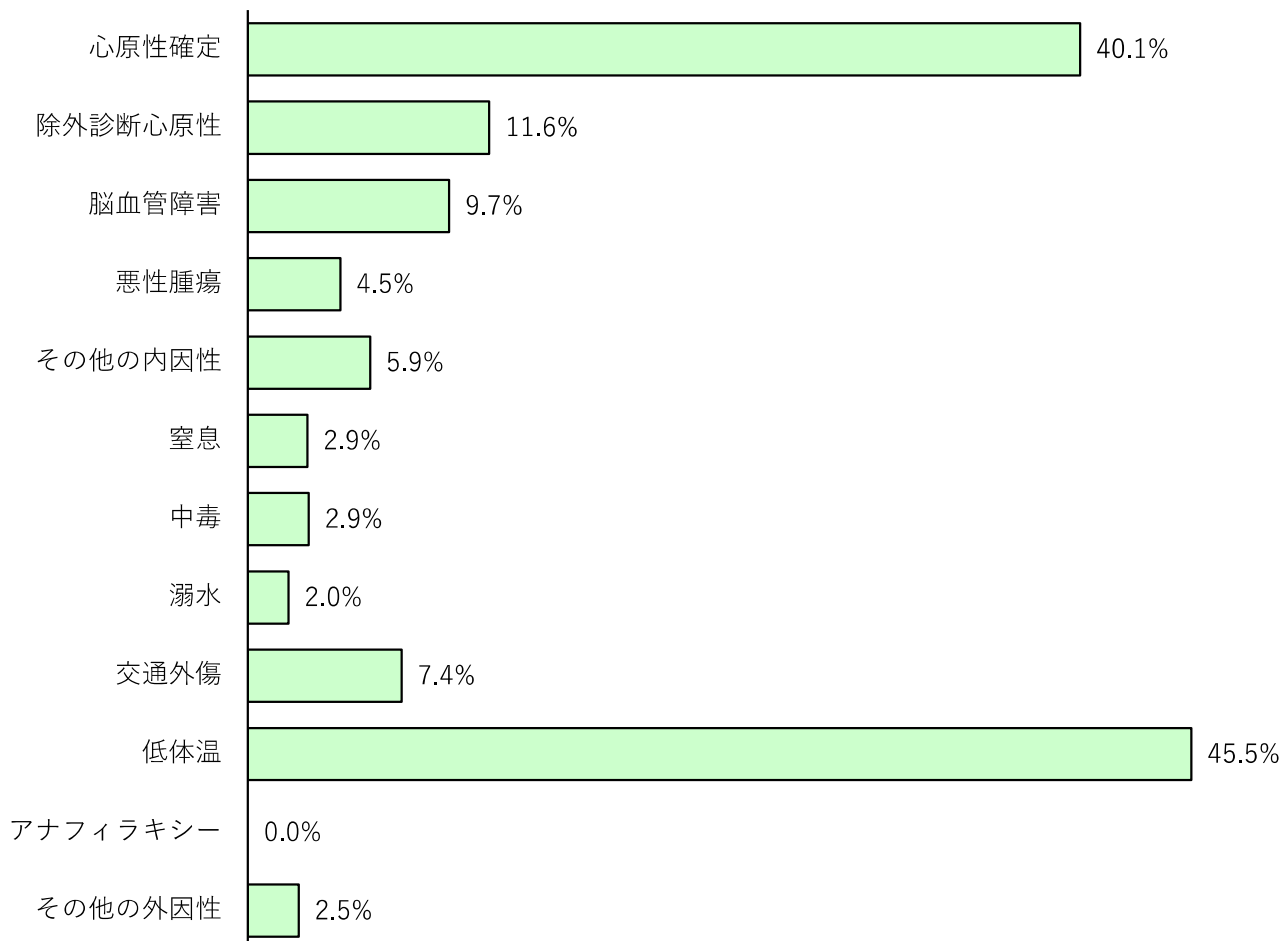
図表 2-2-27 心停止推定原因別の心停止目撃状況

心停止の推定原因		搬送人員 (A)	心停止 目撃数 (B)	割合 (B/A)	目撃状況			
					市民目撃 (C)	割合 (C/A)	隊員目撃 (D)	割合 (D/A)
心原性	心原性確定	1,222	829	67.8%	667	54.6%	162	13.3%
	除外診断心原性	6,841	2,983	43.6%	2,551	37.3%	432	6.3%
	(心原性 計)	8,063	3,812	47.3%	3,218	39.9%	594	7.4%
非心原性	脳血管障害	237	149	62.9%	105	44.3%	44	18.6%
	悪性腫瘍	471	242	51.4%	201	42.7%	41	8.7%
	その他の内因性	1,747	729	41.7%	607	34.7%	122	7.0%
	窒息	732	418	57.1%	384	52.5%	34	4.6%
	中毒	34	7	20.6%	5	14.7%	2	5.9%
	溺水	408	31	7.6%	29	7.1%	2	0.5%
	交通外傷	108	86	79.6%	70	64.8%	16	14.8%
	低体温	22	8	36.4%	2	9.1%	6	27.3%
	アナフィラキシー	3	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%
	その他の外因性	854	242	28.3%	202	23.7%	40	4.7%
(非心原性 計)		4,616	1,913	41.4%	1,606	34.8%	307	6.7%
合計		12,679	5,725	45.2%	4,824	38.0%	901	7.1%



図表 2-2-28 心停止推定原因別の除細動施行状況

心停止の推定原因		搬送人員	除細動施行者数	除細動施行率
心原性	心原性確定	1,222	490	40.1%
	除外診断心原性	6,841	796	11.6%
	(心原性 計)	8,063	1,286	15.9%
非心原性	脳血管障害	237	23	9.7%
	悪性腫瘍	471	21	4.5%
	その他の内因性	1747	103	5.9%
	窒息	732	21	2.9%
	中毒	34	1	2.9%
	溺水	408	8	2.0%
	交通外傷	108	8	7.4%
	低体温	22	10	45.5%
	アナフィラキシー	3	0	0.0%
	その他の外因性	854	21	2.5%
	(非心原性 計)	4,616	216	4.7%
合計		12,679	1,502	11.8%



図表 2-2-29 心停止推定原因別の心拍再開状況

心停止推定原因別の心拍再開状況（目撃有無別）

心停止の推定原因		全体			心停止目撃あり（※）			心停止目撃なし		
		搬送人員 (A)	心拍再開数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	心拍再開数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	心拍再開数 (F)	割合 (F/E)
心原性	心原性確定	1,222	325	26.6%	829	290	35.0%	393	35	8.9%
	除外診断心原性	6,841	442	6.5%	2,983	354	11.9%	3,858	88	2.3%
	（心原性 計）	8,063	767	9.5%	3,812	644	16.9%	4,251	123	2.9%
非心原性	脳血管障害	237	86	36.3%	149	77	51.7%	88	9	10.2%
	悪性腫瘍	471	14	3.0%	242	10	4.1%	229	4	1.7%
	その他の内因性	1747	107	6.1%	729	89	12.2%	1018	18	1.8%
	窒息	732	107	14.6%	418	92	22.0%	314	15	4.8%
	中毒	34	7	20.6%	7	4	57.1%	27	3	11.1%
	溺水	408	10	2.5%	31	4	12.9%	377	6	1.6%
	交通外傷	108	8	7.4%	86	8	9.3%	22	0	0.0%
	低体温	22	1	4.5%	8	1	12.5%	14	0	0.0%
	アナフィラキシー	3	0	0.0%	1	0	0.0%	2	0	0.0%
	その他の外因性	854	32	3.7%	242	19	7.9%	612	13	2.1%
	（非心原性 計）	4,616	372	8.1%	1,913	304	15.9%	2,703	68	2.5%
合計	12,679	1,139	9.0%	5,725	948	16.6%	6,954	191	2.7%	

（※隊員目撃及び市民目撃）

心停止推定原因別の心拍再開状況（応急手当有無別）

心停止の推定原因		市民目撃 (応急手当あり)			市民目撃 (応急手当なし)			目撃なし (応急手当あり)			目撃なし (応急手当なし)		
		搬送人員 (A)	心拍再開数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	心拍再開数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	心拍再開数 (F)	割合 (F/E)	搬送人員 (G)	心拍再開数 (H)	割合 (H/G)
心原性	心原性確定	364	143	39.3%	303	65	21.5%	159	15	9.4%	234	20	8.5%
	除外診断心原性	1,166	165	14.2%	1,385	124	9.0%	1,608	42	2.6%	2,250	46	2.0%
	（心原性 計）	1,530	308	20.1%	1,688	189	11.2%	1,767	57	3.2%	2,484	66	2.7%
非心原性	脳血管障害	61	38	62.3%	44	20	45.5%	46	8	17.4%	42	1	2.4%
	悪性腫瘍	65	2	3.1%	136	6	4.4%	84	2	2.4%	145	2	1.4%
	その他の内因性	279	38	13.6%	328	29	8.8%	407	10	2.5%	611	8	1.3%
	窒息	228	47	20.6%	156	34	21.8%	124	4	3.2%	190	11	5.8%
	中毒	1	0	0.0%	4	3	75.0%	3	0	0.0%	24	3	12.5%
	溺水	11	1	9.1%	18	2	11.1%	124	5	4.0%	253	1	0.4%
	交通外傷	21	4	19.0%	49	3	6.1%	3	0	0.0%	19	0	0.0%
	低体温	0	0	0.0%	2	0	0.0%	2	0	0.0%	12	0	0.0%
	アナフィラキシー	0	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
	その他の外因性	38	5	13.2%	164	11	6.7%	129	7	5.4%	483	6	1.2%
（非心原性 計）	704	135	19.2%	902	108	12.0%	923	36	3.9%	1,780	32	1.8%	
合計	2,234	443	19.8%	2,590	297	11.5%	2,690	93	3.5%	4,264	98	2.3%	

図表 2-2-30 心停止推定原因別の1か月生存状況

心停止推定原因別の1か月生存状況（目撃有無別）

心停止の推定原因		全体			心停止目撃あり（※）			心停止目撃なし		
		搬送人員 (A)	1か月生存数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	1か月生存数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	1か月生存数 (F)	割合 (F/E)
心原性	心原性確定	1,222	275	22.5%	829	249	30.0%	393	26	6.6%
	除外診断心原性	6,841	171	2.5%	2,983	139	4.7%	3,858	32	0.8%
	（心原性計）	8,063	446	5.5%	3,812	388	10.2%	4,251	58	1.4%
非心原性	脳血管障害	237	27	11.4%	149	27	18.1%	88	0	0.0%
	悪性腫瘍	471	1	0.2%	242	1	0.4%	229	0	0.0%
	その他の内因性	1747	43	2.5%	729	37	5.1%	1018	6	0.6%
	窒息	732	50	6.8%	418	43	10.3%	314	7	2.2%
	中毒	34	4	11.8%	7	3	42.9%	27	1	3.7%
	溺水	408	5	1.2%	31	4	12.9%	377	1	0.3%
	交通外傷	108	4	3.7%	86	4	4.7%	22	0	0.0%
	低体温	22	2	9.1%	8	2	25.0%	14	0	0.0%
	アナフィラキシー	3	0	0.0%	1	0	0.0%	2	0	0.0%
	その他の外因性	854	15	1.8%	242	9	3.7%	612	6	1.0%
	（非心原性計）	4,616	151	3.3%	1,913	130	6.8%	2,703	21	0.8%
合計		12,679	597	4.7%	5,725	518	9.0%	6,954	79	1.1%

（※隊員目撃及び市民目撃）

心停止推定原因別の1か月生存状況（応急手当有無別）

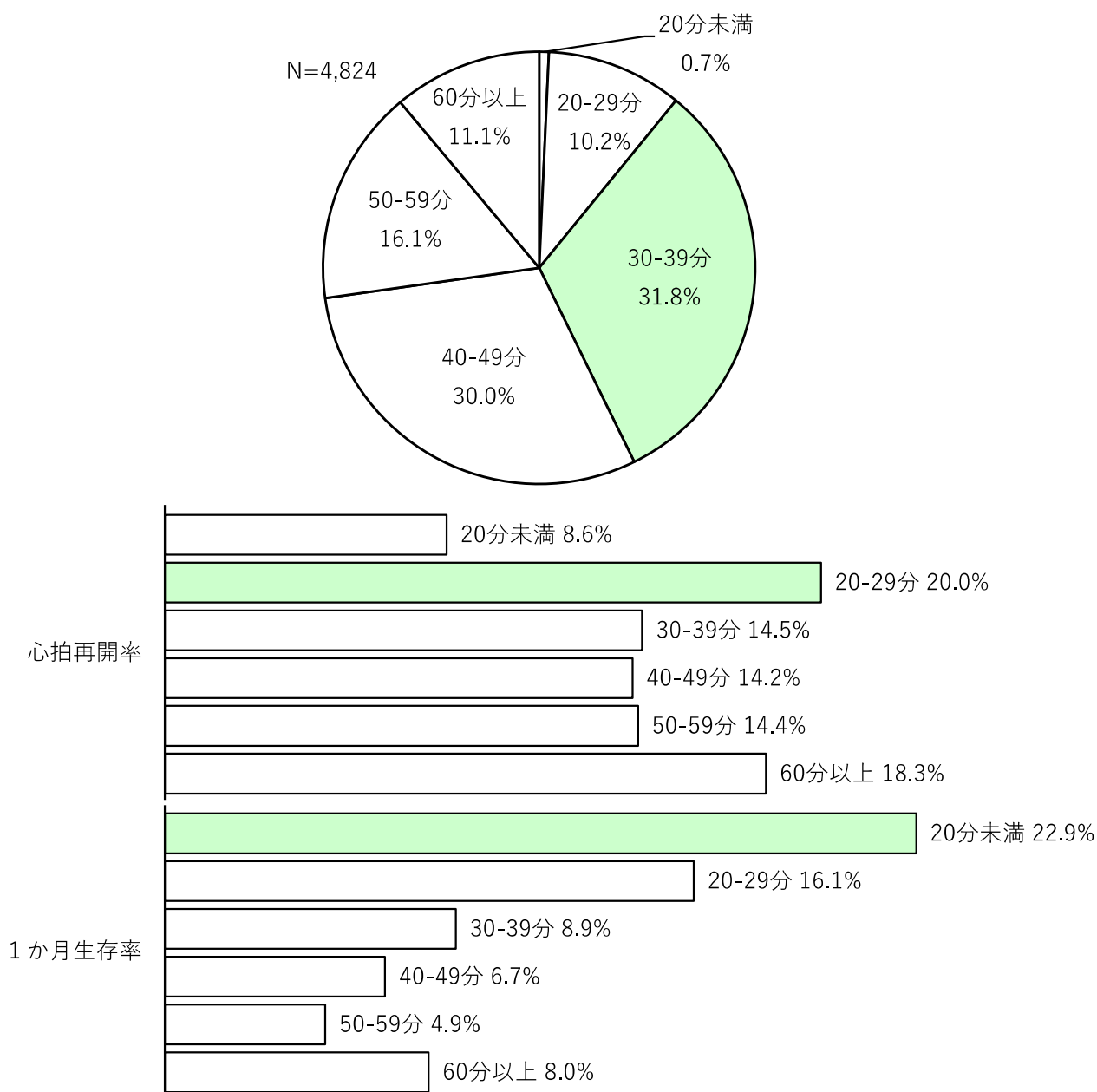
心停止の推定原因		市民目撃 （応急手当あり）			市民目撃 （応急手当なし）			目撃なし （応急手当あり）			目撃なし （応急手当なし）		
		搬送人員 (A)	1か月生存数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	1か月生存数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	1か月生存数 (F)	割合 (F/E)	搬送人員 (G)	1か月生存数 (H)	割合 (H/G)
心原性	心原性確定	364	136	37.4%	303	52	17.2%	159	14	8.8%	234	12	5.1%
	除外診断心原性	1,166	84	7.2%	1,385	31	2.2%	1,608	19	1.2%	2,250	13	0.6%
	（心原性計）	1,530	220	14.4%	1,688	83	4.9%	1,767	33	1.9%	2,484	25	1.0%
非心原性	脳血管障害	61	15	24.6%	44	5	11.4%	46	0	0.0%	42	0	0.0%
	悪性腫瘍	65	0	0.0%	136	1	0.7%	84	0	0.0%	145	0	0.0%
	その他の内因性	279	16	5.7%	328	10	3.0%	407	5	1.2%	611	1	0.2%
	窒息	228	24	10.5%	156	11	7.1%	124	2	1.6%	190	5	2.6%
	中毒	1	1	100.0%	4	1	25.0%	3	0	0.0%	24	1	4.2%
	溺水	11	1	9.1%	18	2	11.1%	124	0	0.0%	253	1	0.4%
	交通外傷	21	3	14.3%	49	1	2.0%	3	0	0.0%	19	0	0.0%
	低体温	0	0	0.0%	2	1	50.0%	2	0	0.0%	12	0	0.0%
	アナフィラキシー	0	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
	その他の外因性	38	3	7.9%	164	3	1.8%	129	2	1.6%	483	4	0.8%
（非心原性計）	704	63	8.9%	902	35	3.9%	923	9	1.0%	1,780	12	0.7%	
合計		2,234	283	12.7%	2,590	118	4.6%	2,690	42	1.6%	4,264	37	0.9%

## (1) 市民目撃から医療機関収容所要時間区分別心拍再開・1か月生存

市民目撃があった傷病者 4,824 人のうち、市民目撃から医療機関に収容されるまでの所要時間等の状況は次のとおりです。

図表 2-2-31 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別搬送人員内訳

	搬送人員		心拍再開数		1か月生存数	
		割合		心拍再開率		1か月生存率
20分未満	35	0.7%	3	8.6%	8	22.9%
20-29分	491	10.2%	98	20.0%	79	16.1%
30-39分	1,536	31.8%	223	14.5%	136	8.9%
40-49分	1,448	30.0%	206	14.2%	97	6.7%
50-59分	778	16.1%	112	14.4%	38	4.9%
60分以上	536	11.1%	98	18.3%	43	8.0%
合計	4,824	100.0%	740	15.3%	401	8.3%



(12) 収容前心拍再開有無別1か月生存

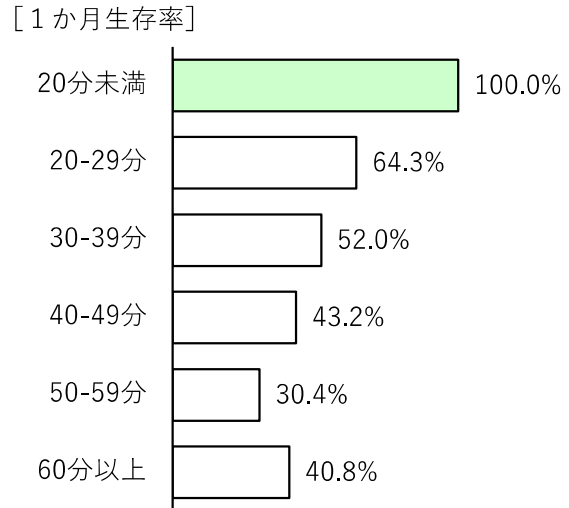
市民目撃があった傷病者 4,824 人のうち、収容前心拍再開があった群の 740 人及び収容前心拍再開がなかった群の 4,084 人の 1 か月生存状況等は、次のとおりです。

収容前に心拍再開があった群は、収容前に心拍再開がなかった群と比較して、1 か月生存率に顕著な差が見られます。

図表 2-2-32 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別 1 か月生存状況（収容前心拍再開あり群）

	搬送人員	割合	1 か月生存数	1 か月生存率
20分未満	3	0.4%	3	100.0%
20-29分	98	13.2%	63	64.3%
30-39分	223	30.1%	116	52.0%
40-49分	206	27.8%	89	43.2%
50-59分	112	15.1%	34	30.4%
60分以上	98	13.2%	40	40.8%
合計	740	100.0%	345	46.6%

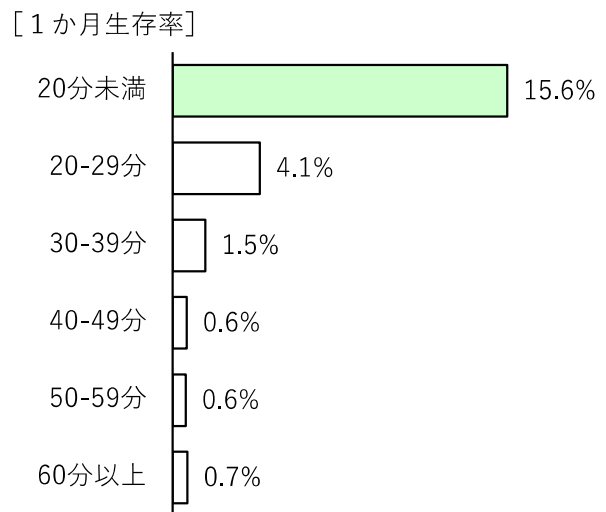
平均 45 分 55 秒



図表 2-2-33 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別 1 か月生存状況（収容前心拍再開なし群）

	搬送人員	割合	1 か月生存数	1 か月生存率
20分未満	32	0.8%	5	15.6%
20-29分	393	9.6%	16	4.1%
30-39分	1,313	32.1%	20	1.5%
40-49分	1,242	30.4%	8	0.6%
50-59分	666	16.3%	4	0.6%
60分以上	438	10.7%	3	0.7%
合計	4,084	100.0%	56	1.4%

平均 44 分 26 秒



## (13) 市民目撃から心拍再開所要時間別1か月生存

市民目撃があり、収容前に心拍再開があった傷病者 740 人のうち、市民目撃から心拍再開までの所要時間と心拍再開時期別の1か月生存状況は、次のとおりです。

市民目撃から心拍再開所要時間の平均は20分13秒で、20分未満に心拍再開した傷病者群の1か月生存率は67.2%と、20分以上に心拍再開した傷病者群の24.4%より、42.8ポイント高くなっています。

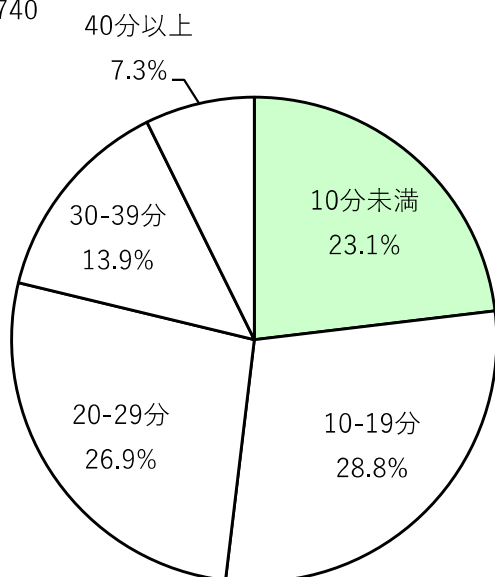
また、隊員等が到着する前にバイスタンダー等の応急手当により心拍再開した群は、全体の19.2%で、1か月生存率76.1%と、隊員等が到着後に心拍再開した群の1か月生存率39.6%とを比較すると、36.5ポイント高くなっています。

図表 2-2-34 市民目撃から初回心拍再開までの所要時間別搬送人員内訳

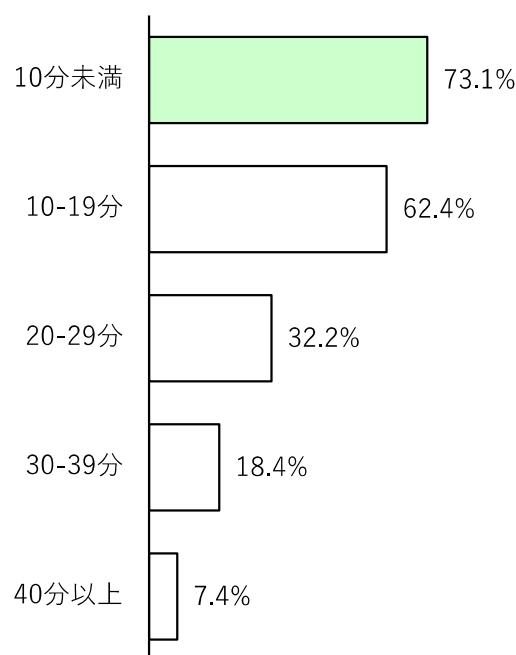
心停止の推定原因	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
10分未満	171	23.1%	125	73.1%
10-19分	213	28.8%	133	62.4%
20分未満 計	384	51.9%	258	67.2%
20-29分	199	26.9%	64	32.2%
30-39分	103	13.9%	19	18.4%
40分以上	54	7.3%	4	7.4%
20分以上 計	356	48.1%	87	24.4%
合計	740	100.0%	345	46.6%

[搬送人員]

N=740



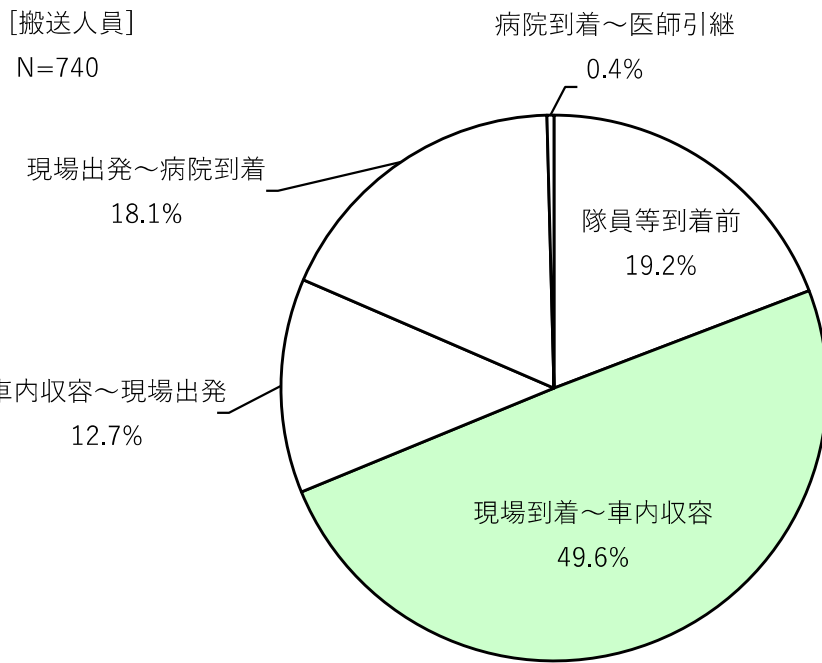
[1か月生存率]



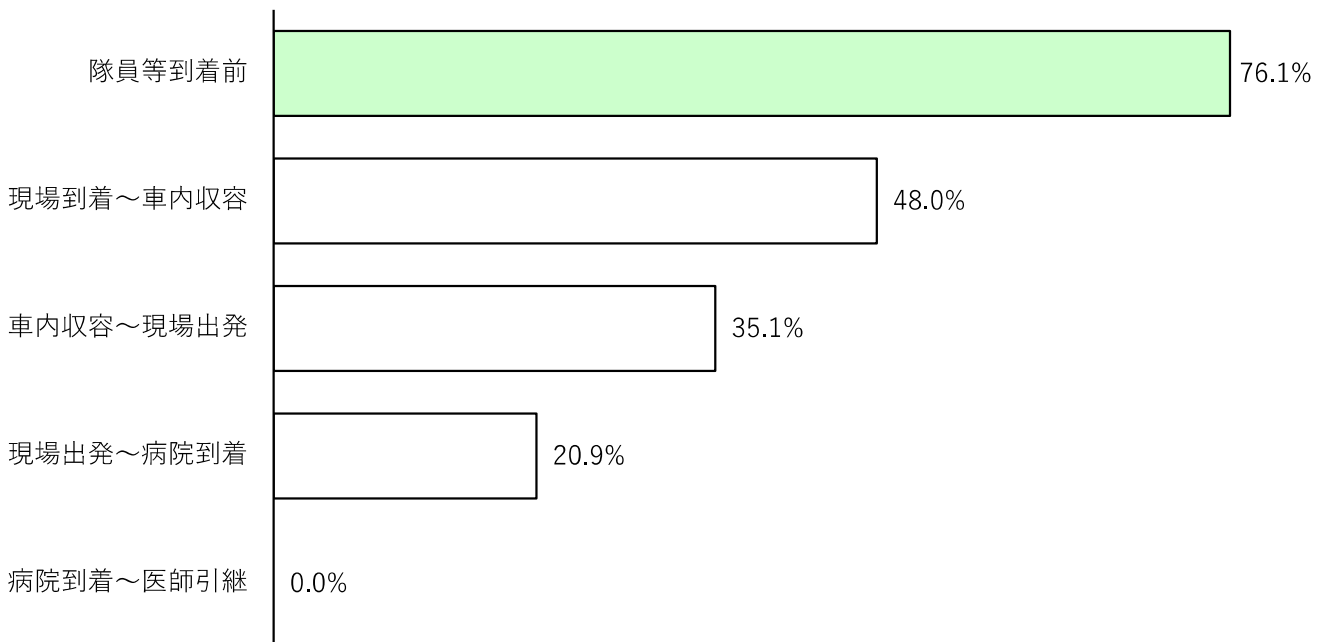


図表 2-2-35 初回心拍再開時期内訳（収容前心拍再開あり群）

再開時期	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
隊員等到着前	142	19.2%	108	76.1%
現場到着～車内収容	367	49.6%	176	48.0%
車内収容～現場出発	94	12.7%	33	35.1%
現場出発～病院到着	134	18.1%	28	20.9%
病院到着～医師引継	3	0.4%	0	0.0%
隊員等到着後計	598	80.8%	237	39.6%
合計	740	100.0%	345	46.6%



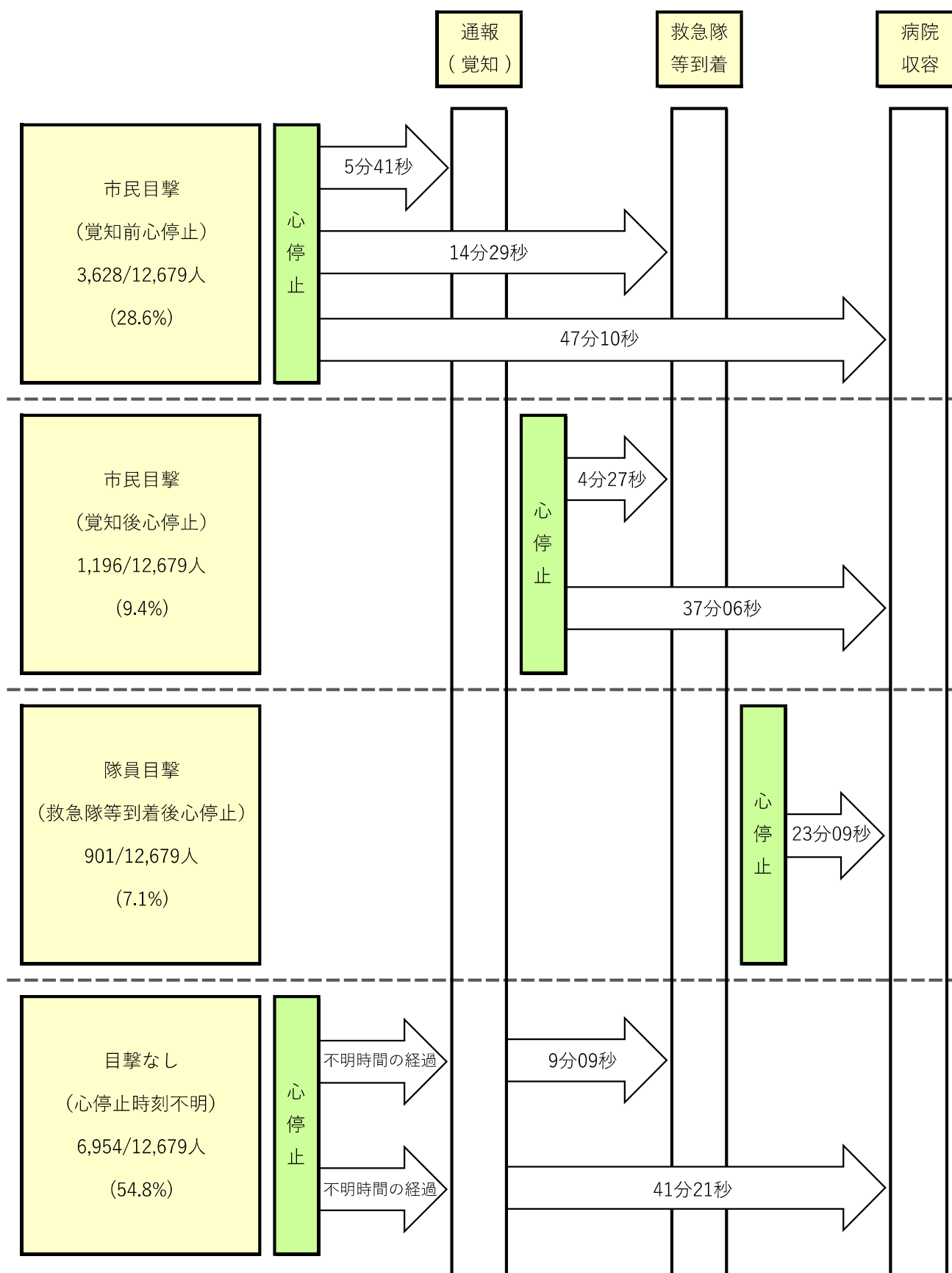
[1か月生存率]



(14) 心停止目撃から医療機関収容までの所要時間

心停止傷病者が心停止となってから医療機関に収容されるまでの平均所要時間を、心停止目撃の時期別に区分して集計した結果は、次のとおりです。

図表 2-2-36 心停止目撃から医療機関収容までの所要時間



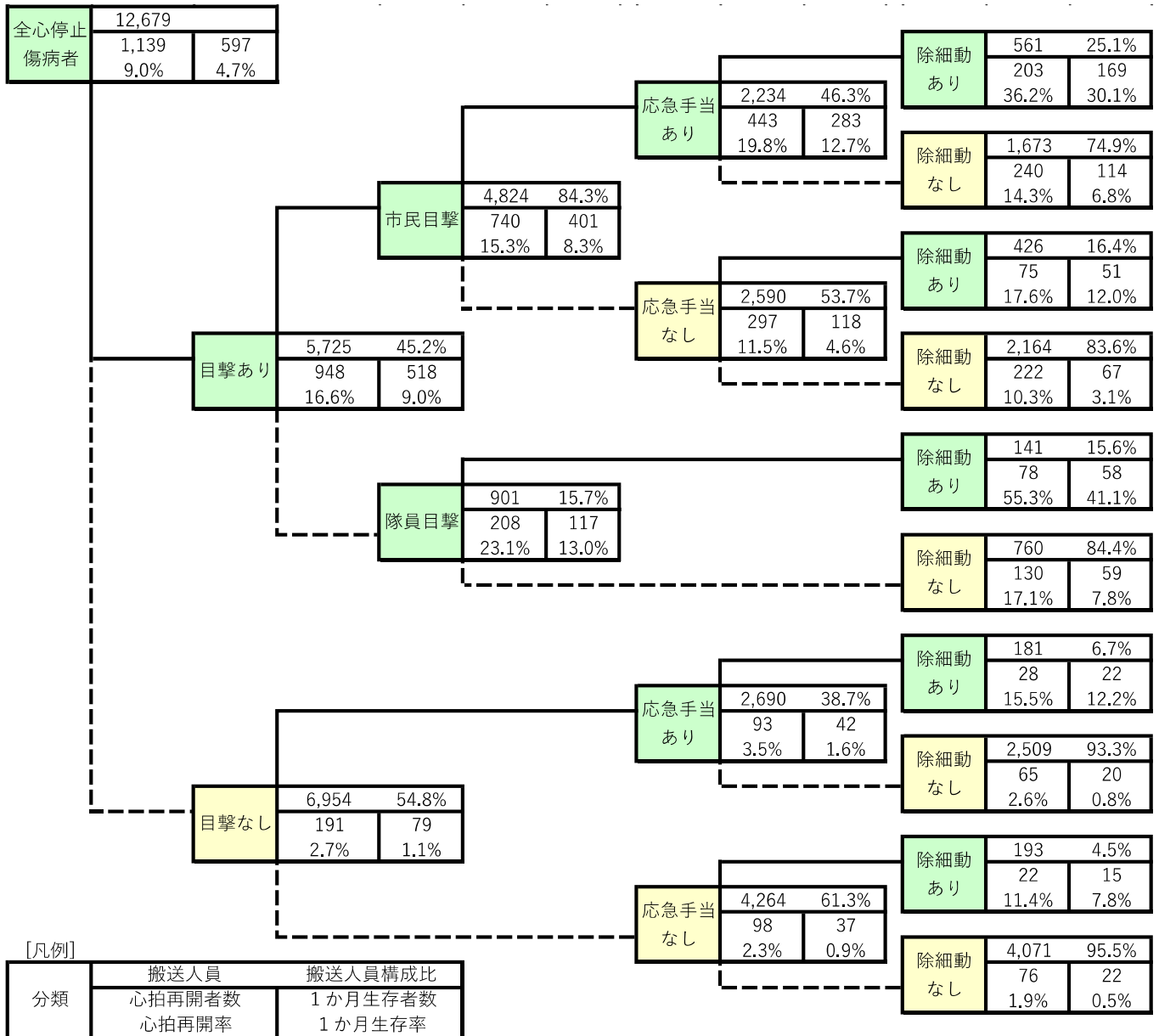
(15) 救命効果のテンプレート

前(3)から(14)の分析結果の概略を表したテンプレート（統計系統図）は次のとおりです。

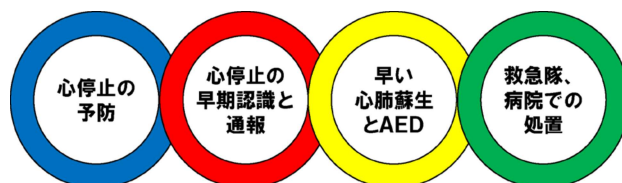
テンプレートを部分的に見みると、心停止目撃、応急手当、除細動があった群の方がなかった群より心拍再開、1か月生存状況が良い結果となっていますが、なかった群の方があった群より搬送人員の実数が大幅に多いため、全体の心拍再開、1か月生存状況は良い結果とはなっていません。

あった群の搬送人員がなかった群の搬送人員を上回り、かつ「救命の連鎖」が途切れることなく行われ、救命効果が向上されることが今後望まれます。

図表 2-2-37 救命効果のテンプレート



図表 2-2-38 救命の連鎖 (Chain of Survival)



大切な命を救うために必要な行動を、迅速に途切れることなく行う重要性を表すもの。

## 第3節 救急処置

### 1 救急隊員による救急処置

全搬送人員 630,287 人で処置内容及び処置実施人数は以下のとおりです。

図表 2-3-1 救急処置内容

処置内容	処置実施人員	搬送人員に対する割合
心肺蘇生	12,147	1.9%
人工呼吸	13,669	2.2%
気道確保	31,995	5.1%
ラリングアルマスク※	39	0.0%
食道閉鎖式エアウェイ※	4,683	0.7%
気管内チューブ※	468	0.1%
静脈路確保（心肺機能停止前）※	1,585	0.3%
静脈路確保（心肺機能停止後）※	3,756	0.6%
薬剤投与（アドレナリン）※	1,524	0.2%
薬剤投与（ブドウ糖）※	564	0.1%
除細動	1,225	0.2%
血糖測定	1,910	0.3%
保温処置	382,141	60.6%
心電図測定	317,878	50.4%
酸素吸入	95,111	15.1%
固定（部分・全身）	41,658	6.6%
被覆・創傷処置	32,133	5.1%
止血処置	18,712	3.0%
医療処置継続	1,264	0.2%
冷却	3,099	0.5%

※は特定行為を示します。

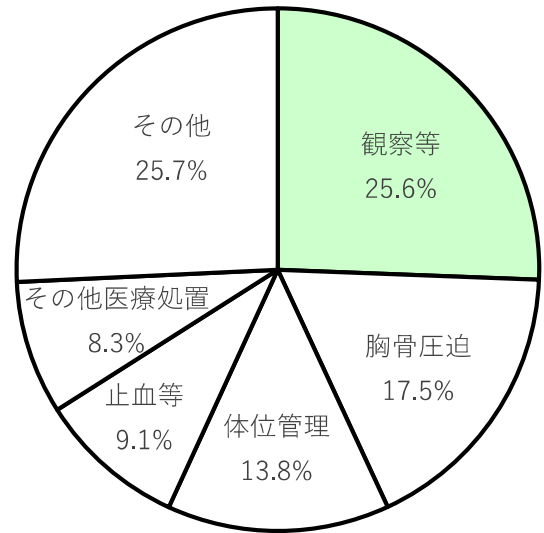
## 2 都民等による応急手当

### (1) 応急手当の状況

傷病者に対して、家族、友人、近隣者などにより、救急隊が到着するまでの間に、27,236件の応急手当が実施されています。

図表 2-3-2 応急手当内容

応急手当内容	実施件数	割合
観察・バイタルサイン測定等	6,978	25.6%
胸骨圧迫（心マッサージ）	4,760	17.5%
体位管理	3,745	13.8%
止血・創傷処置	2,490	9.1%
病院医・往診医その他医療処置	2,250	8.3%
AED装着、心電図測定	1,236	4.5%
在宅療法・既往における処置対応	903	3.3%
保温・冷却	895	3.3%
移動（危険回避）	742	2.7%
異物除去	458	1.7%
人工呼吸	413	1.5%
気道確保	273	1.0%
除細動	223	0.8%
固定処置	161	0.6%
その他	1,709	6.3%
合計	27,236	100.0%

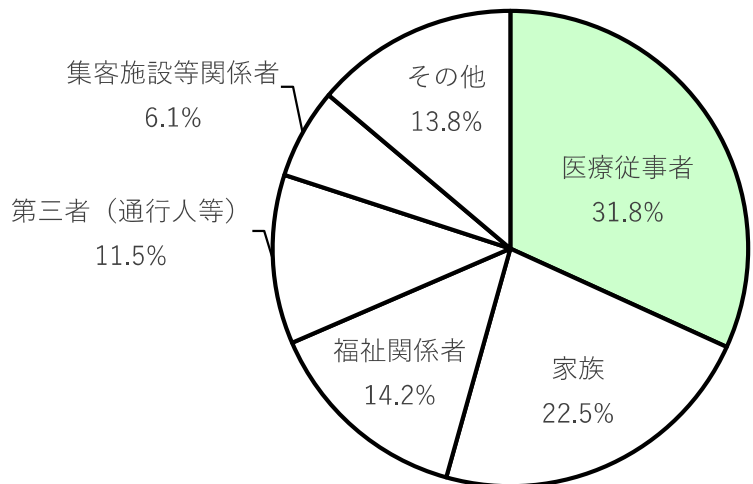


### (2) 応急手当実施者

都民等による応急手当を実施者別にみると、医療従事者が最も多くなっています。

図表 2-3-3 応急手当実施者

実施者別	実施件数	割合
医療従事者	7,241	31.8%
家族	5,135	22.5%
福祉関係者	3,225	14.2%
第三者（通行人等）	2,621	11.5%
集客施設等関係者	1,399	6.1%
職場・学校関係者	1,064	4.7%
友人・近隣者	674	3.0%
医療機関スタッフ	630	2.8%
警察	370	1.6%
消防職員・消防団員	129	0.6%
その他	285	1.3%
合計	22,773	100.0%



## (3) 事故種別ごとの応急手当内容・実施者

都民等による応急手当の内容と実施者を事故種別ごとにみると、次のとおりとなっています。

図表 2-3-4 事故種別ごとの応急手当内容、応急手当実施者

応急手当内容	合計	交通 事故	火災 事故	運動 競技	自然 災害	水難 事故	労働 災害	一般 負傷	自損 行為	加害	急病
観察・バイタルサイン測定等	6,978	107	1	42	-	1	22	804	15	6	5,980
胸骨圧迫（心マッサージ）	4,760	56	-	13	-	66	7	377	141	1	4,099
体位管理	3,745	226	1	36	-	2	27	1,029	18	7	2,399
止血・創傷処置	2,490	272	-	30	-	-	99	1,919	34	21	115
病院医・往診医その他医療処置	2,250	17	-	8	-	2	8	281	13	-	1,921
AED装着、心電図測定	1,236	17	-	6	-	6	2	85	14	-	1,106
在宅療法・既往における処置対応	903	-	-	-	-	-	-	69	-	-	834
保温・冷却	895	40	1	89	-	1	18	373	2	1	370
移動（危険回避）	742	99	3	6	-	27	7	216	40	2	342
異物除去	458	-	-	-	-	-	-	337	1	-	120
人工呼吸	413	3	-	2	-	6	1	46	14	-	341
気道確保	273	7	-	-	-	-	2	25	4	-	235
除細動	223	3	-	2	-	-	-	1	-	-	217
固定処置	161	22	-	65	-	-	6	63	-	-	5
その他	1,709	103	6	12	-	3	12	430	19	3	1,121
合計	27,236	972	12	311	-	114	211	6,055	315	41	19,205

処置実施者	合計	交通 事故	火災 事故	運動 競技	自然 災害	水難 事故	労働 災害	一般 負傷	自損 行為	加害	急病
医療従事者	7,241	133	1	42	-	4	29	1,042	28	7	5,955
家族	5,135	42	2	8	-	59	10	1,337	133	5	3,539
福祉関係者	3,225	8	-	-	-	-	1	519	10	2	2,685
第三者（通行人等）	2,621	445	6	5	-	9	11	1,240	20	8	877
集客施設等関係者	1,399	27	-	34	-	15	4	421	10	4	884
職場・学校関係者	1,064	14	-	98	-	-	118	256	11	1	566
友人・近隣者	674	24	1	42	-	1	-	216	23	3	364
医療機関スタッフ	630	4	-	11	-	-	4	89	1	-	521
警察	370	56	-	-	-	1	2	94	16	6	195
消防職員・消防団員	129	20	-	1	-	-	4	35	4	1	64
その他	285	50	1	5	-	2	2	55	4	-	166
合計	22,773	823	11	246	-	91	185	5,304	260	37	15,816

※ 応急手当実施件数は転院搬送に係るものを除きます。

※ 1人の傷病者に対して複数の処置が実施された場合は、処置者1名につき3つの処置まで計上しています。

※ 1人の傷病者に対して複数名が処置を実施した場合は、4名まで処置実施者として計上しています。

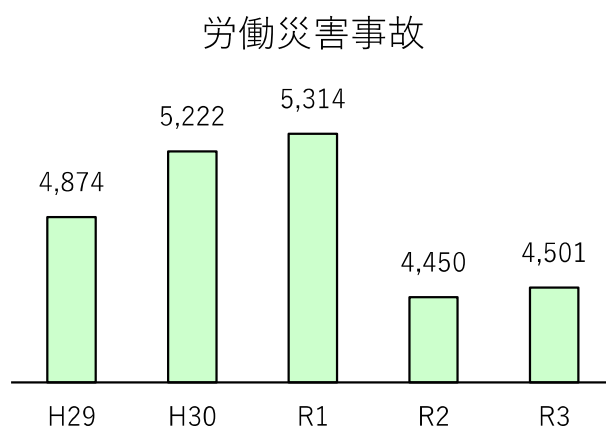
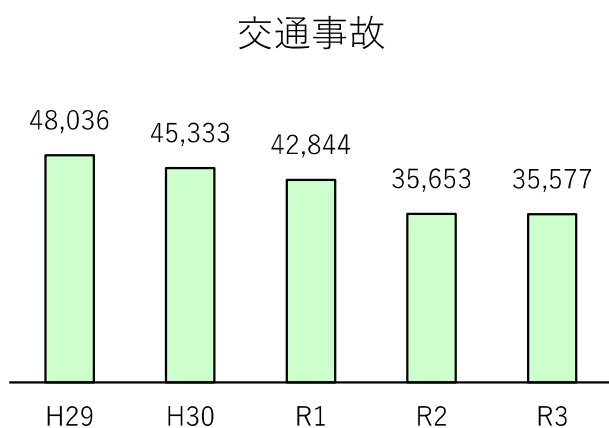
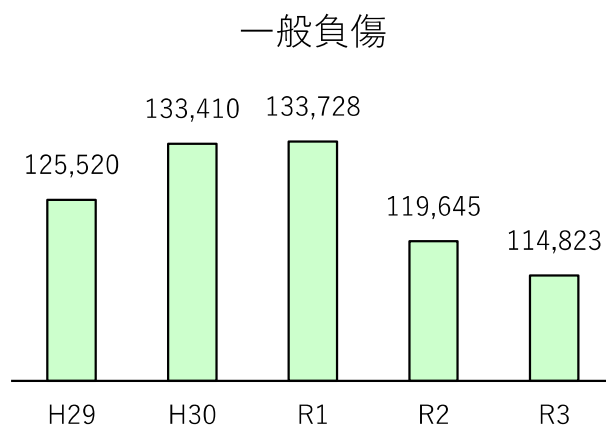
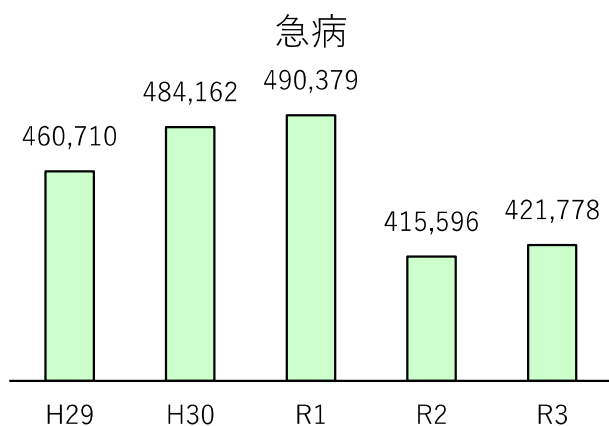
## 第4節 事故種別ごとの活動統計

### 1 事故種別ごとの搬送人員推移

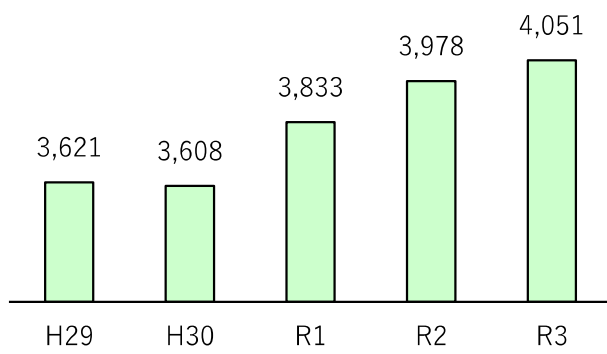
自損行為、火災事故は増加傾向にあり、急病、一般負傷、交通事故、労働災害事故、加害、運動競技事故、水難事故、自然災害事故、転院搬送は減少傾向にあります。

図表 2-4-1 事故種別ごとの搬送人員推移

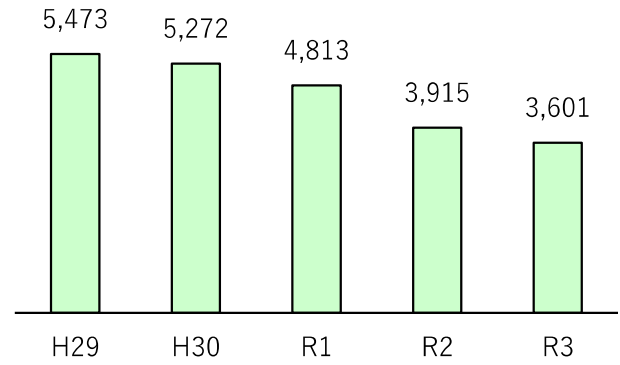
事故種別	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
急病	460,710	484,162	490,379	415,596	421,778
一般負傷	125,520	133,410	133,728	119,645	114,823
交通事故	48,036	45,333	42,844	35,653	35,577
労働災害事故	4,874	5,222	5,314	4,450	4,501
自損行為	3,621	3,608	3,833	3,978	4,051
加害	5,473	5,272	4,813	3,915	3,601
運動競技事故	5,317	5,409	5,256	2,917	3,465
火災事故	677	682	606	616	565
水難事故	490	487	455	363	257
自然災害事故	12	20	14	7	10
転院搬送	44,198	42,823	44,658	38,499	41,659



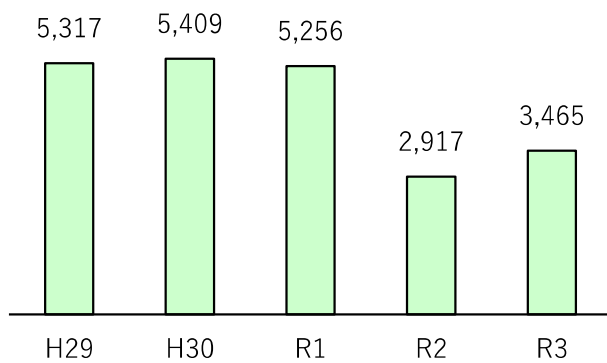
自損行為



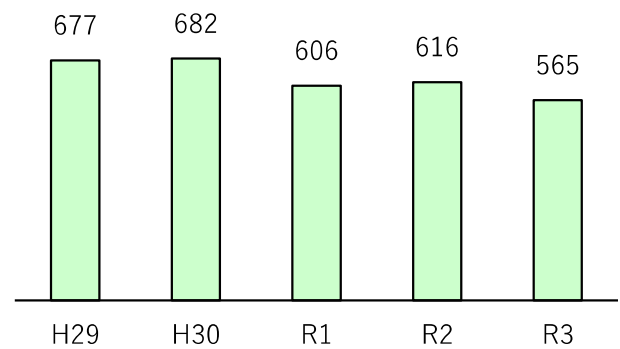
加害



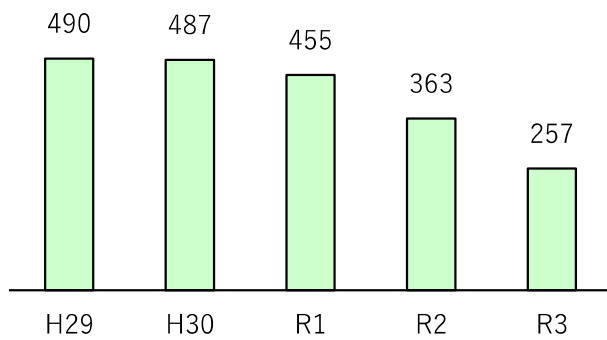
運動競技事故



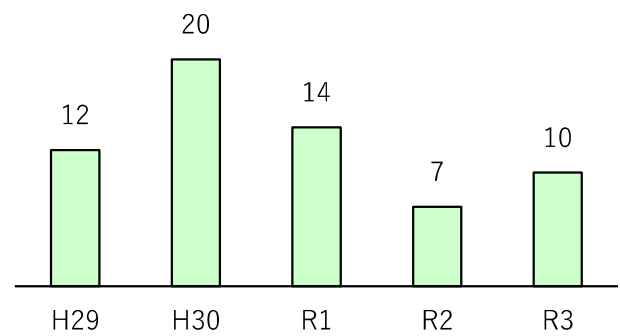
火災事故



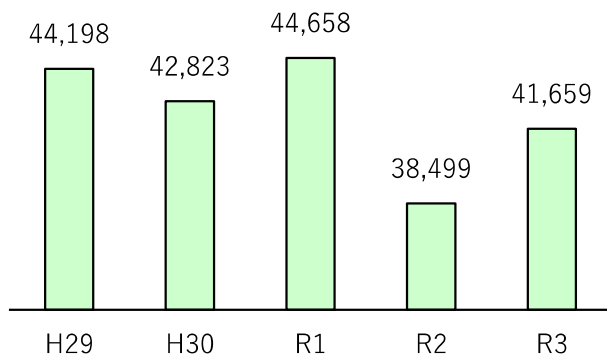
水難事故



自然災害事故



転院搬送



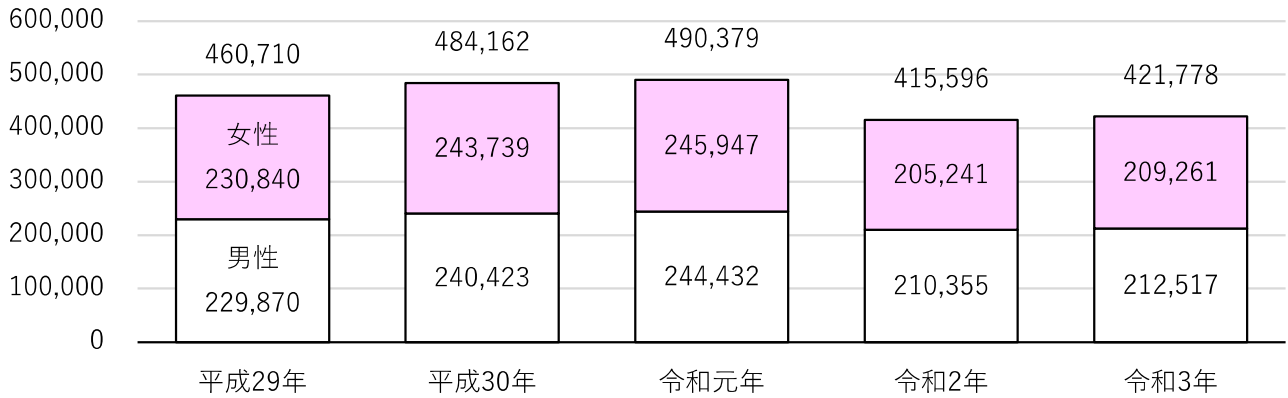


## 2 急病

### (1) 搬送人員推移

急病の搬送人員は421,778人で、前年に比べ6,182人（1.5%）増加しています。

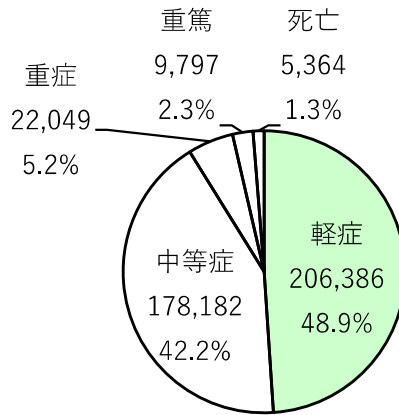
図表 2-4-2 急病の搬送人員推移



### (2) 初診時程度

急病の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が48.9%を占めています。

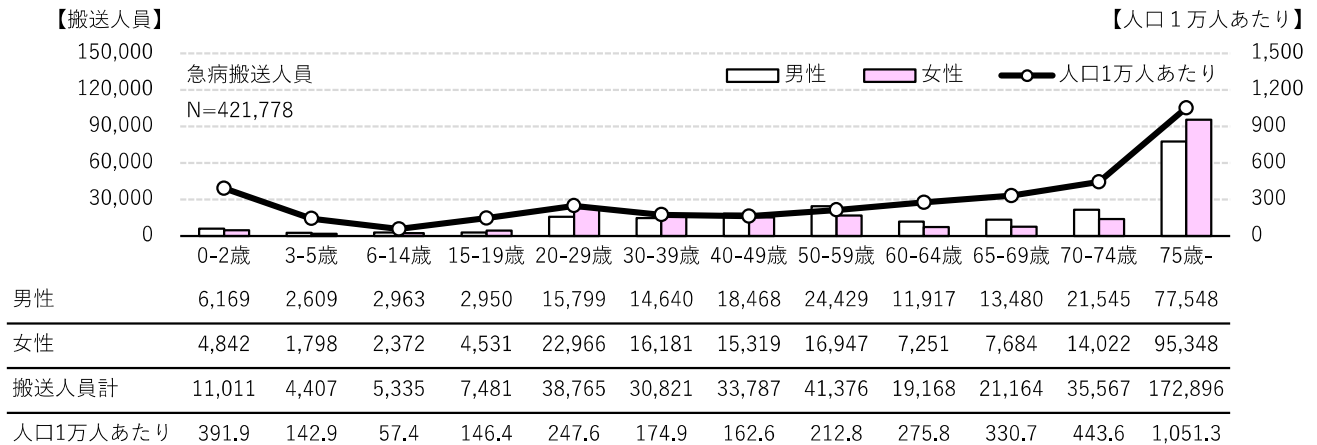
図表 2-4-3 急病の初診時程度別搬送人員



### (3) 年齢層

急病の搬送人員を年齢層別で見ると、高齢者層（65歳以上）が54.4%で割合が高く、特に75歳以上が全体の41.0%を占めています。

図表 2-4-4 急病の年齢層別搬送人員



## (4) 病態

急病の搬送人員を病態別でみると、「痛み」が最も高い割合を占めています。

図表 2-4-5 急病の病態別搬送人員

病態		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
痛	頭痛・頭重感	12	54	368	388	2,084	1,809	1,731	1,783	624	497	686	2,547	12,583
	胸痛	1	22	121	253	1,050	1,093	1,577	2,164	805	869	1,218	5,220	14,393
	腹痛	123	360	961	1,701	9,334	7,435	6,603	6,103	2,226	2,090	2,922	10,411	50,269
	腰背部痛	-	2	15	90	1,077	1,643	2,215	2,252	829	827	1,314	6,196	16,460
	筋骨格系の痛み	18	33	70	56	466	593	850	1,156	605	629	1,090	5,437	11,003
	感覚器系の痛み	10	19	27	27	119	89	123	103	64	47	87	249	964
	その他痛み	29	60	100	105	384	313	339	409	201	201	323	1,344	3,808
意識障害	意識消失・失神 (一過性)	159	86	355	552	1,577	976	1,057	1,439	745	851	1,464	8,378	17,639
	意識障害・混濁 (遷延性)	122	122	166	220	1,154	599	917	1,543	811	971	1,798	11,129	19,552
	異常行動・言動・興奮	6	5	13	13	57	47	74	114	63	87	105	385	969
	無窮動・昏迷・自発性欠如	7	7	11	25	69	46	58	83	30	38	59	347	780
発熱	3,144	1,054	485	820	4,427	2,442	1,927	2,147	1,048	1,334	2,807	22,631	44,266	
痙攣・麻痺・感覚異常	痙攣	4,887	1,371	1,091	632	1,376	795	793	791	297	320	382	1,257	13,992
	不随意運動・振戦・ふるえ	73	31	52	61	175	157	202	274	113	114	213	914	2,379
	運動麻痺	2	1	9	15	59	155	519	1,098	572	748	1,273	5,131	9,582
	知覚麻痺	-	-	4	11	90	125	195	280	110	131	197	422	1,565
	言語・構語障害	-	-	2	7	29	52	192	444	247	385	673	2,816	4,847
	視野障害 (視野狭窄等)	1	1	9	6	41	54	73	100	43	41	81	158	608
	聴覚障害 (耳閉、耳鳴、難聴)	-	-	1	1	8	17	12	18	6	5	21	59	148
	その他麻痺等	-	2	3	17	93	118	188	234	88	110	136	422	1,411
めまい	dizziness (一般的めまい)	-	1	40	131	802	789	1,026	1,476	799	927	1,496	4,745	12,232
	vertigo (回転するめまい)	-	2	19	86	664	1,087	1,715	2,226	1,076	1,098	1,577	4,204	13,754
動悸等	動悸・不整脈感	11	3	44	108	818	1,023	1,273	1,354	587	582	872	2,827	9,502
	胸部違和感・胸内苦悶	-	1	18	37	240	288	417	647	298	325	592	3,016	5,879
呼吸器症状	鼻出血	16	32	40	11	49	74	196	347	186	194	295	992	2,432
	呼吸困難	134	89	92	55	255	352	566	936	481	672	1,210	6,810	11,652
	呼吸困難 (過換気)	5	3	139	483	1,893	1,006	720	491	98	50	52	157	5,097
	息切れ、息苦しさ	159	175	223	224	1,218	1,403	1,773	2,194	1,069	1,044	1,978	11,575	23,035
	喀血・血痰	2	-	1	5	17	19	29	54	20	46	72	266	531
	咳・嘔声・喀痰異常	296	245	72	18	106	137	122	146	54	60	100	935	2,291
	その他呼吸器症状	74	32	17	17	54	42	75	113	62	61	98	1,516	2,161
消化器症状	嘔吐・嘔気	828	304	313	430	3,698	2,032	1,376	1,479	678	776	1,239	6,014	19,167
	下痢	36	11	10	27	162	135	125	143	77	69	130	614	1,539
	吐血	8	4	4	7	90	141	250	388	173	213	301	1,607	3,186
	下血・血便	41	9	6	18	127	159	278	553	288	323	601	2,857	5,260
	腹部膨満感・違和感	8	1	1	4	23	41	85	133	87	104	132	615	1,234
	便秘・排便困難	16	5	4	7	13	36	44	108	90	108	251	1,177	1,859
	その他消化器症状	11	9	3	4	33	38	44	70	33	53	89	377	764
泌尿器・生殖器	血尿	1	2	2	9	43	34	46	62	37	40	93	619	988
	乏尿・尿閉	3	1	4	3	18	21	55	174	142	177	311	1,246	2,155
	性器出血	-	-	4	12	99	248	149	53	11	6	13	99	694
	月経異常・月経困難	-	-	-	5	18	19	20	7	-	-	-	-	69
その他泌尿器・生殖器症状	9	6	12	13	45	36	51	38	20	22	40	166	458	
産科症状・新生児	72	1	1	11	151	288	44	-	-	-	-	-	568	
皮膚症状	黄疸	1	-	-	-	1	2	2	9	2	3	8	58	86
	発疹・湿疹	190	88	85	55	243	166	141	120	32	45	74	200	1,439
	皮下出血 (紫斑等)	1	-	1	-	1	-	2	2	4	3	6	33	53
	壊疽・壊死	-	-	-	-	-	1	3	20	11	8	18	48	109
	搔痒感	9	13	24	17	60	46	40	38	16	20	27	65	375
その他皮膚症状	32	12	10	14	36	23	49	74	26	32	54	271	633	
全身症状	虚脱・脱力感・歩行困難	69	23	96	331	1,966	1,137	1,476	2,636	1,680	2,086	3,805	17,338	32,643
	脱水・栄養失調・全身衰弱	8	6	6	18	48	60	108	219	165	228	423	2,586	3,875
	不安感・孤独感	1	1	6	12	90	114	138	117	59	49	52	142	781
	悪心・悪寒	4	8	20	53	271	175	169	206	86	121	189	908	2,210
	不定愁訴	11	-	1	4	47	51	102	86	39	34	56	257	688
	その他全身症状	150	26	49	64	332	279	400	471	241	255	539	2,599	5,405
その他	211	64	105	188	1,365	761	1,033	1,651	914	1,035	1,925	10,504	19,756	

## (5) 疾患

急病の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「症状・徴候・診断名不明確」が56.8%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-6 急病の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
症状・徴候・診断名不明確	239,371	56.8%
消化器系疾患	32,309	7.7%
呼吸器系疾患	30,871	7.3%
心・循環器疾患	24,635	5.8%
脳血管障害	22,454	5.3%
その他の疾患系	12,586	3.0%
感覚器・神経系疾患	11,708	2.8%
腎泌尿器・生殖器疾患	11,119	2.6%
その他	36,725	8.7%
合計	421,778	100.0%

## (6) 発生場所

急病の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が74.7%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-7 急病の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	315,256	74.7%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	23,819	5.6%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	20,034	4.7%
駅	10,348	2.5%
特別養護老人ホーム	9,030	2.1%
会社・オフィス	7,167	1.7%
一般飲食店	6,141	1.5%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	3,146	0.7%
その他	26,837	6.4%
合計	421,778	100.0%

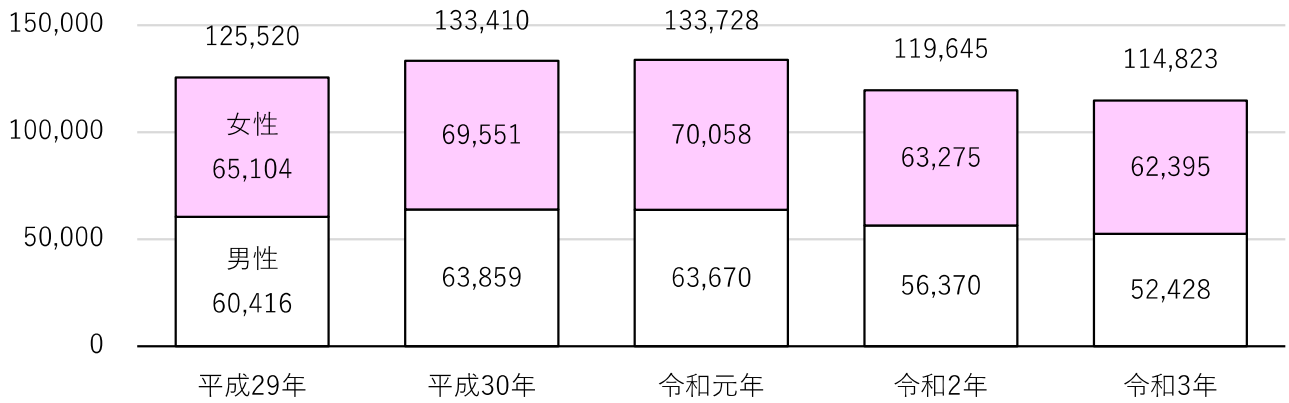
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

### 3 一般負傷

#### (1) 搬送人員推移

一般負傷（転倒や転落、誤って手を切ったなどの不慮の事故）の搬送人員は 114,823 人で、前年に比べ 4,822 人（4.0%）減少しています。

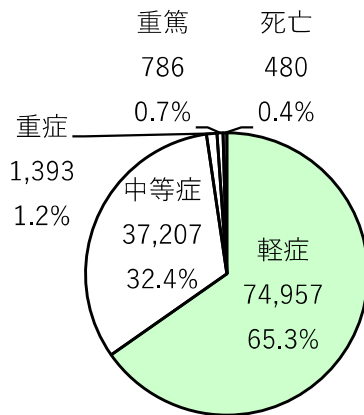
図表 2-4-8 一般負傷の搬送人員推移



#### (2) 初診時程度

一般負傷の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が 65.3% を占めています。

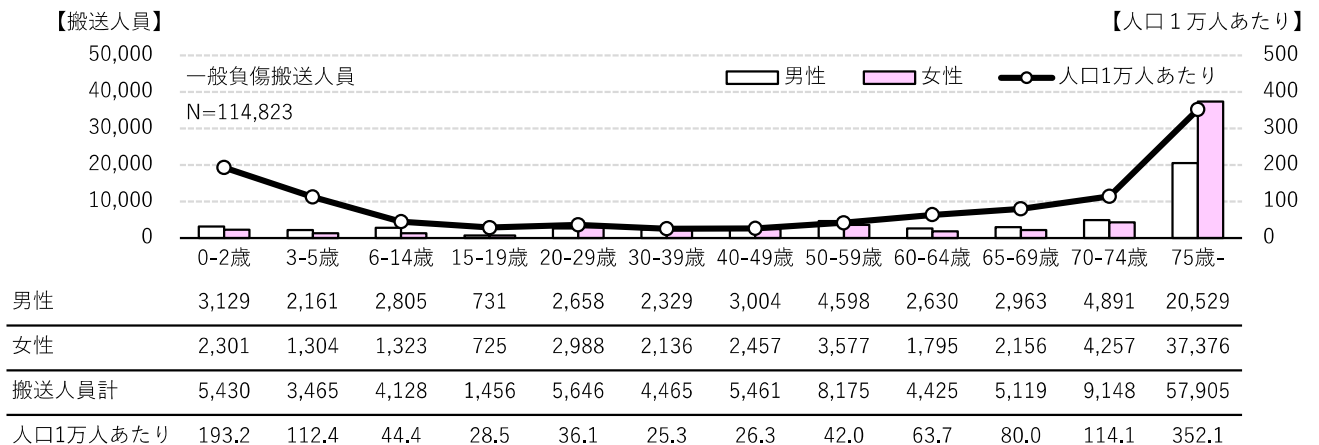
図表 2-4-9 一般負傷の初診時程度別搬送人員



#### (3) 年齢層

一般負傷の搬送人員を年齢層別で見ると、75 歳以上が最も多く、全体の 50.4% の割合を占めています。

図表 2-4-10 一般負傷の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

一般負傷の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「転倒」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-11 一般負傷の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	46	38	78	63	328	222	246	317	134	147	290	1,585	3,494
	転倒	1,296	1,204	1,336	310	1,511	1,422	2,349	4,397	2,850	3,468	6,476	44,455	71,074
	転落・滑落	1,274	660	645	124	500	390	540	959	494	495	871	3,805	10,757
	墜落・飛び降り	98	71	110	22	75	58	59	51	18	24	47	65	698
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	182	124	102	25	74	79	79	91	29	26	39	213	1,063
	轢かれ・踏まれ	8	3	1	-	5	5	5	10	5	3	2	4	51
	衝突・ぶつかり	435	467	663	85	303	253	275	295	122	114	138	653	3,803
	殴打・蹴られ	7	6	35	16	24	30	26	13	5	1	4	10	177
	ひきずられ・引っ振られ	87	41	4	-	14	16	12	9	8	3	8	50	252
	噛まれ・引っ掻き	37	18	32	14	60	52	78	99	33	35	54	150	662
	埋没・圧迫・押され	10	5	5	1	10	9	10	16	2	4	5	33	110
	飛来物・落下物	29	17	55	10	37	32	31	32	17	12	16	35	323
	その他行動・作用	82	53	93	67	208	184	146	189	69	74	110	442	1,717
不明	144	70	43	57	267	270	293	373	162	215	328	3,085	5,307	
危険物接触作用 ・環境暴露	刃物・鋭利物	72	55	152	101	441	337	286	290	100	83	92	184	2,193
	鈍器物	6	8	7	1	4	6	6	5	2	1	1	11	58
	爆発・破裂物	-	1	1	1	3	-	-	1	-	-	-	-	7
	銃器・武器	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
	高熱固体・燃焼物	20	3	4	1	12	7	5	4	2	1	2	8	69
	高熱液体・燃焼物	258	54	83	16	67	58	59	62	19	19	38	98	831
	高熱気体・燃焼物	7	1	2	1	6	3	7	6	3	3	-	9	48
	有毒固体・燃焼物	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	有毒液体・燃焼物	3	-	1	3	-	2	1	1	1	-	1	1	14
	有毒気体・燃焼物	-	-	2	2	4	11	1	9	2	2	2	1	36
	電流・感電	3	1	3	-	3	2	1	1	-	2	1	1	18
	その他危険物	4	1	3	-	-	4	3	2	2	-	-	3	22
	窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	-	-	1	-	5	5	3	2	-	1	3	5
窒息・誤飲(気道)		264	57	28	9	18	17	28	48	29	41	106	834	1,479
溺水・入水		15	1	3	-	3	-	3	5	5	11	21	162	229
異物(食道・消化器)		481	130	75	13	54	46	60	82	47	49	65	375	1,477
異物(感覚器官)		37	38	16	2	19	16	19	15	5	4	3	8	182
異物(性器・泌尿器)		1	-	-	-	3	1	2	7	1	2	1	12	30
その他窒息・異物		42	29	10	3	6	4	10	7	3	4	3	31	152
薬物服用 ・吸入・中毒	睡眠薬・鎮痛・鎮静剤	14	-	14	83	371	217	175	157	28	26	24	70	1,179
	麻薬・覚醒剤	-	-	-	2	17	4	3	1	1	-	-	-	28
	その他医薬品	15	7	28	95	257	170	122	97	25	22	32	98	968
	消毒剤・洗浄剤	15	6	7	3	18	17	18	19	6	9	6	31	155
	有機溶剤	-	1	2	-	2	2	1	-	-	1	-	2	11
	殺虫剤・農薬・除草剤	4	1	4	-	5	3	4	5	2	1	6	8	43
	重金属・腐食剤	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	日常生活用品	48	11	21	10	44	19	23	12	7	2	6	12	215
	自然毒・食中毒	71	56	73	30	97	63	55	47	8	6	13	27	546
	その他薬物・中毒	47	38	32	39	231	101	78	47	17	10	9	30	679
自然環境作用	高温環境	12	7	113	149	243	149	182	244	102	144	252	985	2,582
	低温環境	-	-	-	1	2	-	5	12	5	11	14	118	168
	気圧変化(潜水・高山)	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	風水害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	その他自然環境	1	1	1	5	2	1	2	1	2	-	4	13	33
その他	253	181	240	92	293	176	150	134	53	43	55	182	1,852	

## (5) 外傷形態

一般負傷の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「打撲・血腫・挫傷」が47.9%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-12 一般負傷の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	55,017	47.9%
骨折	21,112	18.4%
外傷系その他	14,772	12.9%
開放創・離断	7,022	6.1%
症状・徴候・診断名不明確	4,382	3.8%
脱臼・捻挫	3,324	2.9%
窒息・異物誤飲	2,774	2.4%
中毒	2,399	2.1%
その他	4,021	3.5%
合計	114,823	100.0%

## (6) 発生場所

一般負傷の搬送人員を発生場所別でみると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が54.5%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-13 一般負傷の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	62,558	54.5%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	24,432	21.3%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	4,910	4.3%
駅	4,472	3.9%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	2,382	2.1%
一般飲食店	2,070	1.8%
特別養護老人ホーム	1,569	1.4%
デパート・スーパー・量販店	1,484	1.3%
その他	10,946	9.5%
合計	114,823	100.0%

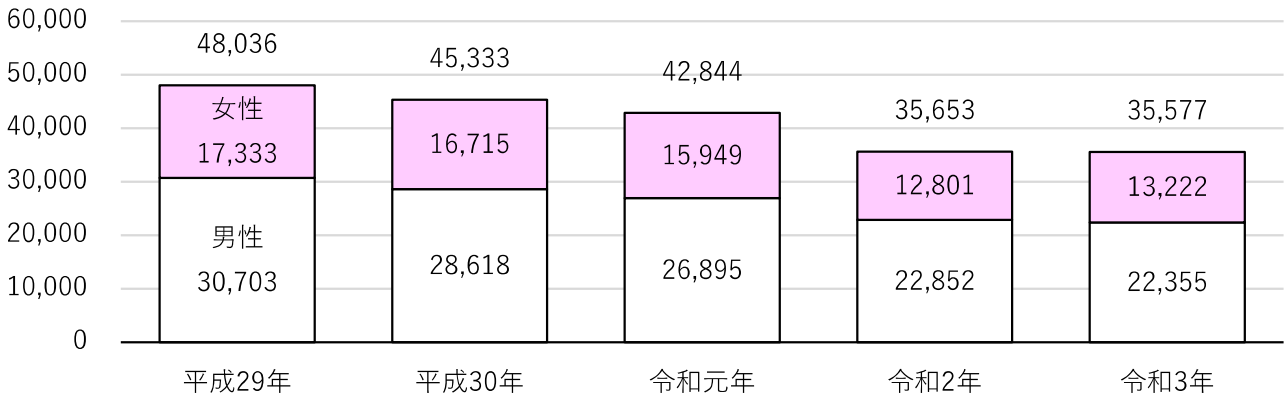
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

## 4 交通事故

### (1) 搬送人員推移

交通事故（交通機関相互の衝突、接触又は単一事故、歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故）の搬送人員は 35,577 人で、前年に比べ 76 人（0.2%）減少しています。

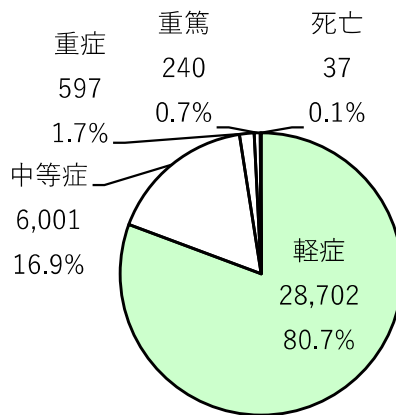
図表 2-4-14 交通事故の搬送人員推移



### (2) 初診時程度

交通事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が 80.7% を占めています。

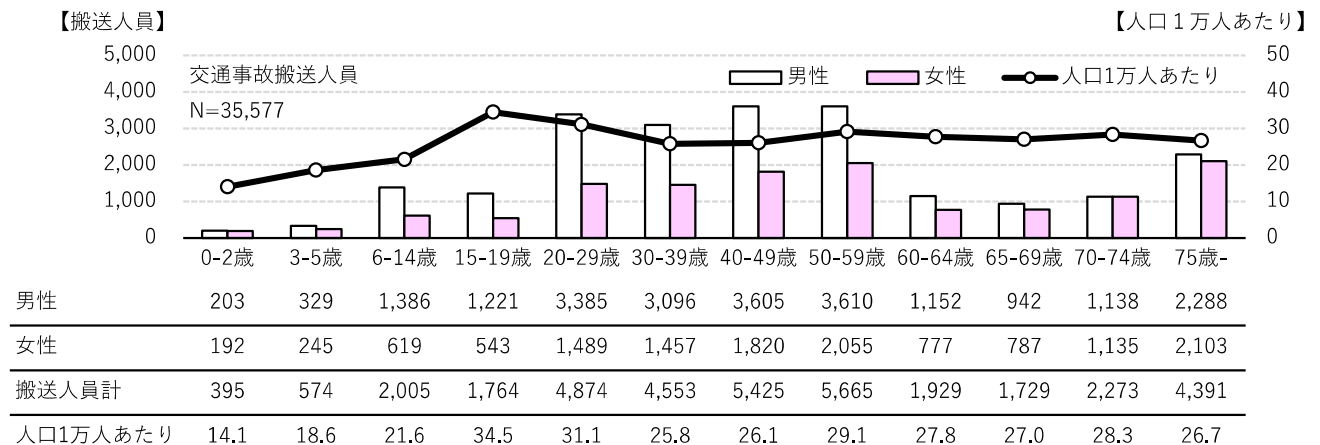
図表 2-4-15 交通事故の初診時程度別搬送人員



### (3) 年齢層

交通事故の搬送人員を年齢層別で見ると、20 歳代から 50 歳代が多く、各年齢層ともに男性が多くなっています。また、人口に対する比率は、15 歳から 19 歳が最も高くなっています。

図表 2-4-16 交通事故の年齢層別搬送人員



#### (4) 事故発症時動作

交通事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「自転車乗車」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-17 交通事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
交通事故等	歩行者で受傷	56	135	473	65	411	431	532	655	258	251	347	829	4,443
	自動車乗車で受傷	95	74	189	186	1,167	1,086	1,356	1,370	459	346	405	563	7,296
	自動二輪乗車で受傷	2	4	25	459	1,426	1,085	1,229	1,229	295	207	182	180	6,323
	自転車乗車で受傷	236	355	1,301	1,051	1,845	1,922	2,275	2,386	902	910	1,328	2,788	17,299
	鉄道乗車で受傷	-	2	1	-	1	2	2	1	-	-	3	3	15
	航空機搭乗で受傷	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	船舶乗船で受傷	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	6
	その他交通機関で受傷	6	4	15	3	18	16	17	14	10	10	6	21	140
不 明	-	-	1	-	4	11	10	9	5	5	2	7	54	

※「歩行者で受傷」は、歩行者が自動車、二輪車及び自転車等と衝突・接触し受傷したものです。

※「自動車乗車で受傷」及び「自転車乗車で受傷」等は、運転中及び同乗中のものを含みます。

#### (5) 外傷形態

交通事故の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「打撲・血腫・挫傷」が 66.7%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-18 交通事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	23,736	66.7%
外傷系その他	4,837	13.6%
骨折	2,770	7.8%
脱臼・捻挫	2,276	6.4%
開放創・離断	841	2.4%
脊椎・髄損傷	474	1.3%
症状・徴候・診断名不明確	337	0.9%
内部・臓器損傷	116	0.3%
その他	190	0.5%
合計	35,577	100.0%



## (6) 発生場所

交通事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「一般道路（公道・私道・施設内道路）」が 91.5% で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-19 交通事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
一般道路（公道・私道・施設内道路）	32,570	91.5%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	858	2.4%
高速道路・自動車専用道路	843	2.4%
駐車場・駐輪施設	195	0.5%
線路・軌道敷	147	0.4%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	119	0.3%
コンビニエンスストア	115	0.3%
警察署・交番	105	0.3%
その他	625	1.8%
合計	35,577	100.0%

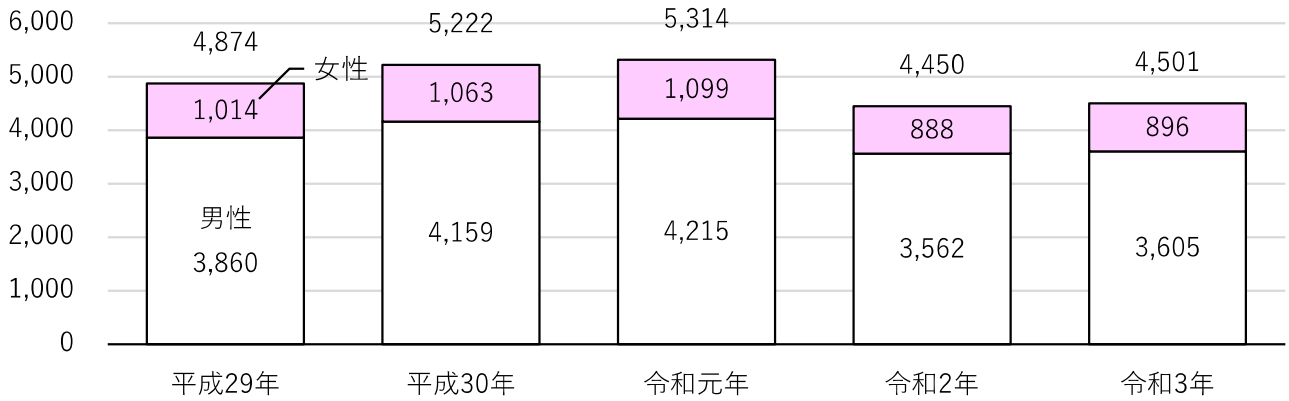
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

## 5 労働災害事故

### (1) 搬送人員推移

労働災害事故（工場、事業所、作業所、工事現場等において就業中に発生した事故）の搬送人員は4,501人で、前年に比べ51人（1.1%）増加しています。

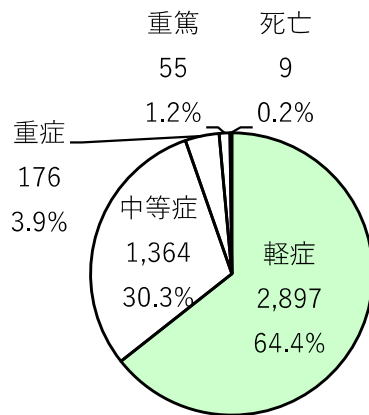
図表 2-4-20 労働災害事故の搬送人員推移



### (2) 初診時程度

労働災害事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が64.4%を占めています。

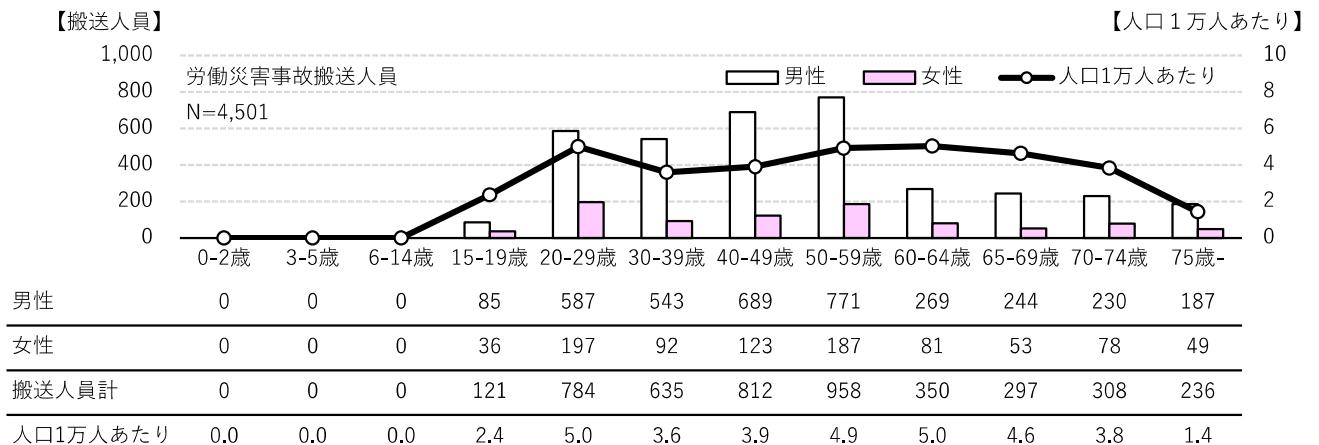
図表 2-4-21 労働災害事故の初診時程度別搬送人員



### (3) 年齢層

労働災害事故の搬送人員を年齢層別で見ると、20歳代から50歳代の男性が多く、人口に対する比率は、20歳から74歳が高くなっています。また、各年齢層ともに男性が多くなっています。

図表 2-4-22 労働災害事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

労働災害事故の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、「転落・滑落」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-23 労働災害事故の事故発症時動作別搬送人員図表

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	3	30	26	18	16	5	1	5	1	105
	転倒	-	-	-	14	92	67	97	208	102	69	90	75	814
	転落・滑落	-	-	-	14	100	102	145	241	76	88	74	51	891
	墜落・飛び降り	-	-	-	2	17	32	38	36	18	18	13	14	188
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	-	13	98	99	137	123	45	33	34	21	603
	轢かれ・踏まれ	-	-	-	1	8	7	9	13	3	3	6	1	51
	衝突・ぶつかり	-	-	-	7	87	62	79	77	35	29	24	20	420
	殴打・蹴られ	-	-	-	1	-	2	2	2	-	-	-	-	7
	ひきずられ・引っ振られ	-	-	-	1	-	2	2	1	-	-	-	1	7
	噛まれ・引っ掻き	-	-	-	-	3	5	5	3	-	-	-	-	16
	埋没・圧迫・押され	-	-	-	1	3	5	6	2	1	-	2	-	20
	飛来物・落下物	-	-	-	5	27	22	31	23	7	6	3	4	128
	その他行動・作用	-	-	-	4	21	18	31	24	5	3	4	-	110
	不明	-	-	-	1	4	5	6	9	4	3	7	4	43
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	-	39	191	123	146	128	33	30	29	35	754
	鈍器物	-	-	-	-	9	8	4	8	-	1	3	-	33
	爆発・破裂物	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	高熱固体・燃焼物	-	-	-	1	1	-	2	-	-	-	-	-	4
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	8	31	13	11	7	3	1	2	1	77
	高熱気体・燃焼物	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1	-	-	4
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	1	1	5	3	-	-	1	1	-	12
	有毒気体・燃焼物	-	-	-	-	11	10	1	2	1	1	-	-	26
	電流・感電	-	-	-	-	3	3	2	6	-	-	-	-	14
	その他危険物	-	-	-	1	2	-	3	1	2	-	-	1	10
窒息・誤飲・異物	異物(食道・消化器)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	異物(感覚器官)	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	3
薬物服用・吸入・中毒	消毒剤・洗剤	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	4
	有機溶剤	-	-	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	4
	日常生活用品	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	3
	自然毒・食中毒	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	3
	その他薬物・中毒	-	-	-	-	3	1	3	1	-	1	1	-	10
自然環境作用	高温環境	-	-	-	3	26	11	22	24	8	8	9	6	117
	低温環境	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
その他	-	-	-	1	6	1	5	2	1	-	1	-	17	

## (5) 外傷形態

労働災害事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「打撲・血腫・挫傷」が38.9%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-24 労働災害事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	1,751	38.9%
開放創・離断	996	22.1%
骨折	630	14.0%
外傷系その他	569	12.6%
症状・徴候・診断名不明確	146	3.2%
脱臼・捻挫	137	3.0%
熱傷Ⅱ度以下	98	2.2%
筋・骨格系疾患	44	1.0%
その他	130	2.9%
合計	4,501	100.0%

## (6) 発生場所

労働災害事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「工場・製造所・作業場」が22.8%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-25 労働災害事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
工場・製造所・作業場	1,024	22.8%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	558	12.4%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	446	9.9%
建築・工事現場	420	9.3%
会社・オフィス	355	7.9%
一般飲食店	343	7.6%
デパート・スーパー・量販店	205	4.6%
一般小売・販売店	139	3.1%
その他	1,011	22.5%
合計	4,501	100.0%

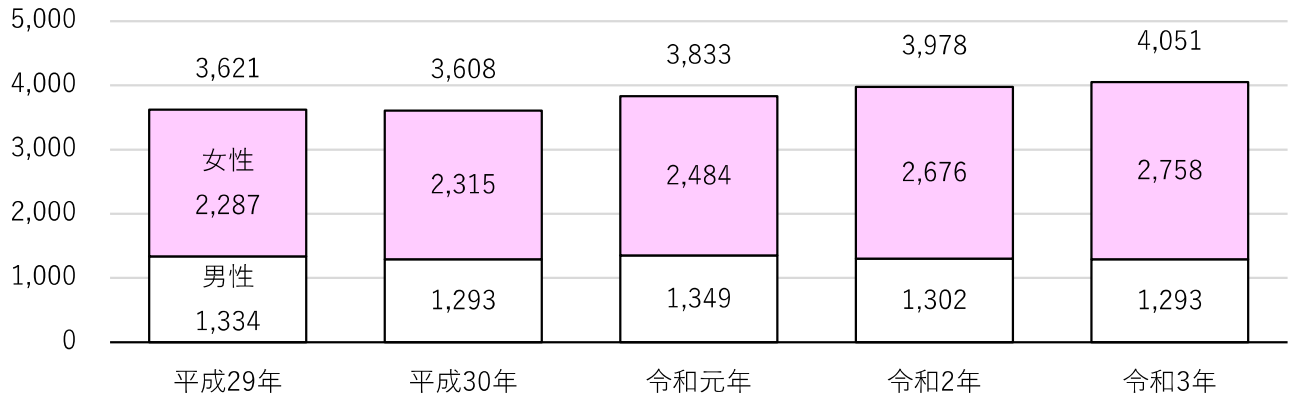
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

## 6 自損行為

### (1) 搬送人員推移

自損行為（故意に自分自身に傷害を加えた事故）の搬送人員は 4,051 人で、前年に比べ 73 人（1.8%）増加しています。

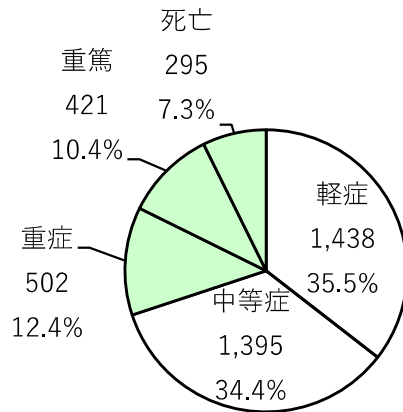
図表 2-4-26 自損行為の搬送人員推移



### (2) 初診時程度

自損行為の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が 30.1% を占めています。

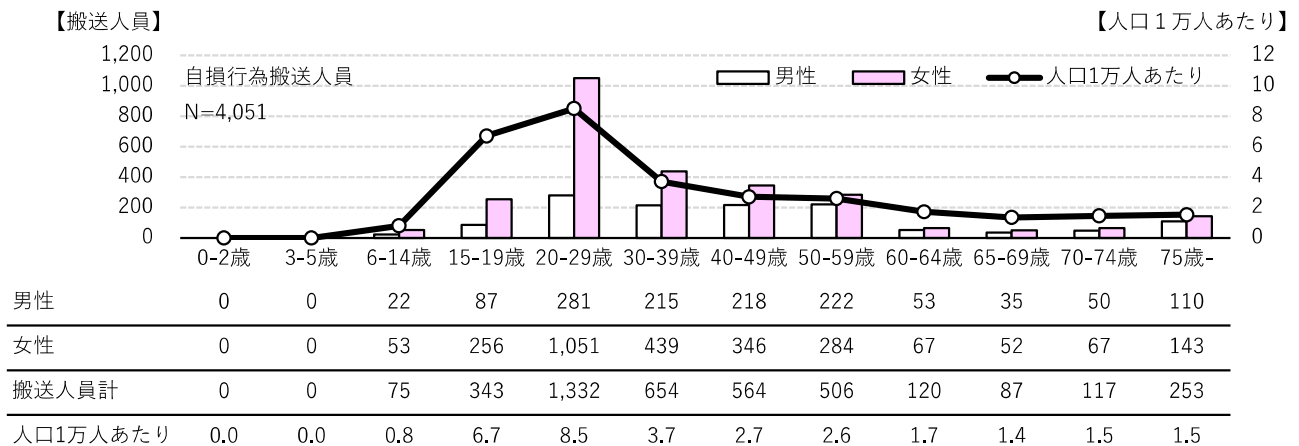
図表 2-4-27 自損行為の初診時程度別搬送人員



### (3) 年齢層

自損行為の搬送人員を年齢層別で見ると、20 歳代から 40 歳代の女性が多く、特に 20 歳代が、最も高い割合を占めています。

図表 2-4-28 自損行為の年齢層別搬送人員



## (4) 事故発症時動作

自損行為の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、「睡眠薬・鎮痛・鎮静剤」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-29 自損行為の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	1	-	3	-	1	-	-	-	-	1	6
	転倒	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	2	6
	転落・滑落	-	-	3	8	17	11	15	10	5	3	4	4	80
	墜落・飛び降り	-	-	14	28	76	33	42	31	4	2	17	8	255
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	踏かれ・踏まれ	-	-	-	-	1	-	1	1	2	-	1	-	6
	衝突・ぶつかり	-	-	1	2	6	7	2	4	-	2	-	2	26
	殴打・蹴られ	-	-	1	-	4	3	1	-	-	-	-	2	11
	噛まれ・引っ掻き	-	-	-	-	4	-	1	-	1	-	-	2	8
	埋没・圧迫・押され	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	その他行動・作用	-	-	2	2	2	3	5	2	1	-	2	1	20
不明	-	-	-	3	12	1	4	4	1	3	4	7	39	
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	11	71	250	141	116	154	35	22	24	66	890
	鈍器物	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	3
	高熱固体・燃焼物	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	高熱気体・燃焼物	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	3
	有毒気体・燃焼物	-	-	-	3	14	13	7	3	-	-	1	3	44
	その他危険物	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	-	-	8	31	131	80	116	116	29	27	34	70	642
	窒息・誤飲(気道)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	溺水・入水	-	-	1	-	2	2	1	3	-	3	1	4	17
	異物(食道・消化器)	-	-	-	-	2	2	1	-	1	-	-	1	7
	その他窒息・異物	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	3
薬物服用・吸入・中毒	睡眠薬・鎮痛・鎮静剤	-	-	18	110	546	249	161	130	27	17	20	56	1,334
	麻薬・覚醒剤	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	その他医薬品	-	-	14	65	217	80	56	31	5	4	2	7	481
	消毒剤・洗浄剤	-	-	-	5	8	6	9	5	1	2	2	4	42
	有機溶剤	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	3
	殺虫剤・農薬・除草剤	-	-	-	-	1	-	1	2	2	-	2	4	12
	日常生活用品	-	-	-	1	8	4	4	2	2	1	-	6	28
	自然毒・食中毒	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2
その他薬物・中毒	-	-	1	9	22	11	12	6	3	-	1	1	66	
自然環境作用	低温環境	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
その他		-	-	-	1	3	1	-	-	1	-	1	-	7

## (5) 外傷形態

自損行為の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「中毒」が40.1%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-30 自損行為の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
中毒	1,623	40.1%
外傷系その他	737	18.2%
開放創・離断	616	15.2%
症状・徴候・診断名不明確	392	9.7%
打撲・血腫・挫傷	237	5.9%
窒息・異物誤飲	150	3.7%
精神系疾患	104	2.6%
骨折	48	1.2%
その他	144	3.6%
合計	4,051	100.0%

## (6) 発生場所

自損行為の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が82.0%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-31 自損行為の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	3,322	82.0%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	225	5.6%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	80	2.0%
警察署・交番	60	1.5%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	50	1.2%
河川・水路	47	1.2%
駅	35	0.9%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	26	0.6%
その他	206	5.1%
合計	4,051	100.0%

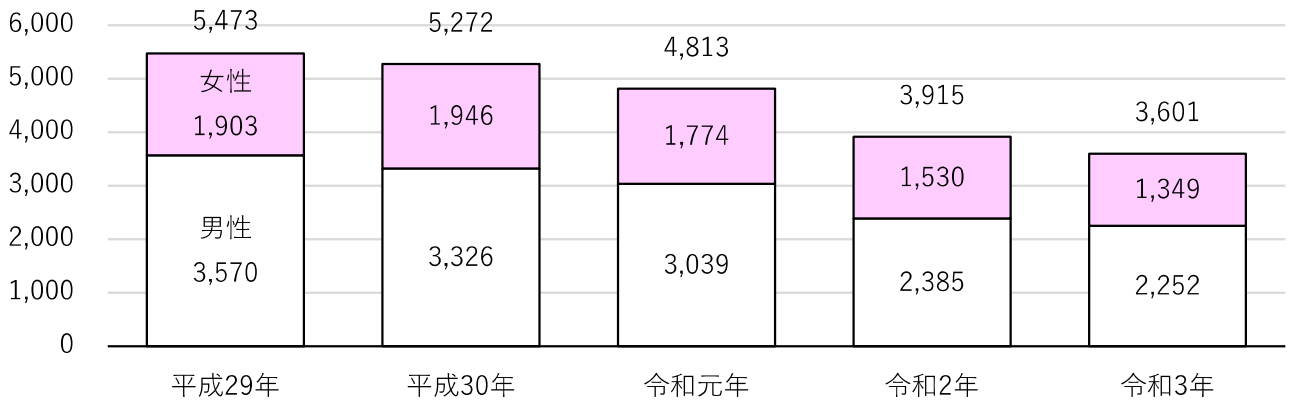
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

## 7 加害

### (1) 搬送人員推移

加害（故意に他人によって傷害等を加えられた事故）の搬送人員は 3,601 人で、前年に比べ 314 人（8.0%）減少しています。

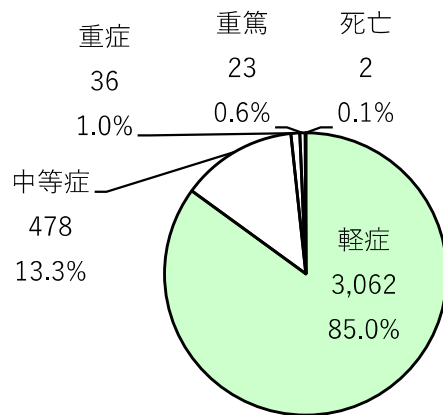
図表 2-4-32 加害の搬送人員推移



### (2) 初診時程度

加害の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が 85.0% を占めています。

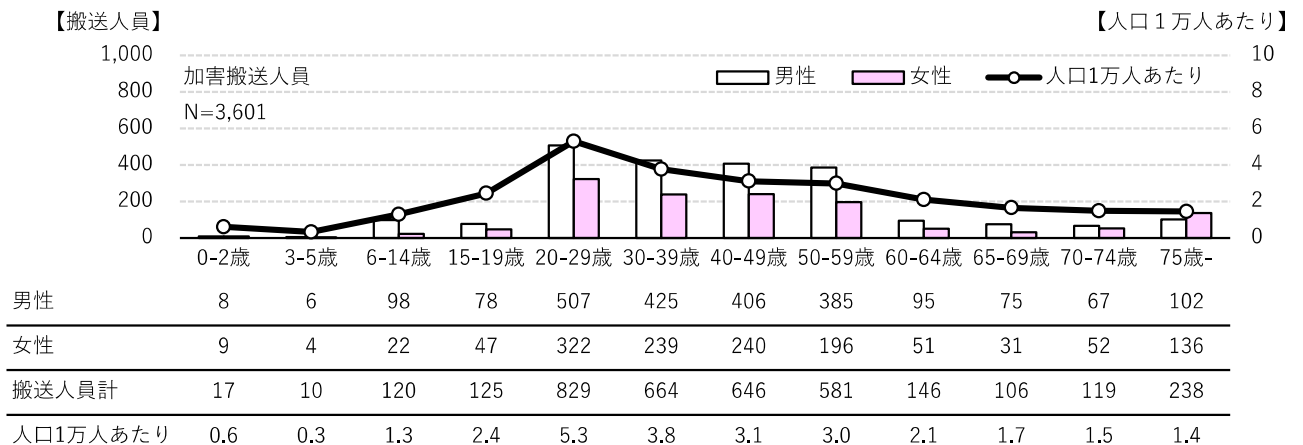
図表 2-4-33 加害の初診時程度別搬送人員



### (3) 年齢層

加害の搬送人員を年齢層別で見ると、20 歳代から 50 歳代の男性が高い割合を占めています。

図表 2-4-34 加害の年齢層別搬送人員





(4) 事故発症時動作

加害の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「殴打・蹴られ」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-35 加害の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
	転倒	1	-	5	1	18	26	37	35	14	4	16	40	197
	転落・滑落	2	1	-	1	5	2	3	8	2	-	2	2	28
	墜落・飛び降り	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	1	-	-	1	8	5	6	7	-	-	-	1	29
	轢かれ・踏まれ	-	-	1	-	5	2	3	1	-	1	-	-	13
	衝突・ぶつかり	1	1	11	3	42	36	34	38	17	9	5	18	215
	殴打・蹴られ	6	6	75	91	601	458	444	377	75	60	60	117	2,370
	ひきずられ・引っ振られ	-	-	-	1	13	18	19	13	4	5	6	7	86
	噛まれ・引っ掻き	-	1	1	-	13	13	5	8	2	2	2	6	53
	埋没・圧迫・押され	-	-	5	3	23	24	19	30	9	10	10	14	147
	飛来物・落下物	-	-	10	2	6	12	5	6	3	2	4	8	58
	その他行動・作用	2	-	1	3	15	12	19	9	5	5	3	9	83
	不明	3	1	2	2	13	12	10	10	1	3	2	4	63
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	6	11	40	30	29	23	4	1	6	5	155
	鈍器物	-	-	1	1	4	3	5	7	7	3	1	3	35
	銃器・武器	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
	高熱固体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	-	1	2	2	1	2	-	-	-	8
	高熱気体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	1	5
	有毒気体・燃焼物	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	3
	電流・感電	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	その他危険物	-	-	-	2	4	1	2	1	-	-	-	-	10
窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	-	-	-	2	8	1	2	3	-	-	2	1	19
	異物(感覚器官)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
薬物服用・吸入・中毒	殺虫剤・農薬・除草剤	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	日常生活用品	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	その他薬物・中毒	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
その他	-	-	-	-	3	3	-	2	-	1	-	-	9	

## (5) 外傷形態

加害の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「打撲・血腫・挫傷」が73.3%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-36 加害の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	2,640	73.3%
外傷系その他	353	9.8%
開放創・離断	275	7.6%
骨折	132	3.7%
症状・徴候・診断名不明確	64	1.8%
脱臼・捻挫	50	1.4%
熱傷Ⅱ度以下	20	0.6%
脊椎・髄損傷	19	0.5%
その他	48	1.3%
合計	3,601	100.0%

## (6) 発生場所

加害の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が37.8%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-37 加害の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	1,361	37.8%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	1,051	29.2%
警察署・交番	364	10.1%
駅	193	5.4%
一般飲食店	179	5.0%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	63	1.7%
コンビニエンスストア	55	1.5%
駐車場・駐輪施設	38	1.1%
その他	297	8.2%
合計	3,601	100.0%

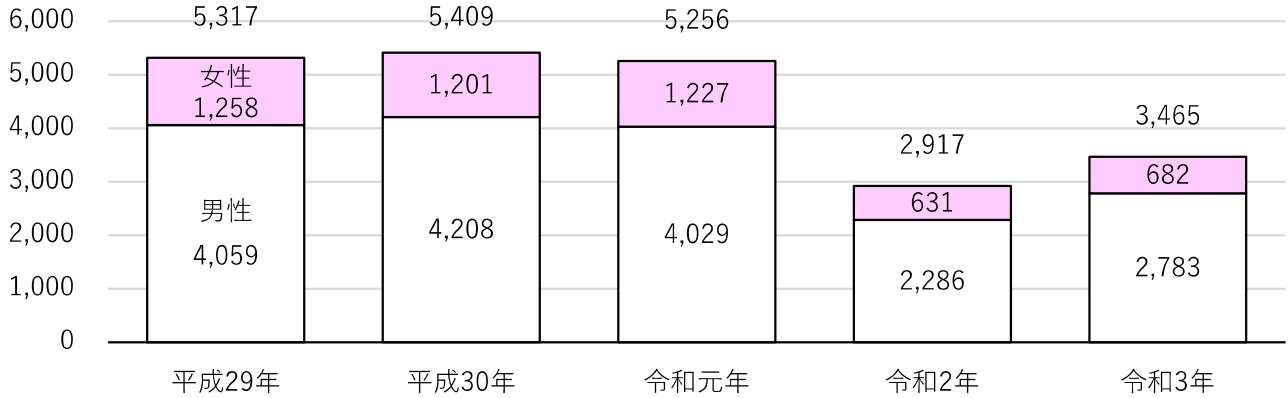
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

## 8 運動競技事故

### (1) 搬送人員推移

運動競技事故（スポーツの実施者や関係者などで、スポーツに関連して受傷した事故）の搬送人員は3,465人で、前年に比べ548人（18.8%）増加しています。

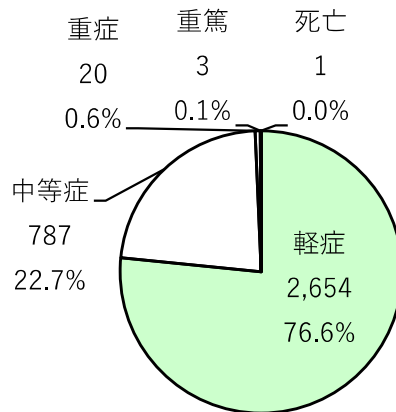
図表 2-4-38 運動競技事故の搬送人員推移



### (2) 初診時程度

運動競技事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が76.6%を占めています。

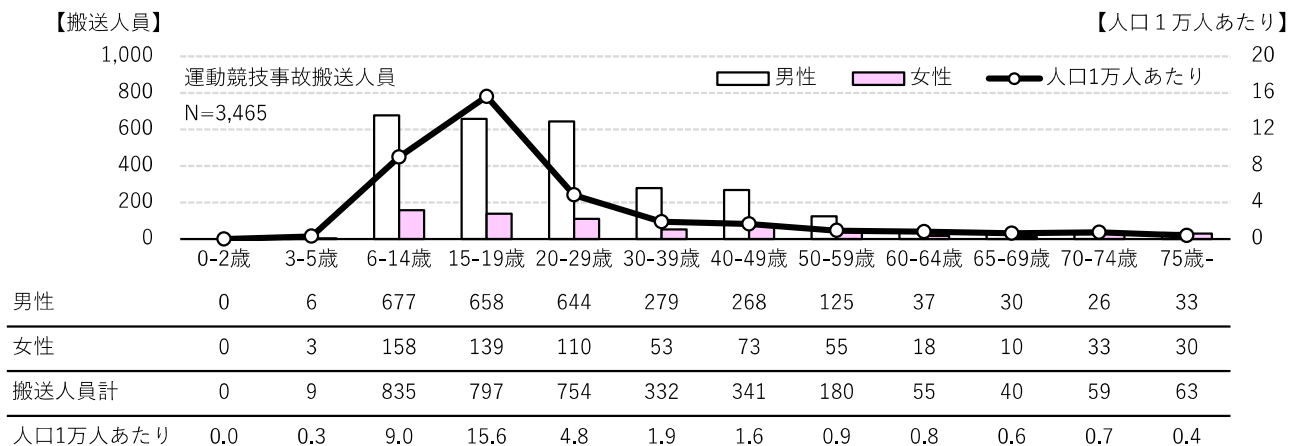
図表 2-4-39 運動競技事故の初診時程度別搬送人員



### (3) 年齢層

運動競技事故の搬送人員を年齢層別で見ると、6歳から29歳の男性が高い割合を占めています。

図表 2-4-40 運動競技事故の年齢層別搬送人員



## (4) 事故発症時動作

運動競技事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「転倒」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-41 運動競技事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	1	63	71	96	78	72	36	9	7	11	4	448
	転倒	-	3	352	193	165	73	119	74	22	24	35	46	1,106
	転落・滑落	-	1	30	24	25	10	10	1	1	-	-	1	103
	墜落・飛び降り	-	-	8	3	11	5	3	1	-	1	1	-	33
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	6	18	18	5	7	4	1	-	-	-	59
	躓かれ・踏まれ	-	-	5	3	4	2	2	-	-	-	-	-	16
	衝突・ぶつかり	-	2	235	329	240	63	50	37	5	5	6	7	979
	殴打・蹴られ	-	-	11	18	41	27	13	1	1	-	-	-	112
	ひきずられ・引っ張られ	-	1	2	2	8	5	3	2	-	-	-	-	23
	噛まれ・引っ掻き	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	埋没・圧迫・押され	-	-	1	1	5	1	2	-	-	-	1	-	11
	飛来物・落下物	-	-	38	54	26	2	6	6	4	-	2	1	139
	その他行動・作用	-	-	55	54	89	50	45	16	9	2	2	2	324
	不明	-	-	2	2	5	1	-	2	-	-	-	-	12
危険物接触作用 ・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	-	2	1	-	3	-	-	-	-	-	6
	鈍器物	-	-	1	1	1	2	-	-	-	-	-	1	6
	その他危険物	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
窒息・誤飲・異物	窒息・誤飲(気道)	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	3	
自然環境作用	高温環境	-	1	24	19	12	6	4	-	3	-	-	1	70
	その他自然環境	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
その他		-	-	1	2	3	2	2	-	-	1	1	-	12

## (5) 外傷形態

運動競技事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「打撲・血腫・挫傷」が35.8%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-42 運動競技事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	1,242	35.8%
骨折	749	21.6%
脱臼・捻挫	676	19.5%
外傷系その他	407	11.7%
症状・徴候・診断名不明確	148	4.3%
開放創・離断	107	3.1%
筋・骨格系疾患	41	1.2%
脊椎・髄損傷	33	1.0%
その他	62	1.8%
合計	3,465	100.0%

## (6) 発生場所

運動競技事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「野球場・運動場・体育館」が41.2%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-43 運動競技事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
野球場・運動場・体育館	1,427	41.2%
小・中・高等・大学等	987	28.5%
野球場・運動場・体育館、プール（単独施設）、ゴルフ場、スポーツクラブ・ジム等以外の運動施設	285	8.2%
スポーツクラブ・ジム	182	5.3%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	146	4.2%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	122	3.5%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	116	3.3%
競馬・競輪・競艇場	41	1.2%
その他	159	4.6%
合計	3,465	100.0%

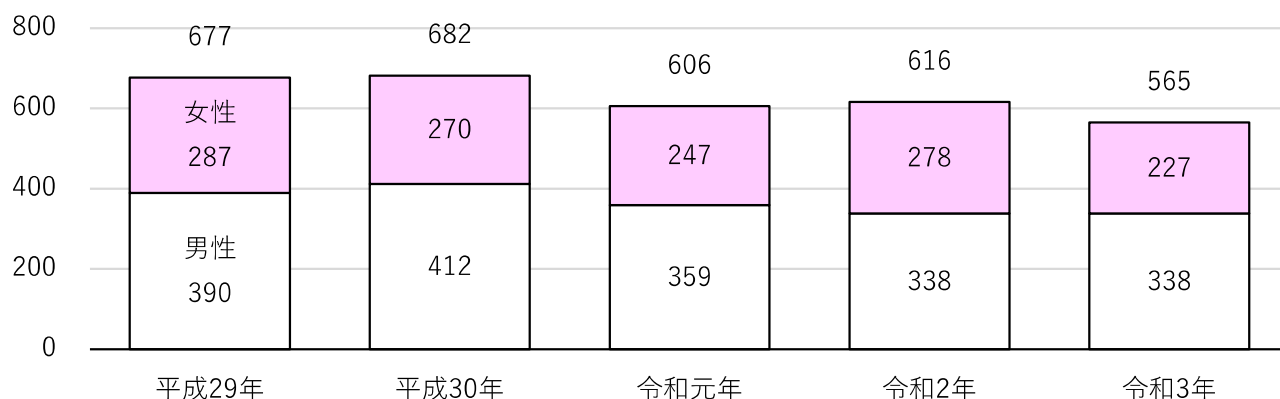
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

## 9 火災事故

### (1) 搬送人員推移

火災事故（消火活動、救助活動、避難行動中などに受傷した事故や、火災の発生が原因となった事故）の搬送人員は565人で、前年に比べ51人（8.3%）減少しています。

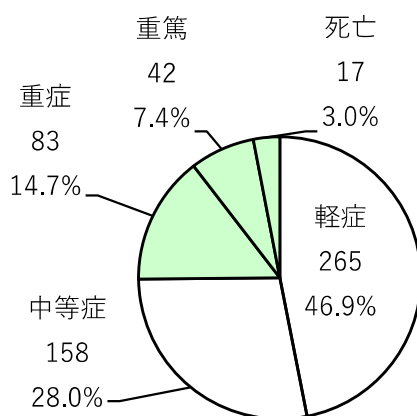
図表 2-4-44 火災事故の搬送人員推移



### (2) 初診時程度

火災事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が25.1%を占めています。

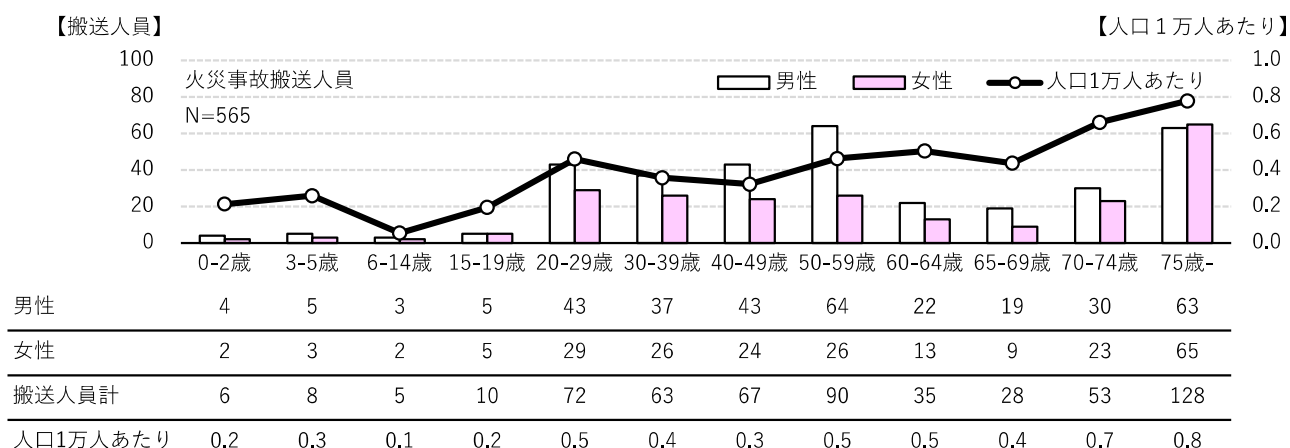
図表 2-4-45 火災事故の初診時程度別搬送人員



### (3) 年齢層

火災事故の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が最も多く、全体の22.7%の割合を占めています。

図表 2-4-46 火災事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

火災事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「高熱気体・燃焼物」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-47 火災事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計		
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-	
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	転倒	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	2	4	
	転落・滑落	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	3	
	墜落・飛び降り	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	
	衝突・ぶつかり	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	3	
	その他行動・作用	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	4	
	不明	-	-	-	-	-	1	1	2	2	2	4	15	27	
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	
	爆発・破裂物	-	-	-	-	4	4	5	1	1	-	3	2	20	
	高熱固体・燃焼物	1	1	-	1	9	5	10	12	2	3	7	13	64	
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	1	2	2	5	5	1	1	1	4	22	
	高熱気体・燃焼物	4	2	3	3	38	34	30	51	26	19	34	72	316	
	有毒固体・燃焼物	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
	有毒気体・燃焼物	1	-	1	3	8	5	7	8	1	3	2	8	47	
	電流・感電	-	3	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	7	
	その他危険物	-	-	-	-	1	-	1	2	-	-	-	-	4	
窒息・誤飲・異物	窒息・誤飲(気道)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	日常生活用品	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	3	
薬物服用・吸入・中毒	日常生活用品	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	3	
	その他薬物・中毒	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	3	
自然環境作用	高温環境	-	-	-	-	2	2	3	2	-	-	-	1	10	
	低温環境	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
その他		-	1	1	1	4	3	2	2	-	-	1	3	18	

## (5) 外傷形態

火災事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「熱傷Ⅱ度以下」が58.1%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-48 火災事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
熱傷Ⅱ度以下	328	58.1%
外傷系その他	89	15.8%
症状・徴候・診断名不明確	45	8.0%
熱傷Ⅲ度以上	42	7.4%
中毒	38	6.7%
呼吸器系疾患	5	0.9%
打撲・血腫・挫傷	5	0.9%
開放創・離断	3	0.5%
その他	10	1.8%
合計	565	100.0%

## (6) 発生場所

火災事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が77.2%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-49 火災事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	436	77.2%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	33	5.8%
一般飲食店	30	5.3%
工場・製造所・作業場	18	3.2%
会社・オフィス	9	1.6%
米軍施設・駐屯地	5	0.9%
小・中・高等・大学等	4	0.7%
一般小売・販売店	4	0.7%
その他	26	4.6%
合計	565	100.0%

※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

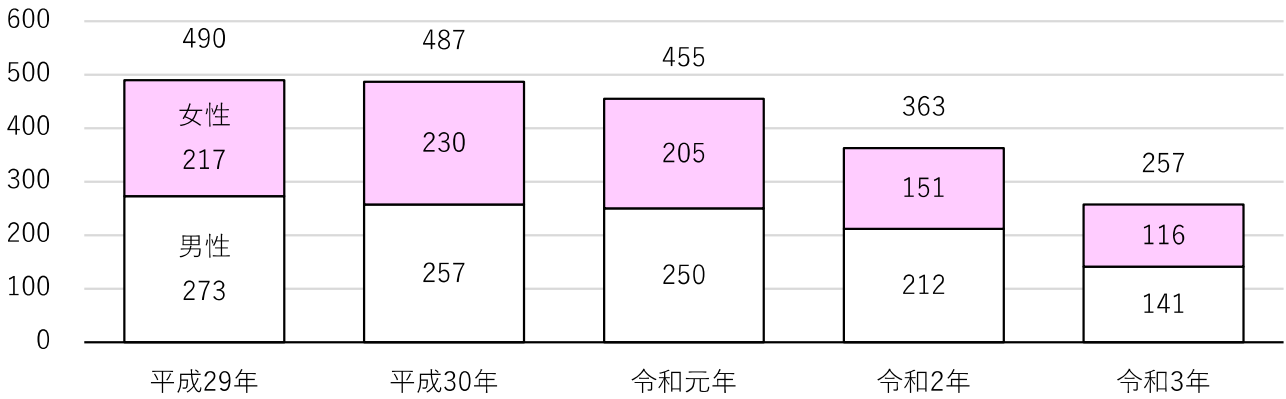


## 10 水難事故

### (1) 搬送人員推移

水難事故（海、河川・池、プールなどで水泳中に溺れたり、水中に転落して発生した溺水事故）の搬送人員は257人で、前年に比べ106人（29.2%）減少しています。

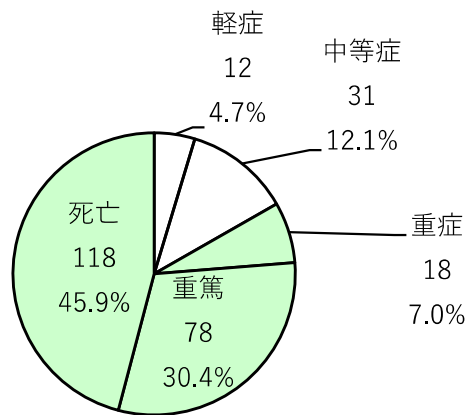
図表 2-4-50 水難事故の搬送人員推移



### (2) 初診時程度

水難事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が83.3%を占めています。

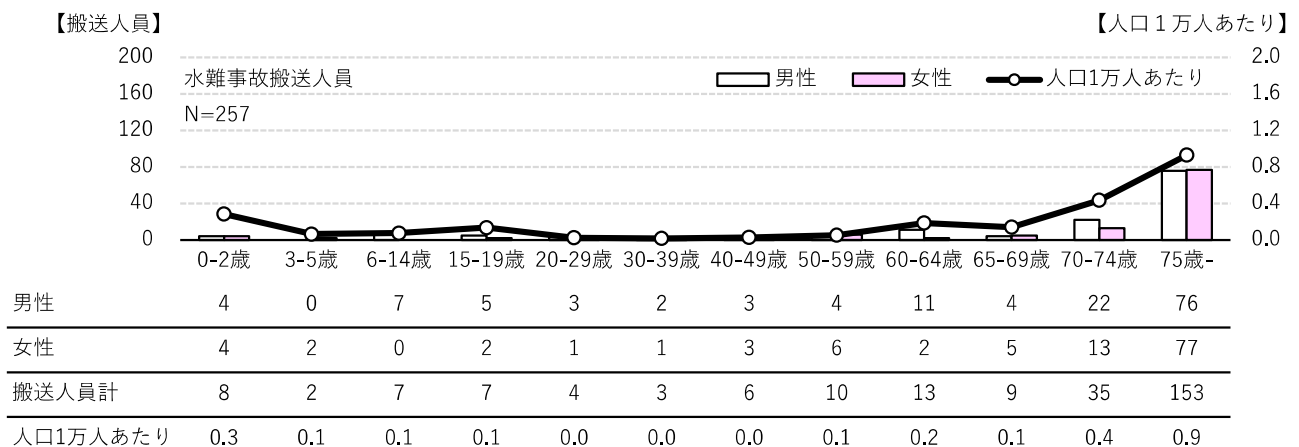
図表 2-4-51 水難事故の初診時程度別搬送人員



### (3) 年齢層

水難事故の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が最も多く、全体の59.5%の割合を占めています。

図表 2-4-52 水難事故の年齢層別搬送人員



## (4) 事故発症時動作

水難事故の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、「溺水・入水」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-53 水難事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計		
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-	
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	転落・滑落	-	-	1	1	-	-	1	-	3	-	-	-	-	6
	墜落・飛び降り	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	3
	その他行動・作用	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	不明	-	-	-	-	-	-	1	3	-	2	5	8	-	19
窒息・誤飲・異物	溺水・入水	8	2	5	6	4	3	3	6	10	7	29	143	226	

## (5) 外傷形態

水難事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「症状・徴候・診断名不明確」が 40.5%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-54 水難事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
症状・徴候・診断名不明確	104	40.5%
外傷系その他	84	32.7%
窒息・異物誤飲	41	16.0%
心・循環器疾患	15	5.8%
その他の疾患系	2	0.8%
呼吸器系疾患	2	0.8%
打撲・血腫・挫傷	2	0.8%
診断不明	1	0.4%
その他	6	2.3%
合計	257	100.0%

## (6) 発生場所

水難事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が68.1%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-55 水難事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	175	68.1%
河川・水路	51	19.8%
サウナ・銭湯（単独施設）	9	3.5%
健康ランド・スーパー銭湯	6	2.3%
海	5	1.9%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	3	1.2%
スポーツクラブ・ジム	2	0.8%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	2	0.8%
その他	4	1.6%
合計	257	100.0%

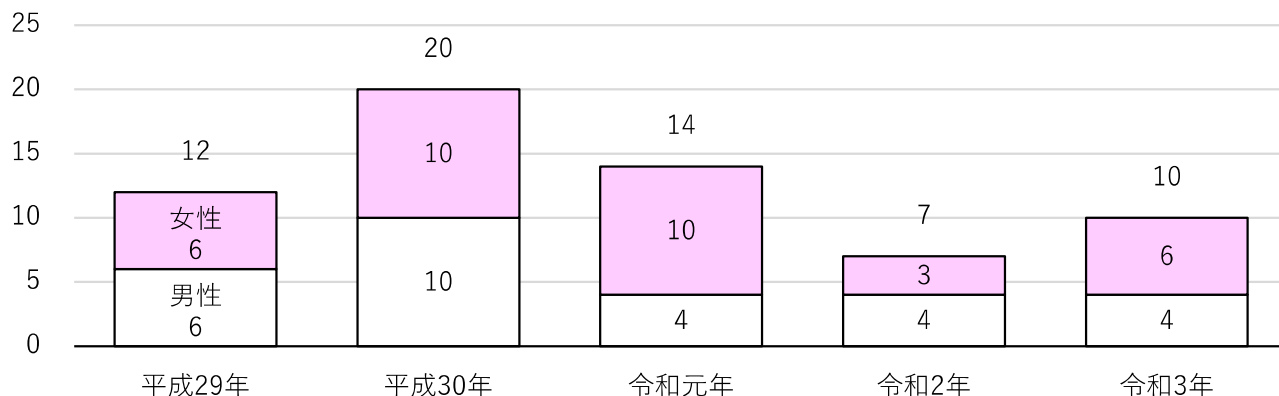
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

# 11 自然災害事故

## (1) 搬送人員推移

自然災害事故(自然現象に起因する災害による事故)の搬送人員は10人で、前年に比べ3人(42.9%)増加しています。

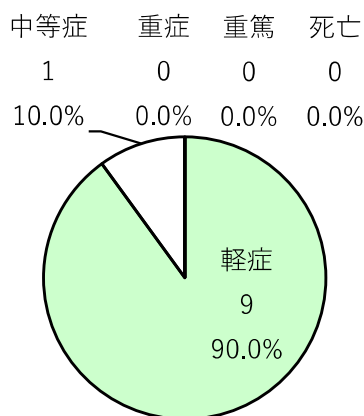
図表 2-4-56 自然災害事故の搬送人員推移



## (2) 初診時程度

自然災害事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が90.0%を占めています。

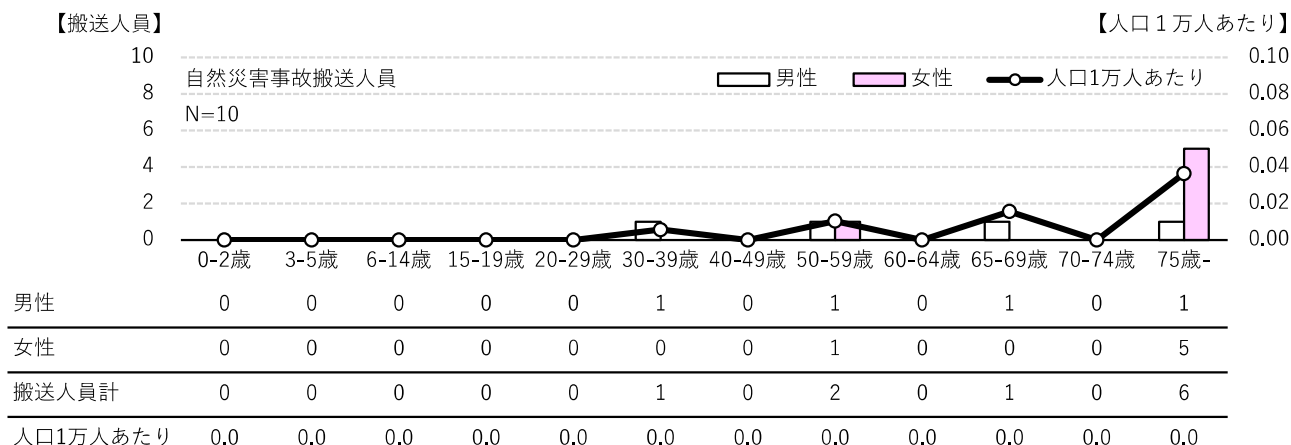
図表 2-4-57 自然災害事故の初診時程度別搬送人員



## (3) 年齢層

自然災害事故の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が最も多く、特に75歳以上の女性が全体の50.0%の割合を占めています。

図表 2-4-58 自然災害事故の年齢層別搬送人員



## (4) 事故発症時動作

自然災害事故の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、「風水害」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-59 自然災害事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計		
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-	
行動・物体作用	転倒	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	飛来物・落下物	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
自然環境作用	地震	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	風水害	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	3
	その他自然環境	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	3

## (5) 外傷形態

自然災害事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「打撲・血腫・挫傷」が 50.0% で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-60 自然災害事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	5	50.0%
骨折	2	20.0%
呼吸器系疾患	1	10.0%
外傷系その他	1	10.0%
開放創・離断	1	10.0%
合計	10	100.0%

## (6) 発生場所

自然災害事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が 50.0% で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-61 自然災害事故の発生場所別搬送人員

発生場所 (区分)	搬送人員	割合
住宅 (専用・共同・寮・寄宿舍)	5	50.0%
一般道路 (公道・私道・施設内道路)	4	40.0%
警察署・交番	1	10.0%
合計	10	100.0%

※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

## 12 転院搬送・転送

### (1) 「転院搬送」と「転送」の違い

「転院搬送」とは、医療機関からの要請に応じて、当該医療機関の管理下にある傷病者（外来受診又は入院中の患者等）を、医療上の理由により他の医療機関へ搬送するために救急隊が出場するものです。

「転送」とは、救急隊が傷病者を医療機関に搬送し、一旦医師に引継いだ後、当該救急隊が医療機関を引き上げる前に、当該医療機関の事情等により、引き続き同一救急隊により他の医療機関に搬送するものです。転送の場合、事故種別はその救急事故の主たる事故種別（急病等）に区分し、統計上は出場件数1件、搬送人員1名として処理します。

### (2) 搬送人員

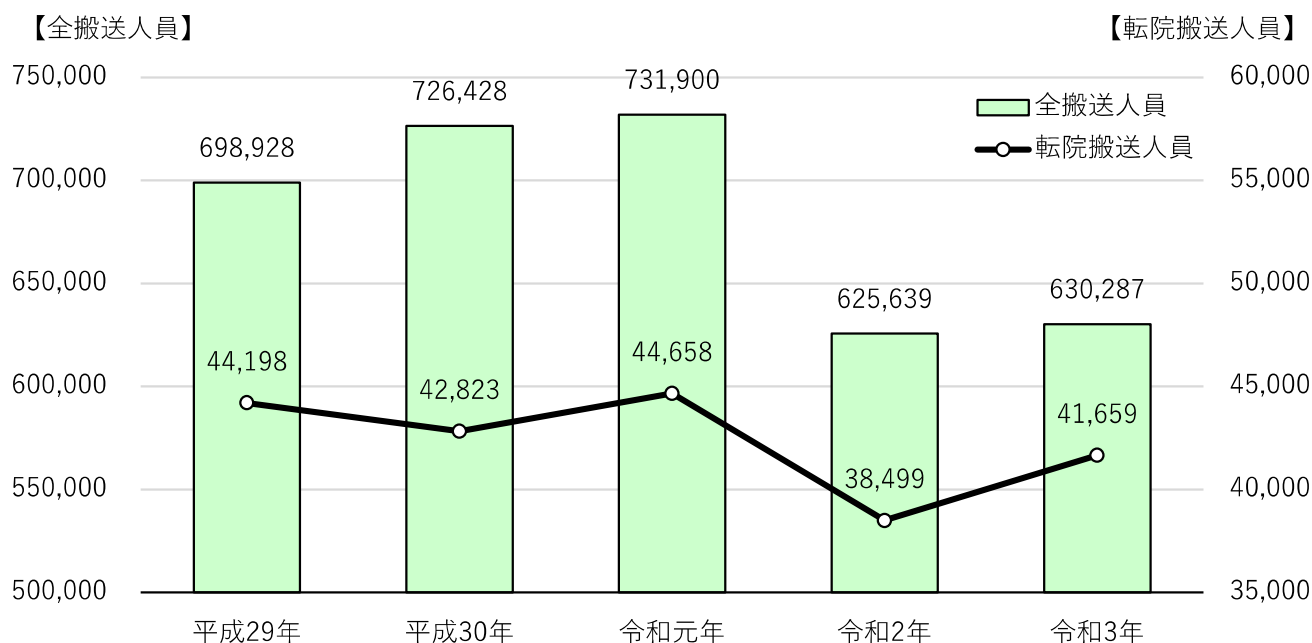
#### ア 転院搬送推移

転院搬送人員数は、全搬送人員に対して約6%の比率を推移しています。

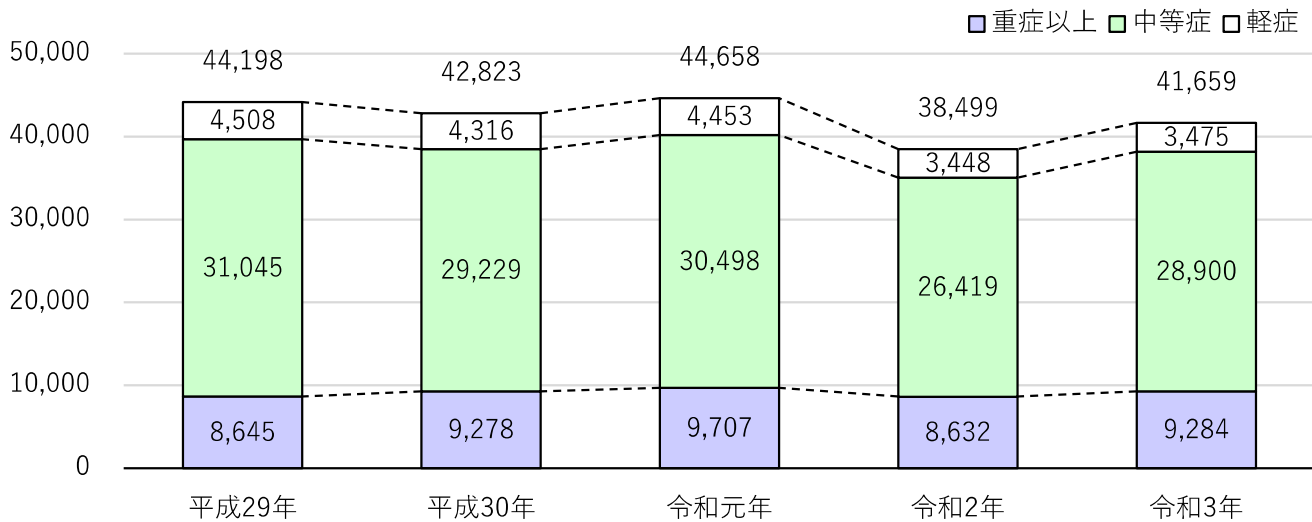
図表 2-4-62 転院搬送人員の対前年比・性別・初診時程度別推移

		平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
全搬送人員		698,928	726,428	731,900	625,639	630,287
転院搬送人員		44,198	42,823	44,658	38,499	41,659
全搬送人員に対する比率		6.3%	5.9%	6.1%	6.2%	6.6%
対前年比		+ 981 + 2.3%	- 1,375 - 3.1%	+ 1,835 + 4.3%	- 6,159 - 13.8%	+ 3,160 + 8.2%
性別	男性	22,351	22,699	23,766	20,734	22,496
	女性	20,847	20,124	20,892	17,765	19,163
初診時程度構成比 (%)	重症以上	8,645 19.6%	9,278 21.7%	9,707 21.7%	8,632 22.4%	9,284 22.3%
		中等症	31,045 70.2%	29,229 68.3%	30,498 68.3%	26,419 68.6%
	軽症	4,508 10.2%	4,316 10.1%	4,453 10.0%	3,448 9.0%	3,475 8.3%

図表 2-4-63 全搬送人員と転院搬送人員の推移



図表 2-4-64 転院搬送の初診時程度別推移



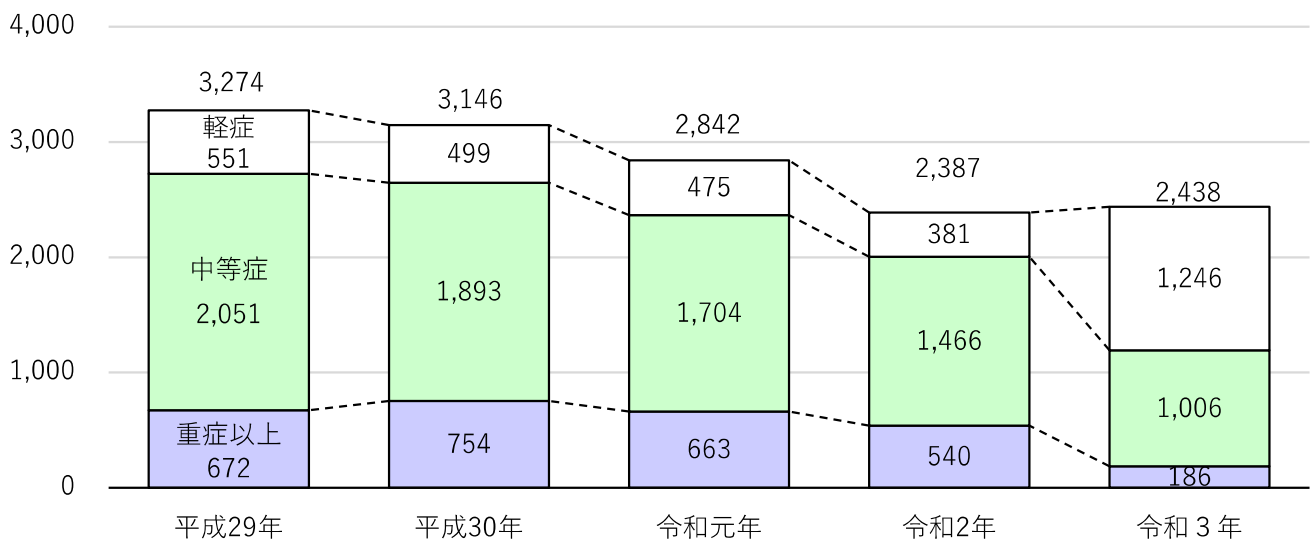
イ 転送推移

転送事案は全搬送人員に対して1%未満の比率を推移しています。

図表 2-4-65 転送人員の対前年比・転送回数・初診時程度別推移

		平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
全搬送人員		698,928	726,428	731,900	625,639	630,287
全転送人員		3,274	3,146	2,842	2,387	2,438
全搬送人員に対する比率		0.5%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%
対前年比		- 148 - 4.3%	- 128 - 3.9%	- 304 - 9.7%	- 455 - 16.0%	+ 51 + 2.1%
転送回数	1 回	3,264	3,134	2,826	2,382	2,432
	2 回	10	12	16	5	6
	3 回以上	0	0	0	0	0
初診時程度構成比(%)	重症以上	672	754	663	540	186
		20.5%	24.0%	23.3%	22.6%	7.6%
	中等症	2,051	1,893	1,704	1,466	1,006
		62.6%	60.2%	60.0%	61.4%	41.3%
軽症	551	499	475	381	1,246	
		16.8%	15.9%	16.7%	16.0%	51.1%

図表 2-4-66 転送人員の初診時程度別推移



## (3) 転院搬送及び転送の理由

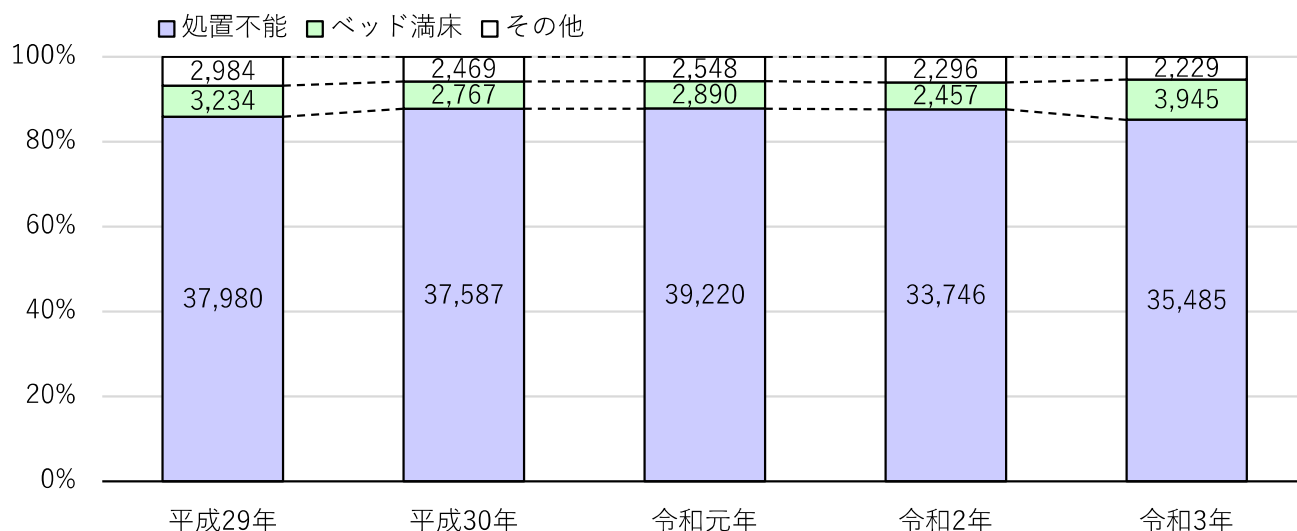
## ア 転院搬送

転院搬送要請の理由のうち「処置不能」によるものが毎年8割以上を占めています。

図表 2-4-67 主な転院搬送要請理由別の搬送人員及び対前年比

	平成 29 年		平成 30 年		令和元年		令和 2 年		令和 3 年		
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	
全転院搬送人員	44,198	+2.3%	42,823	-3.1%	44,658	+4.3%	38,499	-13.8%	41,659	+8.2%	
ベッド満床	搬送人員	3,234	-17.2%	2,767	-14.4%	2,890	+4.4%	2,457	-15.0%	3,945	+60.6%
	構成比	7.3%	-1.7%	6.5%	-0.8%	6.5%	±0.0%	6.4%	-0.1%	9.5%	+3.1%
処置不能	搬送人員	37,980	+5.6%	37,587	-1.0%	39,220	+4.3%	33,746	-14.0%	35,485	+5.2%
	構成比	85.9%	+2.7%	87.8%	+1.9%	87.8%	+0.1%	87.7%	-0.1%	85.2%	-2.5%
その他	搬送人員	2,984	-10.6%	2,469	-17.3%	2,548	+3.2%	2,296	-9.9%	2,229	-2.9%
	構成比	6.8%	-0.9%	5.8%	-1.0%	5.7%	-0.1%	6.0%	-0.3%	5.4%	-0.6%

図表 2-4-68 主な転院搬送要請理由別搬送人員の推移



## イ 転送

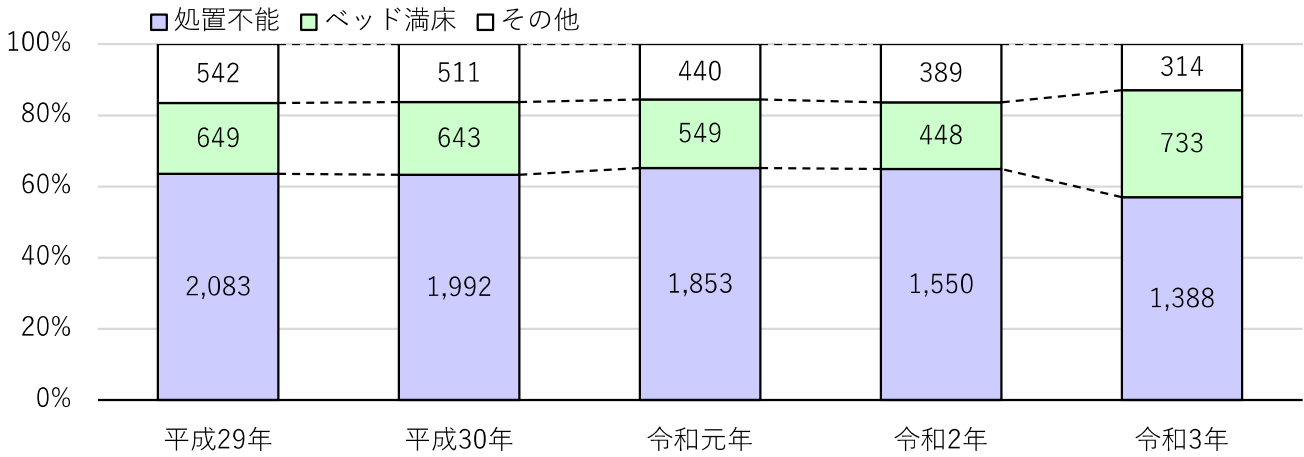
転送の理由のうち「処置不能」によるものが毎年5割以上を占めています。

図表 2-4-69 主な転送理由別の転送回数及び対前年比の推移

	平成 29 年		平成 30 年		令和元年		令和 2 年		令和 3 年		
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	
全転送回数	3,274	-4.9%	3,146	-3.9%	2,842	-9.7%	2,387	-16.0%	2,435	2.0%	
処置不能	転送回数	2,083	-7.4%	1,992	-4.4%	1,853	-7.0%	1,550	-16.4%	1,388	-10.5%
	構成比	63.6%	-1.7%	63.3%	-0.3%	65.2%	1.9%	65.0%	-0.2%	57.0%	-8.0%
ベッド満床	転送回数	649	5.5%	643	-0.9%	549	-14.6%	448	-18.4%	733	63.6%
	構成比	19.8%	2.0%	20.4%	0.6%	19.3%	-1.1%	18.8%	-0.5%	30.1%	11.3%
医療機関 個別事情	転送回数	43	-17.3%	39	-9%	29	-25.6%	40	37.9%	26	-35.0%
	構成比	1.3%	-0.2%	1.2%	-0.1%	1.0%	-0.2%	1.7%	0.7%	1.1%	-0.6%
医師他院 搬送指示	転送回数	453	-2.4%	425	-6.2%	378	-11.1%	315	-16.7%	260	-17.5%
	構成比	13.8%	0.4%	13.5%	-0.3%	13.3%	-0.2%	13.2%	-0.1%	10.7%	-2.5%
傷病者 個別事情	転送回数	28	-26.3%	37	32.1%	21	-43.2%	23	9.5%	18	-21.7%
	構成比	0.9%	-0.2%	1.2%	0.3%	0.7%	-0.4%	1.0%	0.3%	0.7%	-0.3%
その他	転送回数	18	-25.0%	10	-44.4%	12	20.0%	11	-8.3%	10	-9.1%
	構成比	0.5%	-0.1%	0.3%	-0.2%	0.4%	0.1%	0.5%	0.1%	0.4%	-0.1%



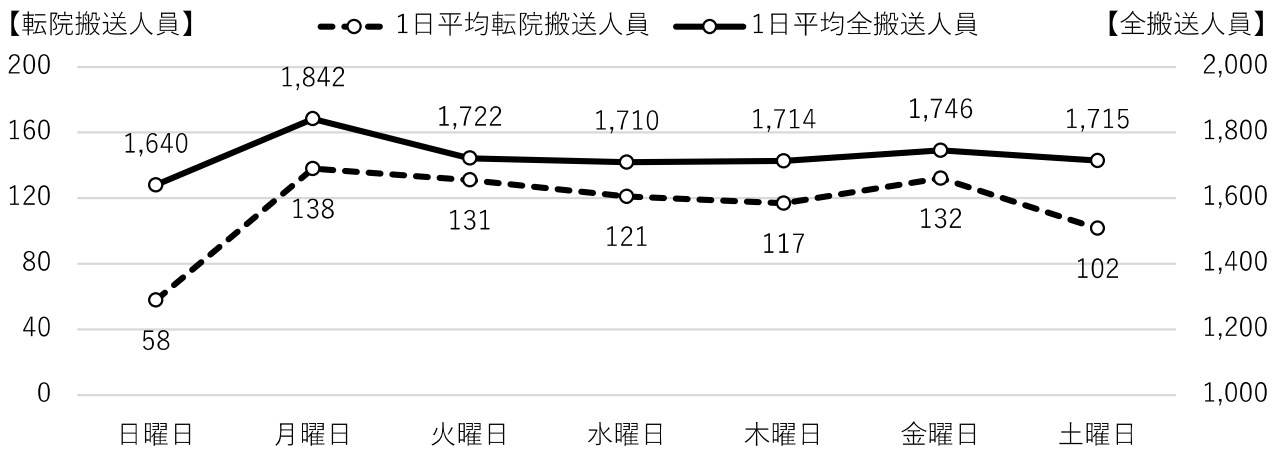
図表 2-4-70 主な転送理由別搬送人員の推移



(4) 曜日別

転院搬送は土曜日、日曜日に要請が少ない傾向となっており、特に日曜日は平日の半数以下となっています。

図表 2-4-71 曜日別 1日平均転院搬送人員

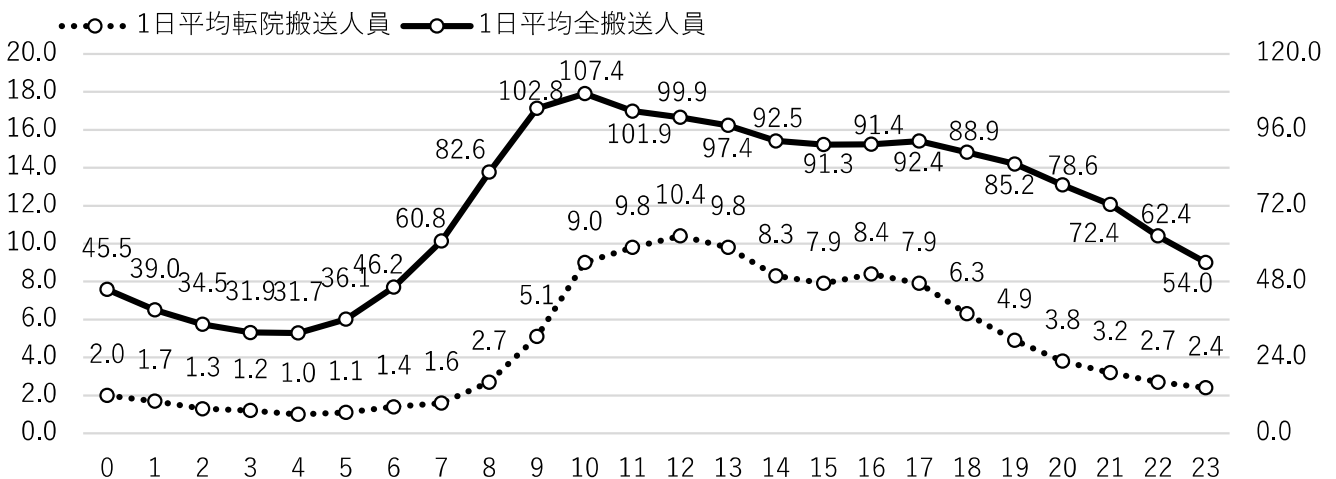


(5) 時間帯別

ア 総数

転院搬送は、10時をピークとして、医療機関の通常の診療時間帯に搬送人員が多いことがわかります。

図表 2-4-72 時間帯別 1日平均転院搬送人員

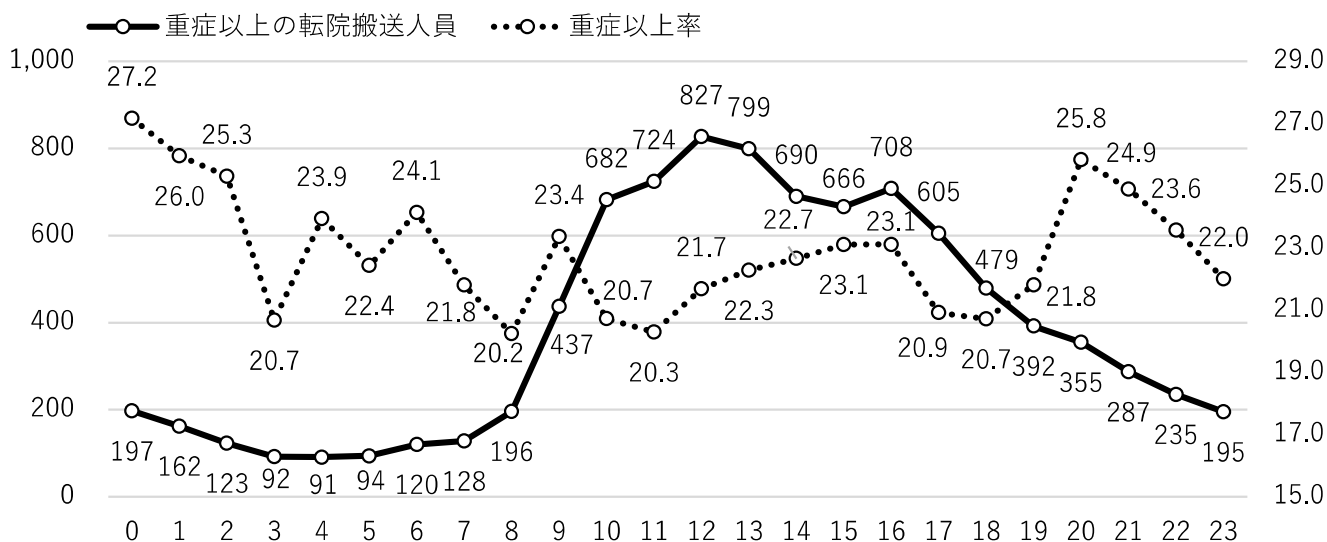


### イ 時間帯別、初診時程度別の比率

各時間帯の搬送人員を初診時程度別の構成比で見ると、重症以上の傷病者の比率は、夜遅くに割合が多くなっていることが伺えます。

これは、全体的に転院搬送は医療機関の通常の診療時間帯に行われているのに対して、重症以上の傷病者は、緊急的な医療上の理由等により、時間帯を問わず転院搬送されていることを示唆していると言えます。

図表 2-4-73 時間帯別転院搬送人員の重症比率

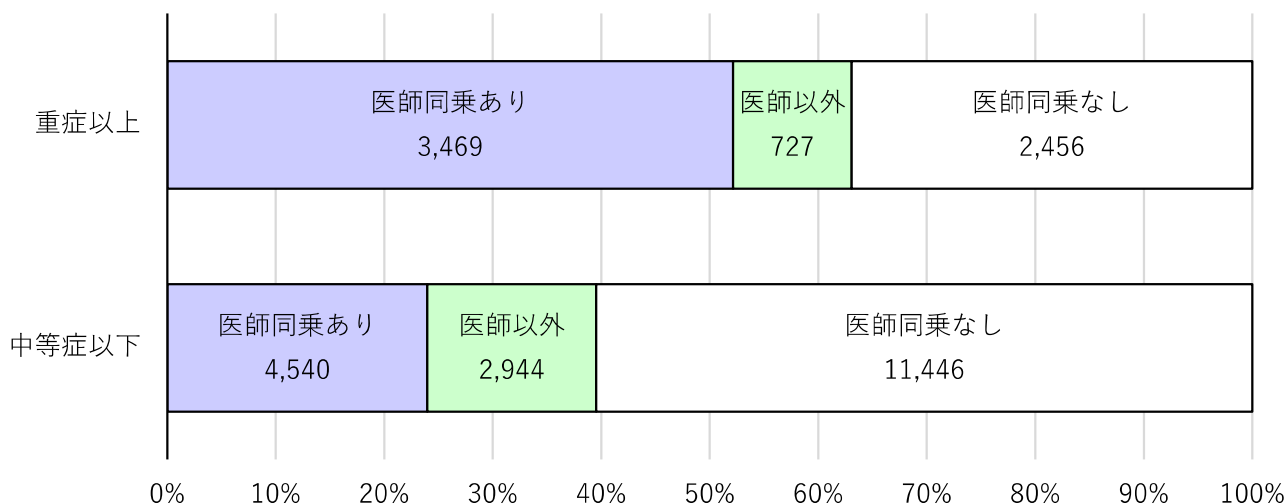


### (6) 同乗者等 (医師等)

東京消防庁救急業務等に関する規程第 43 条第 2 項において、「転院搬送を行う場合は、当該医療機関の医師を同乗させるものとする。ただし、医師が同乗による病状管理の必要がないと認め、かつ、搬送途上における相当な措置を講じた場合は、この限りではない。」としています。

病状管理が必要となる目安として、傷病者の初診時程度が重症以上及び中等症以下の場合にデータを区分し、医師の同乗比率を分析した結果は次のとおりで、重症以上の 5 割強に医師が同乗していることがわかります。

図表 2-4-74 転院搬送の医師等同乗比率



## 13 医師搬送・資器材等輸送

### (1) 統計上の処理

#### ア 医師搬送

医師搬送とは、救急現場において傷病者に医師による医療行為が必要となった場合等に、救急隊により医師を救急現場に搬送することを指します。

#### イ 資器材等輸送

資器材等輸送とは、医薬品、医療用資器材、救急資器材等を救急隊により医療機関等に搬送することを指します。

資器材等の他に傷病者を搬送している場合は、資器材輸送には該当せず、当該傷病者の救急事故に応じた事故種別の出場件数、救護人員等に計上されます。

また、助産所からの要請により、保育器と同時に周産期医療施設等の医師を搬送する場合は、資器材等輸送（保育器）に計上しています。

### (2) 推移

平成29年から令和3年の医師搬送・救急資器材等輸送件数は次のとおりです。

図表 2-4-75 医師搬送・資器材等輸送件数の推移

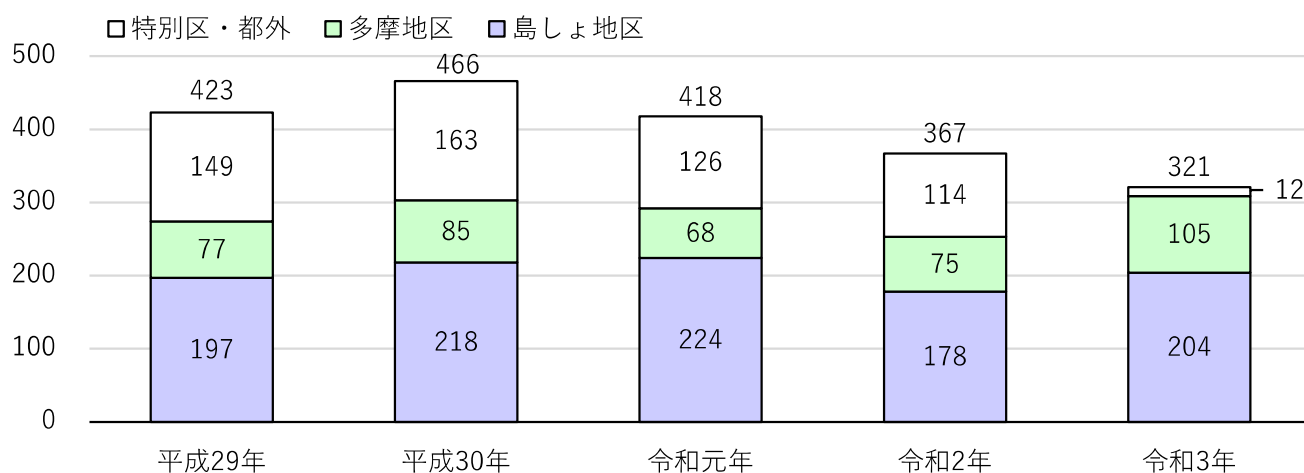
	医師搬送	資器材等輸送							
		資器材計	保育器	救急隊員	切断肢	臓器	医療機器	医薬品等	その他
平成29年	190	542	503	21	2	11	3	-	2
平成30年	210	546	495	36	-	10	1	1	3
令和元年	211	556	501	38	2	10	-	-	5
令和2年	160	770	680	78	1	4	2	-	5
令和3年	181	820	746	63	-	1	5	-	5

## 14 回転翼航空機による救急活動

回転翼航空機による救急出場件数及び初診時程度別搬送人員の推移は次のとおりです。初診時程度別では重症以上が約52.2%を占めています。

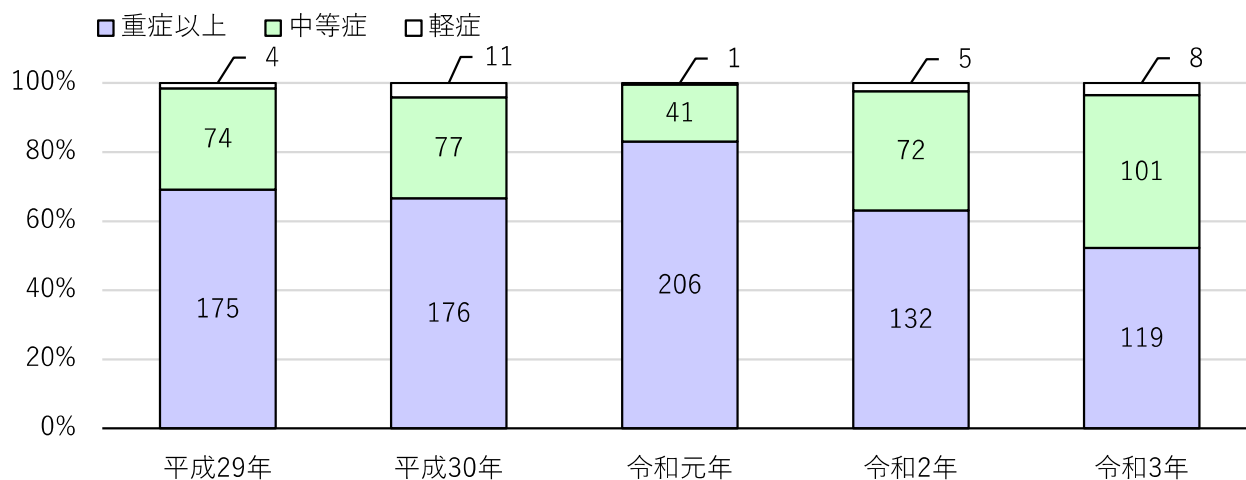
図表 2-4-76 回転翼航空機の救急出場件数の推移

	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
島しょ地区	197	218	224	178	204
多摩地区	77	85	68	75	105
特別区・都外	149	163	126	114	12
合計	423	466	418	367	321



図表 2-4-77 回転翼航空機の初診時程度別搬送人員の推移

初診時程度	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年
軽症	4	11	1	5	8
中等症	74	77	41	72	101
重症	131	144	124	98	93
重篤	41	30	75	26	19
死亡	3	2	7	8	7
合計	253	264	248	209	228
最終的に病院へ搬送した人員	100	100	86	84	91



## 15 【トピックス】新型コロナウイルス感染症陽性者への対応

新型コロナウイルス感染症陽性者から119番通報があった場合等に対応した傷病者数等については次のとおりです。

### (1) 月別新型コロナウイルス感染症傷病者数（搬送・不搬送内訳）

令和2年及び令和3年における月別傷病者数の搬送・不搬送の内訳は次のとおりです。令和2年6月、令和3年8月において不搬送が搬送を上回りました。

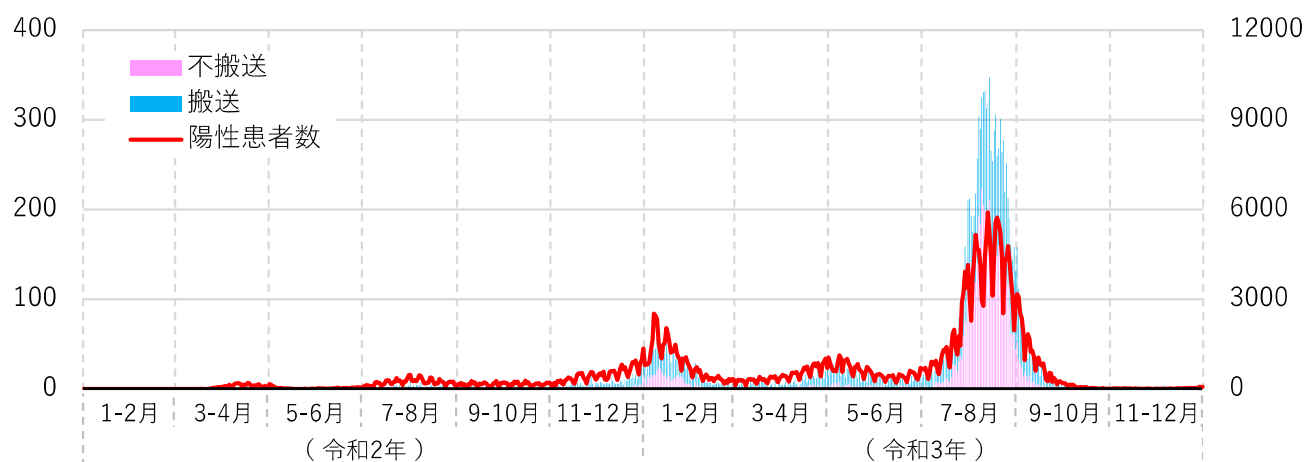
※ 不搬送とは、救急隊が現場に到着後、保健所判断で自宅療養継続となったもの等。

図表 2-4-78 新型コロナウイルス感染症都内新規陽性者数及び傷病者数（月別、搬送・不搬送内訳）

	令和2年				令和3年			
	陽性者※	搬送	不搬送	総計	陽性者※	搬送	不搬送	総計
1月	3	-	-	-	40,367	731	405	1,136
2月	34	-	-	-	10,997	206	45	251
3月	489	2	-	2	9,310	156	23	179
4月	3,748	27	16	43	18,075	287	55	342
5月	957	13	-	13	21,871	527	107	634
6月	994	1	2	3	12,977	267	53	320
7月	6,464	38	12	50	44,448	1,006	635	1,641
8月	8,125	67	18	85	129,193	3,398	4,366	7,764
9月	4,918	29	13	42	31,929	818	273	1,091
10月	5,350	61	9	70	2,134	44	6	50
11月	9,861	117	24	141	542	17	-	17
12月	19,369	271	69	340	905	20	4	24
合計	60,312	626	163	789	322,748	7,477	5,972	13,449

【搬送・不搬送 / 日】

【陽性者 / 日】



※ 陽性者は、新型コロナウイルス感染症陽性者を表し、公表日を基準に算出しています。

※ 陽性者の各数値は「東京都\_新型コロナウイルス陽性患者発表詳細」（東京都福祉保健局発表）を引用しています。

※ 搬送者数及び不搬送者数は、令和2年3月28日以降の数値を計上しています。

## (2) 新型コロナウイルス感染症陽性者の程度別搬送人員

令和2年及び令和3年の新型コロナウイルス感染症陽性者の程度別搬送人員は次のとおりです。

図表 2-4-79 新型コロナウイルス感染症搬送人員（程度別）

	令和2年	令和3年
重症以上	210	1,774
中等症	361	4,942
軽症	55	761
合計	626	7,477

## (3) 新型コロナウイルス感染症搬送人員（年齢層別、性別）

令和2年及び令和3年の年齢層別、性別搬送人員は次のとおりです。

図表 2-4-80 新型コロナウイルス感染症搬送人員（年齢層別、性別）

	令和2年			令和3年		
	男性	女性	総計	男性	女性	総計
0-2歳	3	-	3	21	14	35
3-5歳	-	1	1	10	4	14
6-14歳	-	-	-	14	14	28
15-19歳	1	-	1	22	38	60
20-29歳	19	17	36	314	226	540
30-39歳	26	19	45	670	286	956
40-49歳	49	14	63	1,117	330	1,447
50-59歳	76	23	99	1,327	493	1,820
60-64歳	33	12	45	445	156	601
65-69歳	42	9	51	245	88	333
70-74歳	49	14	63	296	121	417
75歳以上	119	100	219	581	645	1,226
高齢者計	210	123	333	1,122	854	1,976
合計	417	209	626	5,062	2,415	7,477